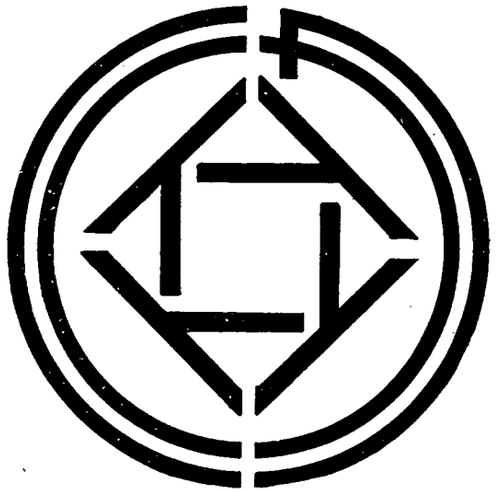
資料第一号

昭和四十三年三月

石狩町年表

金田稔

北海道石狩町
石狩町史編集委員会



石狩町章

大正九年、当時の町役場助役藤田鉄太郎氏がつくつたもの

円の中央は片仮名のイを四つ組合せ〝イシ〟とし、まわりの右側は片仮名の〝カ〟の変型左側は片仮名の〝リ〟からなつている。

石狩町年表正誤表

ページ	行	誤	正
2	7	1.5年2月の 札幌県 と上下の □ の連絡線がない	札幌県 と上下それぞれ連絡の線を引く
	17	親船町9町3村戸長役場	親船町外9町3村戸長役場
	24	札幌郡役所合併	札幌郡役所に合併
3	下から 4	道関係分現在の 北海道 と下の 札幌市 と 上川支庁(旭川)	北海道 と 札幌 の線を消し、上川支庁(旭川) と結ぶ、
14	上から 4	一九	九
15	後から 1	場所を請負え。	場所を請負え、(次頁に続く)
20	9	江戸木材本町	江戸本材木町
24	1	篠津	篠路
	20	幕府・南部・津軽の	幕府、南部・津軽の
27	12	下谷三味線小川	下谷三味線堀小川
	後から 3	治水の治め	治水の始め
32	5	臨幸を仰ぐべし」	臨幸を仰ぐべし」と言う。
33	後から 5	北海道開拓使	開拓使
38	6	大政官布告	太政官布告
42	17	青野氏外により	青野外より
43	後から 1	管理局を設置し	管理局を設置。
45	後から 3	北越植民社	北越殖民社
46	9	河工改修計画	河口改修計画
47	15	竹中興衛門	竹中与衛門
49	1	国家「君が代」	国歌「君が代」
51	2	創成川沿、道路、	創成川沿道路、
52	4	水産補修学校	水産補習学校
52	4	はじめての補修学校	はじめての補習学校
52	16	六代 安場保和 1 九月	六代 安場保和 九月
53	1	大豊漁をあげ一般に	大豊漁をあげ、これより一般に
55	8	生振〇線	生振三線

ページ	行	誤	正
	10	(一〜四まで単級)	(一〜四年まで単級)
56	2	水産補修学校	水産補習学校
59	17	組合長 中川寅蔵 一月 十一月	組合長 中川寅蔵 十一月
62	12	石狩町西部購買販売組合	石狩町西部販売組合
〃		(組合長 猪俣松蔵)	(組合長 橋本賢弘)
〃	16	石狩町東部販売組合	石狩東部販売組合
〃		(組合長 鳥羽熊三郎)	(組合長 安孫子庄七)
63	12	石狩町信用販売購買組合	石狩町信用販売組合
〃		(組合長 平野寅吉)	(理事 丸山辰六外二名)
64	11	(町村牧場	町村牧場
66	11	馬車鉄道軌道徹去	全文削除
67	9	生振酪農組合設立(十五年?)	全文削除
68	8	雪印乳業会社石狩工場	サツラク酪農㈱石狩コールド・ステーション
69	後から 8	設立明治三十九年九月	設立明治四十三年九月
70	5〜6	小学校と改称。昇格。	小学校と改称、昇格。
〃	11	世界一周として	世界一周をして
73	9	石狩四隻(吉田	石狩四隻出漁(吉田
74	1	石狩町信用購買販売組合	石狩町信用販売組合
〃	16	十二月二十五日	十二月二十六日
76	3〜4	津波襲来。漁船	津波襲来、漁船
〃	14	札幌警察所	札幌警察署
78	18	「メ 高 橋	「刈 高 橋
84	9	農地調整	農業調整
〃	10	石狩川内水面(サケ流し網	石狩川内水面サケ漁業(流し網
〃	11	海(建網	海面サケ漁業(建網
87	6	札幌・留萌線	全文削除
91	3	北海道炭鉱所	北海道探鉱所
〃	後から 1	四・四粁に	四粁に
99	5	記念式典(社会福祉・・・・	記念式典(於て社会福祉・・・
〃	8	木材関係団体、石狩湾	木材関係団体による石狩湾

石狩町章

大正九年、当時の町役場助役藤田鉄太郎がつくつたもの

円の中央は片仮名のイを四つ組合せ〃イシ〃とし、まわりの右側は片仮名の〃カ〃の変型、左側は片仮名の〃リ〃からなつている。

編集にあたつて

一、この年表は石狩の名が知られた当時から昭和四十三年（一九六八年）二月現在までに至る石狩町の歩みを中心としてとりあげ、それぞれの時代、特に道や周辺市町村との関係を知るための重要な出来事を簡略にとりあげました。

二、公文書、記録などによつたことは、できるだけ資史料を生かしたい意向のため記事配列上一貫しない点がありますが、町史編集調査員の取材や、教材としての便を考えた為で機会があれば整理してゆく方針です。

三、明治初期以降については年によつて精粗が多いですが、取材上の色々の制約の為で、記事が少い年は、大事な出来事が少いということではありませんので、今後研究調査を重ねると共に、多くの方のご協力によつて内容を豊富にしてゆきたいと願つております。

四、多くの場合、資料の出所をあげておりませんので、利用される場合、不便と思いますが、次の機会にはできるだけ明示するよう努めたいと思つています。

五、重要事項についての索引、文章の統一、度量衡の統一、近隣市町村との関連、重要統計の記載など希望は多くありますが、あとがきの理由等により発刊をいそぐ関係上、省略したことを残念に思います。

六、年月日は明治五年（一八七二年）までは旧暦・同年十二月三日（この日を明治六年一月一日とした）以後は新暦によつています。

七、この年表中に史実の誤りや、大事な出来事の脱落等があるのにお気づきの節は石狩町役場内石狩町史編集委員会事務局の編者にご連絡、ご教示いただければ幸いに存じます。

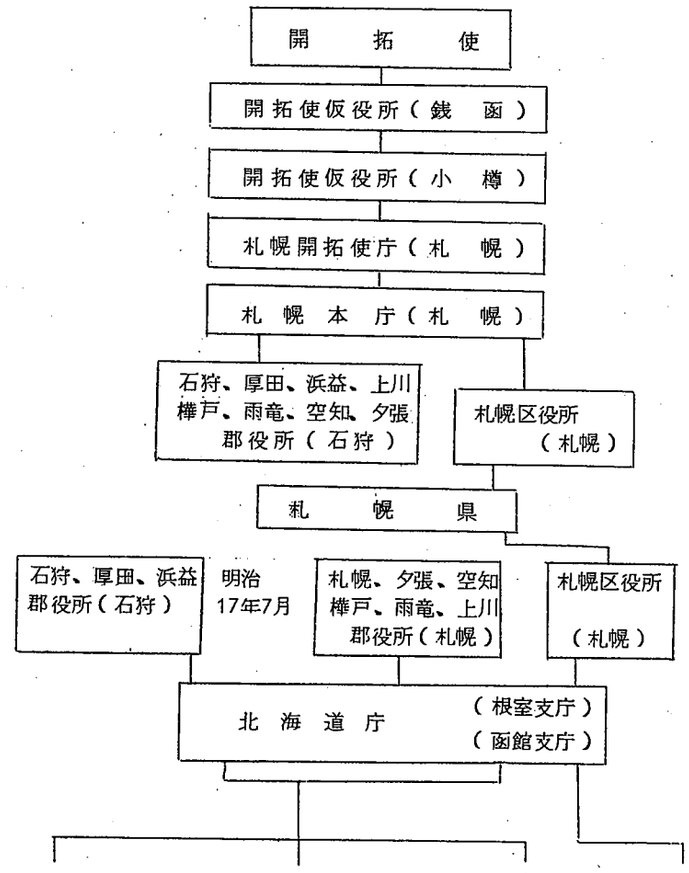
（編集者　田中　実）

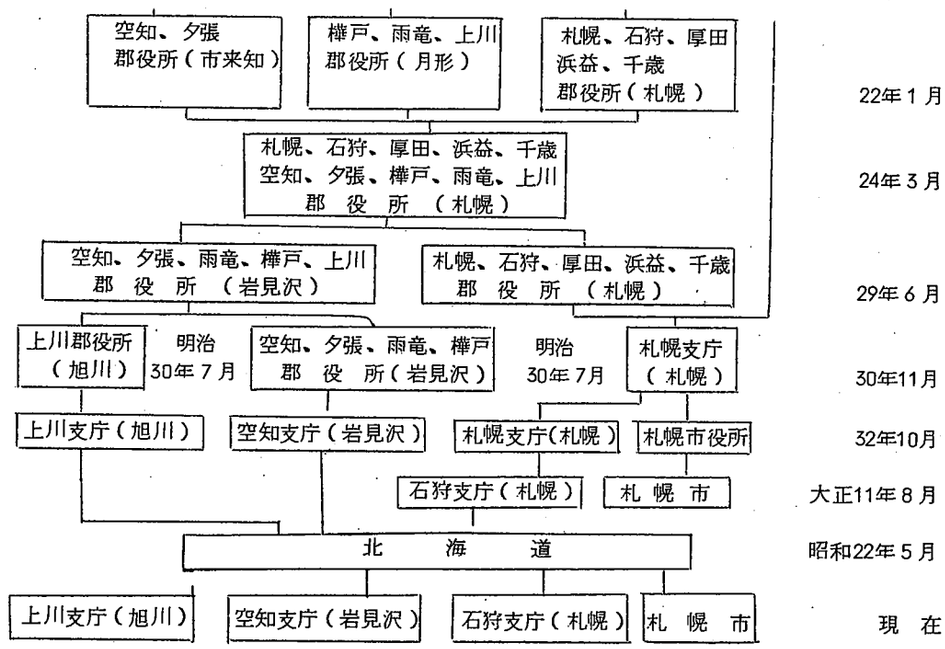
行政機構の変遷一覧表

（石狩町分）

明治２年７月　開拓使石狩出張所
２年８月20日　兵部省支配
３年１月　開拓使
４年　開拓使石狩出張所
（若生町）
５月　花畔村開村
生振村開村
９月18日　石狩街を１０町に分ける。
親船町　船場町
弁天町　横町
本町　仲町　新町
浜町　若生町　八幡町
８年２月　本庁民事局派出所
９年４月　石狩分署
11年１月　札幌本庁直轄
13年３月　石狩郡役所（船場町）
15年　親船町９町３村戸長役場（親船町）
15年　樽川村開村
17年７月　石狩郡役場直轄
（戸長役場廃止）
18年　高岡部落開村
19年11月　石狩郡役所（親船町）
22年１月29日　石狩郡役所廃止
札幌郡役所合併
戸長役場設置
35年４月１日　親船町外９町 ─ 合併 石狩町
生振村 ─
花畔村 ─ 花川村
樽川村 ─
二級町村制実施
石狩町、花川村組合
戸長役場設置
40年　石狩町 ─ 合併 石狩町
花川村 ─
一級町村制実施

（道関係分）





（注）　町関係以外は
「北海道市町村行政区便覧」
北海道自治協会より抜萃

石狩町の地名

石狩……本道の代表的地名でもあるが、その意味は一定していない。山田秀三氏によると知里博士も「判らない」といわれたという。従来あつた意見を列記してみると次のとおりである。

(1) 「イ」とは「イシヤム」のことで無為ということ。「シカリ」はふさがるということで、此の川筋屈曲して先が見えない故に名付けたと、土人がいつている（松浦武四郎の説）

(2) 「エシカリ」つまるの語。（知里博士「人体篇」より）

(3) 「イシカリ」閉塞・便秘の語。（バチェラー博士辞典より）

(4) 「イシカラベツ」回流川の意。石狩川口の辺、川脈最も屈曲回流して川上塞るが如し、故に名付く。これは「バニウングル」（中川の人）の説なり。（永田方正の説）

(5) 「イシカラベツ」イシは美しくカラは作る。美しく作りたる川の意。太古コタン・カラ・カムイ（国作神）おや指にて大地を画し此の川を作り給ひたり。故に名付く。ベニウングル（上川の人）のいう。（永田方正の説）

(6) 「イシカリベツ」曲河、シカリは廻り行く。または河を塞ぐなり。（バチェラー博士）

(7) 「イシカリ」という地名も疑問の地名の一つであるが現在は「非常に屈曲した川」という意味だといわれている。（更科源蔵）

一、石狩川左岸地区

花畔……

(1) バナ・ウンクル・ヤソッケ　川下人の漁場の意。夕張の土人がこのように名付けたという。元来河北に於て夕張土人の漁場であつたが、明治四年五月河南の地名とし、花畔村と称す。今、「バンナグロ」というのは誤り。（永田方正）

(2) バンナグロはアイヌ語のバナウンクルで、川下の人の意で、昔石狩川の川下の部落と、現在の神居古潭から上流の部落があつて、川下の人々は鯱や鮫を部落の守神にする海の族であり、川上の人々は熊を守神にする山の族であつて、こつちをベナウンクル（川上人）と呼び、互いに仲良くくらしていた。この川下人の集落が現在の花畔で、バナウンクル・

コタン（川下人の村落）と呼んでいたのが略されたものである。（更科源蔵）

(3) まだ請負場所のあつた徳川時代の石狩川漁場の図には、現在の花畔のある左岸（(1)のいう河南の地）にはその地名がなく、対岸に「下ハナンクロ半兵衛」少しさかのぼつて「上ハナンクロ伝次郎・久右ェ門」と書いてある。これから見ると、この地名がまだ対岸にあつた時代には、原音に近い「ばなんぐろ」位の音で呼ばれていたのであつて、それに花畔と当字されたとしても無理ではない。明治四年、岩村判官がこの字で村名を定めたのだと伝えられるが、当時は未だ「ン」の音が、はつきり今の「ばんなぐろ」にまで固定していなかつたのではなかろうか。（山田秀三）

ヤウスバ……　矢臼場、ヤは網、ウシは場、網引き場であつたので、アイヌ語のヤウシバにあてたもの（更科源蔵）

テイネ……(1)　テイネイ、濡るゝ処（漁夫川に入り腰まで濡れて網を引きたるによつて名付く、但し近来の名にして古名にあらずという（永田方正）

(2)　テイネ、アイヌ語で、どろどろした湿地をいう言葉。（更科源蔵）

堀　神……(1)　ホルカモイ　却流湾（永田方正）……注　石狩川右岸の側に記載している。

(2)　ホルカは後戻りする意、この場合は河が曲つて、上流が海の方角になつているという意味であつたか、或いは海水が逆流してくるという意味か、そのどちらかであろう。又、モイ（湾）は海のように広くて緩流する河曲の事である。モイは海辺の入江を云うだけで無く、大川のこんな地形にも使われる（山田秀三）

注　現在は大字浜町字堀神で石狩川のさけ捕獲場の附近をいうが、古い地図によると石狩市街から、石狩川の第一河曲の辺までをいつていたようだ。

浜　中……　オタノシキ。砂浜の中ほどの意味。

マクンベツ……　後背の川（一名ウェンベツ）、即ち石狩川の旧川。（永田方正）

モシンレップ……(1)　沖島（石狩河口に在る島なり）。（永田方正）

(2)　川の中の小島や海中の島をいうのが多い。（更科源蔵）

オタピリ……　沙川の渦流（永田方正）

志　美……　シビシビウシ（トタヂの多い処）（仝　右）

ウッナイ……　ウドナイ・脇川（ヤチ川で本川の脇に在るから名付けた）（永田方正）

茨戸太……　パラ・ト「広い沼」の意。茨戸川の川口なのでパラト・ブト（山田秀三）

分部越……　フムベオマイ・鯨ある処（寄鯨のあつた処）（永田方正）

樽　川……　小樽内川の略された地名で、現在の小樽の地名もここにあつた場所を、現在の小樽市内に移したために、場所の名と一緒に地名までが移住してしまい、小樽内が樽川になつた。（更科源蔵）

親船町・船場町・弁天町・横町・本町・仲町・新町・浜町（左岸）、若生町・八幡町（右岸）……

この十町は明治四年（一八七一年）戸籍改めのため町名をつける必要が生じ、田中権小主典が石狩町と唱してよいかを伺い出、九月十八日開拓使の許可を得た。また同日付で石狩市街の両岸を十町に区分する許可も得た。命名者は、名主・岩田甚兵衛、百姓代・土田宇兵衛である。

古い町政要覧等にはアイヌ語からとつた名とあるが、後述の若生町を除いては、和名であり、八幡町は、八幡神社の所在地であつたことから名付けられ、左岸の八町は交易のあつた府県の町名を参考につけられたものと思われる。（田　中　実）

二、石狩川右岸地区

美登位……(1)　ピトイ、小石多い処（石狩アイヌは泥土の小塊石を「ピツ」という）（永田方正）

(2)　ピツは小石、トイは土で、粘盤岩の石のある川をいうのかと思う。（更科源蔵）

生　振……(1)　他の丘（また次の丘とも訳す）（永田方正）

(2)　アイヌ語のオヤフルに漢字を当てたもので、川尻の丘という意味で、旧石狩川（茨戸川）が大きく曲つている内に、盛り土のように東から西南にのびている丘につけられた地名である。（更科源蔵）

若　生……(1)　水多い処（川水浅いが水の増減がない、このため名付けたという）（永田方正）

(2)　アイヌ語のワツカ・オイに漢字をあてたもので、飲水のある所という意味であり、この付近は小川のない所だが、若生の所にきれいな水の小川があるのでそれに名付けたものである。（更科源蔵）

来　札……　ライは死ぬ、サツは乾くの意。たぶんこの下に何か言葉があつたと思われるが分らない。死んで干あがつた（川）と考えられる。（藤村久和）

この地名は明治初期につけられたもので明治三年頃にはまだなかつた。明治八年、開拓使地理課作成の「北海道石狩川図」にのつているのが最初と思われる。（田中　実）

俊　別……　シユン・ベツ・油（を含んでいる）川と考えられる。この川上に有名な石狩油田があつた。（藤村久和）

シララトカリ……　シラル・ト・カリの略で、岩礁の手前のところという意味。こゝを流れる川を知津狩川とかく。（藤村久和）

高　岡……　この地区は明治十八年八月（一八八五年）山口団体の移住により拓かれたが、標高二十メートル、傾斜二度の高台地で石狩平野最西端の東北部に続いているので名付けられたと思う。（田中　実）

五ノ沢・八ノ沢・九ノ沢……何れも知津狩川の支流であつた小沢につけられた名で、明治中期の地図には上流にむかつて一ノ橋から九ノ橋まで九つの橋が知津狩川に架けてあつたことが分り、それぞれ同名の沢が左右に分岐していた。（田中　実）

石狩町の先史時代概要

北海道の先史文化は突然北海道の地に生れたのではなく、周囲の各地方からやつてきた人々の定着とともにはじまつたものと考えられます。そして長い間、自然環境や周囲の文化の影響を受けながら、幾千年の移り変りを経て今日の文化にひきつがれてきました。これらの文化が、いつ頃はじめて北海道にきたかということは、その時代の人達が残してくれた文化遺産、即ち遺跡・遺物によつて判断しますが、専門家の研究によりますと、現在まで発見されているものでは、今から約一万五千年前といわれています。

ではどのような経路をとつて最初の文化が北海道にやつてきたのか。またその後どのような方面からの影響があつたかということを知るには、その主な交通路を知る必要があります。

先縄文文化または先土器文化といわれる本道最古の文化が栄えた頃の北海道は、地質時代からみると第四紀洪積世のウルム氷期にあたる頃で、気候が今よりずつと寒冷で海水面は現在より三十メートル以上も降下しておつたことから、おそらくアジア大陸の北方と陸続きであつたと思われます。従つて北海道にはじめてやつてきた人々は、北方から南下してきた獲物を追いながら、この地に居を構えだんだんとその範囲を広げていつたものと考えられます。

この為、昭和二十八年頃白滝・樽岸（寿都）で発見され、その後全道約五十ケ所に及ぶこの時代の遺跡は、本州ではみられない北方文化的な要素をうけたものが多く、大陸文化の一環として存在したものと考えられます。

この文化が次第に進み、沖積世の初期（今から約一万年位前）になると、北海道の気候は暖かくなり、海進が行なわれて大陸とは海峡によつてさえぎられ、島国となつたが、この頃はじめて土器を使用した文化、即ち縄文文化または土器文化といわれる文化が始まりました。そしてこの文化の初期（今から八千年位前）頃には本道の南西部・中央部及び東部では、かなり異つた生活文化が始まり、この現象は多少の変動はあつてもその後約六千年位続くという本州とは異つた形で発達し、北筒文化・オホーツク文化など北方の大陸系の特異な文化や、本州の弥生式土器文化とは違つた形の続縄文文化・擦文文化を形成させました。

ではこれら北海道の先史文化の変遷のなかで私達の郷土、石狩町の先史文化はどうであつたかというと、約一万年位前は、石狩から苫小牧を結ぶいわゆる石狩低地帯は、海峡またはこれに近いものが存在し、本道を二分しておつた為、その文化の接点の一つとして、南部と北部との文化的境界となつていました。

この時代は高岡段丘地の周縁附近が海岸線であり、今の花畔や生振の平野はすべて海の中にありました。従つてまだ発見されていませんが高岡・五ノ沢の丘陵地帯に先縄文文化時代の人々が住んでいた可能性は十分考えられ、今後の研究調査が期待されます。

そして、今から八千年位前から石狩低地帯は千才附近を中心としてゆるやかな地盤の上昇が起り、それに続き恵庭岳・樽前山等の火山活動が始まり、噴出された多量の火山灰は、この海峡を埋め、遂に南部と北部を陸続きにし、文化の交流を生じさせたのです。そしてこれと併行して最後の海進がはじまり、その最盛期（今から約五～六千年前）には古石狩湾といわれる江別・当別のなお奥までの深い湾を形造りました。

従つて聚富や高岡の丘陵地周縁は、現在の札幌・江別の高台地と同様、海岸に面しており、多くの入江に富み、魚貝類も豊富で生活には好適の地であつた為、今から約六千年前から、人々が住居を構えました。これを示す遺跡は高岡地区にも多く特に縄文文化中期の石狩高岡式縄文土器と命名されている今から約五千年前の土器が多く発見され、遺物として手持石杵・石錘・石槍・石環・石斧・石鏃・石小刀などが編者の調査でも二十ケ所近くに豊富に散布しています。この文化は円筒式土器文化といわれ、本州から北上してきた南方系の文化で土器の雄大さと、文様に表現された芸術的雅味は優れており、なかには本道でまだ数ケ所でしか発見されていない特異の文様のものもあり、石狩に栄えた文化は生活が豊かで程度も高かつたことが十分うかがわれます。またこの文化の系統は町内の紅葉山砂丘、生振上台等からも発見されており、約二千年近く続いたものと思います。

これと同じ時期に北方系の地方色の濃い北筒式土器文化が石狩にも入りました。この遺物も高岡で発見されており、前記の円筒式土器文化の出土地と近距離であることから、二つの大きな文化圏の接点であつたことがうかがわれます。またこの時代の末期に、本道の主として中央鄂に発達した余市式土器文化の遺物も高岡・花畔で発見されていますが、この土器は、おそらく北筒式土器の漸新型と考えられるといわれています。

この後最後の海進は終り、今から二千五百～三千年前には今の紅葉山砂丘の西北部（海岸向き）が停止線となり、こゝに海岸砂丘が形成されました。現在紅葉山から生振上台、美登位の砂丘につゞくこの砂丘は旧砂丘といわれ、地質学上貴重なものです。

そして奥地にとり残された海は湖や沼となり、こうした場所が今の泥炭地となつたのです。

海の後退とともに、先住民は次第に高台から低地へと下つて生活範囲を拡大してゆきました。そして今から三～四千年前には生活文化を一層向上させた野幌式土器文化が発達し、石狩町と旧手稲町境界附近の紅葉山砂丘の西南端からは、昭和二十九年大場博士・石川氏等によつてすぐれた遺跡が発掘され、一部には手稲式土器ともいわれるものも含んで形態の分化が著るしく、また文様も多彩な完全土器を数多く出土し

ました。この土器は高岡引野坂下の水田や、中生振等からも発見されております。

野幌式土器文化は漸進して亀ケ岡土器文化に移行しますが、土器の製作技術は高度に達し形態も変化に富み、文様は多彩で精巧なものです。遺物は石棒・魚形石器などが新たに加わり、骨角器も多く、また装身具の玉や、土偶も多くつくられたことが注目されます。この時代の遺跡は、耕北農場・中生振低地、さらに高岡地区では高台周縁部から約一千メートル余、海岸寄りの聚富川周辺に広範囲な住居跡（竪穴群）などが確認されております。特記されることは、高岡地区の遺跡からは、亀ケ岡土器文化が道南部で栄えた頃、北半部に行なわれた前北式土器文化の影響を多く受けた土器や竪穴が試掘によって認められており、今後の本格的な調査の結果がまたれます。

その後、東北地方を除いた本州の大部分が、水稲栽培に生活の基礎をおく、弥生式文化に交替した頃、北海道はその地理的条件からまだ農耕技術の進出ができず、従って本州では縄文文化が終息しても、北海道ではなお縄文文化の伝統が持続されました。

この時代、北海道の北東部を根拠地とした後北式土器文化は石狩町にも進出し、紅葉山砂丘・ヤウスバ・高岡低地・生振低地・樽川等から多くの遺跡が発見されております。（今から一～二千年前頃のもの）

また厚田村聚富とこれにつゞく高岡の一部からは、今から二千年位前の（釧路）緑ケ丘式土器も発見されております。

また昨年九月、藤本氏・峰山氏等により町内最初の正式な発掘が行なわれた紅葉山砂丘の南六線防風林附近の遺跡から南部の沿海部に発達した恵山式土器（亀ケ岡式土器の退化形ともいわれる）文化（今から約千二百年～二千年前）の墳墓や石器・土器などが発見されましたが、日本海沿岸で墳墓が発見されたのは珍らしく、恵山式土器文化の北限ではないかといわれております。この貴重な発見により、本年度は道の協力も得て、本格的な調査が継続されることになっています。なおこの土器と思われるものが高岡低地からも破片で発見されております。

これらに引続いて、今から一千年位前の擦文式土器文化や北大式土器文化の土器も生振・若生町等で見つけられており、更にアイヌ文化期の遺跡が大曲・中生振等にあり、アイヌの人骨・田代（なた）・装身具の玉などが出土しております。

これらのことから数千年の長い間、石狩町には多くの人々が生活の火を燃やし続けてきたことが分ると共に、私達の郷土石狩町は、先史時代から歴史時代に至るまで本道の南部と北部との文化の進出地、交流地として重要な役割を果してきたところであることを知ることができます。

なお、生活用具に使われた石器の原料である黒燿石は十勝・白滝・赤井川方面から運搬され、その他は厚田海岸や川の転石などを使用しておつたことが分つており、土器作成の粘土は高岡地区と、石狩川縁や発寒川縁のものと思われ、遺跡もこの周辺に多いことは興味深いものがあります。

最後に、私達はこの貴重な文化遺産を正しく評価し、それの保存と、研究調査に一層努力すべきだと思います。何故ならこれらの人々の生活を知ることは、私達自身を知ることだからです。

附　記…この先史時代概要は昭和三十三年発行の「石狩町年表」の記事をもととしましたが、研究成果の著るしいその後の十年の結果をとり入れ、全面的な改訂を加えました。

なおこれをまとめるのに次の文献を多く参考にさせていただきましたことを深くお礼申し上げます。

北海道教育委員会「北海道文化財」（四埋蔵文化財）。　河出書房「日本の考古学」（一巻・二巻）　千歳市「千歳遺跡」

北海道地学教育連絡会「北海道の化石」、毎日新聞社「祖先のあゆみ北海道展」（解説書）。

石狩町の歴史時代

時代	日本	北海道	西暦	年号	当時の首長 北海道	当時の首長 町	国道関係史	町関係史
室町時代		安東氏時代	1454	享徳三	安東忠季			
平安時代		安東氏時代以前	1189	文治五	不明			
飛鳥時代			659	〃五			阿部比羅夫再び蝦夷を討ち郡領を後方羊蹄（しりばようてい）において帰る。（所在不明）	斉明天皇六年、阿部比羅夫が陸奥の蝦夷を船にのせて大河の側に到り、渡島の蝦夷を助けて、粛慎（シヘ）を討ったという。この大河が石狩川（或は黒竜江）の知られた始まりといわれる。
			658	斉明四			阿部比羅夫船師百八十艘をひきい蝦夷を討つ。	
							安東氏蝦夷管領となり津軽に鎮まる。藤原泰衡の一族、部下と共に蝦夷島に逃れ福山等に上陸。渡党といい、和人の本道に移住した初めとする。	
							安東政季南部よりのがれ蝦夷島に入る。	

江戸時代						安土、桃山時代	
松前氏時代							
1666	1665	1661	1641	1635	1596～1614	1599	1590
〃六	〃五	寛文元年	寛永一八	寛永一二	慶長年間	慶長四	天正一八
		九代 高広	八代 氏広	七代 公広		松前慶広	五代 蛎崎慶広
蛎崎慶広、安東氏に無断で秀吉に謁し蝦夷島主を以て待遇され、安東氏より独立する。							
蛎崎慶広、大阪で徳川家康に謁し、引続き蝦夷島主となり松前姓に改める。							
			松前藩、石狩・厚田、増毛の各場所を区画設定。				
松前藩の命により村上掃部左衛門、本道をめぐり、地図を作成。			石狩川が広く世に知られたのは、上記の報告の結果と思われる。「いしかり・えそ多くあり」とある。				
			七月三日、松前左衛門広諶、石狩、シノッ並びに腐栖場を藩主より賜わる。				
		松前藩、家臣吉田作兵衛に海路蝦夷全道をめぐらせ地図を作成させる。これを「新御国絵図」といい、この地図にイシカリも記されている。					
僧円空来り所々に参籠し仏像を納める							
図作							

江戸時代			
松前氏時代			
1667	1669	1670	1680	1683
寛文七	〃一九	延宝〇	延宝八	天和三
広矩十代				

近江人西川伝右衛門、高島、忍路、両場所を選定して請負う。

野沢談庵「蝦夷記」によると、松前から石狩まで陸路歩行八～九日、海路船で六～七日の行程であるという。シブチャリの酋長、シャクシャインの反乱。

津軽藩隠密牧只右衛門秘かに蝦夷地の状況を探るため忍路に来る。聞取書に「サツポロ」の名現わる。

越後の魚網はじめて松前に入る。

凶作

初代村山伝兵衛（能登国甲部屋村に生まれる。）

石狩アイヌの大酋長ハウカセ、（雨竜川口地点に根拠地）部下を集め石狩河口七里の地点に砦を構え、河口にはヨウタインという酋長をおき、河口に小屋三百を作り手勢約千名、武器も整い、松前藩の交易条件の改善に備えたが松前藩これを敢めず。

日本海岸は増毛、太平洋岸は白糠日高の酋長シャクシャイン松前藩に叛き、日本海岸太までのアイヌ呼応する。（当時、石狩アイヌの大酋長ハウカセは日本海岸太樽から宗谷まで勢力をもち沿岸二十五の酋長の盟主であつた。部下を弾きつれ尻深（岩内）まで行つたが余市の同族の反対により、石狩に帰り松前藩と交戦せず。）

牧只右衛門の聞取書によれば「石狩川港口広さ二〇〇間、深さ七尋、川上に入ると十三尋の所もある。川岸の高さ八～九尺、竹や木繁茂、アイヌ人約一千人とある。この頃松前の商船は今の当別太附近までのぼり、アイヌとの交易をしていた。」

松前藩、ハウカセの勢力を恐れ通詞を各酋長に遣わし、償いを入れさせて、従来のように交易することを約しハウカセこれに応じた。

江戸時代							
松前氏時代							
1687	1688	1689	1694	1700	1702	1704	1706
貞享四	元禄元年	〃二	〃七	〃一三	〃一五	宝永元年	〃三
広矩十代							

六月、水戸藩の快風丸福山に来り石狩まで北上し探険。（快風丸・長さ四十八・六メートル、巾十六・二メートル、櫓の数四十丁、帆柱の高さ三十二メートル、船頭崎山市内）

徳川光圀ば快風丸を石狩に派遣し、六月二十一日石狩に到る。留ること四十日余、塩引一万本、その他干鮭、熊皮等を積載し、八月帰帆した。一行中の深谷萩右衛門石狩川を三日間さかのぼり探険。

藩主の命により、松前主水広時（村上系松前家五代）石狩に船を出す。

戸切地（現上磯町）に新田を試作、新米を藩主に献ずる。

松前家臣山下伴左衛門、石狩川秋味上乗役として石狩に来り弁天社（厳島神社）の設立を願出、白鳥若宮太夫始めて弁天社の神体、神号等勧請。

全道地図及び郷帖二冊を幕府に提出

この年頃村山伝兵衛・島松・漁・札幌・樺戸など）に九家臣の支配所を設定している。（石狩十三場所の始めか？）

蝦夷福山（松前）に来る。

松前島郷帖に蝦夷地「いしかり」とある。

この年の「松前家臣支配所持名前」によると石狩河口より奥地（江別、夕張石狩場所知行主、高橋浅右衛門

初代飛弾屋久兵衛

松前に渡り尻別山えぞ、ひのき伐採を請負う。

村山伝兵衛（当初は伝太夫という）初めて石狩で網を用いて鮭をとる。

村山伝兵衛、留萌・宗谷の場所を請負う

松前藩、石狩、厚田、益毛（浜益）場所を開き鮭漁業を経営。

村山伝兵衛、石狩地方場所を請負う。

江戸時代

松前氏時代

1737	1727	1724	1722	1719	1717	1715	1713	1706
元文二	〃一二	〃九	〃七	〃四	享保二	〃五	正徳三	宝永三
十一代 邦広			十代 矩広					

	後、請負い場所数ヶ所に及んだので、石狩場所を手配元締として、支配の根拠地とした。「八月二十四日、石狩船上乗船頭水主空中に光り物をみる。竜の如くなり」と「松前歳々記」にある。
	六月五日、和田嘉右衛門重治（和田家五代）、石狩上乗を蒙り、小判拾両を賜わる。
	鈴木源兵衛重久、石狩勤番を仰付けられる。三月十四日石狩で病死。
	幕府の命により石狩川の蝶鮫（菊とじ鮫）を献上。
飛弾屋久兵衛、蝦夷檜山を臼山にひらく。	
福山問屋株十五軒を許可	
八月大風あり船八十余隻破壊	
	石狩川鮭凶漁、大飢饉を生じ蝦夷餓死者約二百人に及ぶ。
	石狩の蝦夷招かれ初めて福山に行く。
飛弾屋、尻別山の伐木を行なう。	石狩河口より奥地の鮭場所知行主九名（松前家臣）

江戸時代

松前氏時代

1758	1757	1755	1753	1752	1751	1739
〃八	〃七	〃五	〃三	〃二	宝暦元 寛永三	〃四
十二代 資広					十一代 邦広	

	七月、樽前山大噴火
	樽前山の火山灰石狩の一部に降る。「北海随筆」に「イシカリ川口広さ一里ばかり。常に水多くして増減の時なし、川端に蝦夷住居して松前商人も行所なり」とある。
	村山伝兵衛、屋号を阿部屋と称す。（持船、彦之丸・彦重丸・常久丸・慈眼丸等）
	飛弾国湯島村の人武川久兵衛、石狩山林（漁岳附近）の伐木を出願、五年から毎年伐採高三千石、運上金六百両として九年間の請負切換で開始。伐木は石狩河口に木場を設けここから移出した。販路は江戸・大阪。この年頃久兵衛、石狩から豊平川沿いに定山渓中山峠をこえて虻田方面に通行。「石狩山伐木地図」の石狩河口に、山方運上屋、木場、弁財天など記されている。
	三代飛弾屋久兵衛、石狩十二場所を下請けする（各場所は松前藩慈の知行地であつたが、松前大黒屋茂右衛門が三場所を支配し蓬来屋忠左衛門が八場所を支配し一場所を仮支配していた）。石狩十三場所知行主十二名、運上金二百八十六両（但し石狩河口は含まず）
	飛弾屋久兵衛、石狩山えぞひのき伐採を開始。
四月十八日初代村山伝兵衛七十五才で死す。	三月五日、初代西川定右衛門石狩上乗仰せ付けられる。
	この年書かれたと思われる「津軽紀聞」に「石狩・大川有・千石積の舟何十艘通路此所は十里四方に山なし能き所なり、此川上むかしより鬼神すむよし川にある鮭多く石狩魚として日本へ渡る」とある。

江戸時代			
松前氏時代			
1759	宝暦九	三代村山伝兵衛（二十二才）問屋株を手に入れ福山問屋の一人となる。	
?	宝暦年間		石狩元場所一ケ年鮭産額　百八十五万尾（三万七千石）
1766	明和三	南部嘉右衛門、飛弾屋久兵衛、石狩山林請負のことで訴証となる。	松前監物広長（村上系松前家八代）石狩に於て塩蔵鮭を許される。
1769	〃六	飛弾屋久兵衛石狩山伐木をやめ松前藩直営となる。	
1771	〃八	松前藩直営の名儀をもつて江戸伊藤久右衛門（四日市の人新宮屋という）石狩山の伐木を始める。（十ケ年契約年間伐木高一万石、運上金一年一千二百五十両）	
1774	安永三	飛弾屋久兵衛、藩債の代償としてエトモ他三ケ場所を請負う。（二十年間の契約）	「安永三甲午年正月吉日奉納千秋丸水主中」の手洗鉢　弁天社に寄進される。（現在金竜寺境内にある）
十三代道広			
十二代資広			

江戸時代			
松前氏時代			
1775	〃四	三代村山伝兵衛、飛弾屋請負の宗谷場所を下請けする。	
1779	〃八		夏、西蝦夷に天然痘流行、翌年に及ぶ。石狩地方最も甚だしく夷人死者六百四十七人。（「松前家記」による）
安永年間			石狩十三場所知行主十二名（但し石狩場所（石狩川下流・海浜厚田を含む）は藩主直領地）運上金二百八十六両八分（うち石狩場所は鮭四百五十両、鱒百二十五両、上乗金八両二分）
1781	天明元年		松前藩は江戸の商人小林屋宗九郎より巨額の金を借りたが返済できない為、同年より石狩場所の鮭三十六万尾づつ二十年間の交易を約束した。（石狩直領場所の一ケ年運上金を千八百両と定め内金九百両を松前藩江戸屋敷に上納残金九百両をもつて二十年間年賦で旧債を償還することにして場所を引渡した。）
1783	〃三		飛弾屋の宗谷場所請負期間二十五ケ年延長、村山伝兵衛下請けする。
1784	〃四		石狩、厚田場所は四代阿部屋伝吉（後に専八と称す）請負う。「石狩運上屋八戸、海岸里数十里余、運上屋八戸の内一戸は鮭魚一式を出し七戸は諸式を商う。総て四方へ便利の地にして相開る後は国の府とも成るべき所なり」（佐藤玄六郎「蝦夷拾遺」による。）
1785	〃五		この年飢饉江差地方にしん凶漁この後二十年以上に及ぶ。漁民追鯨と称し西蝦夷地に出漁。
十三代道広			幕府普請役山口鉄五郎、東西蝦夷地を調

江戸時代			
松前氏時代			
1790	1789	1788	1786
〃 二	寛政元年	〃 八	大明六
十三代	道広		

最上徳内、エトロフ・ウルップ島など探険。この頃、米屋の初代佐野孫兵衛松前に渡り店を開く。	査。
	石狩直領場所鱒漁本年より十ケ年江州大和屋与兵衛請負となる。石狩直領場所に含まれていた厚田村は、高橋又右ェ門の知行所となり、運上金百五十両で阿部屋伝吉（伝兵衛一族）請負う。阿部屋はこの他石狩場所のうち三場所を請負った。
	幕府より蝦夷地巡検使として派遣された古川古松軒の「東遊雑記」によると、「鮭のため大河も谷川も埋まり夷人数百人集まりても川々にのぼる鮭の十分の一もとることが出来ず、死んだ鮭は海に流れてゆく。夷人は鮭をとつて干鮭とし日本の商船のゆくのをまつて交易する」と記してある。
五月、国後と目梨の蝦夷反乱し、和人七十一人を殺害	江戸木材木町小林店喜兵衛、石狩弁天社に手洗鉢を寄進。（奥州大畑で製作したもの）現在石狩八幡神社に在る。
八月、松前藩、飛弾屋久兵衛の宗谷他三場所の請負を免じ藩直営とし、村山伝兵衛に差配を命ずる。	
村山伝兵衛、カラフト場所請負及び斜里場所差配となる。松前地方の漁民、栖原角兵衛・村山伝兵衛の追放を藩に強訴。	

江戸時代			
松前氏時代			
1796	1792	1791	
〃 八	〃 四	〃 三	
十四代	章広	四月 十三代	道広

幕府普請役最上徳内ら蝦夷地に入る（二回目）村山伝兵衛、カラフトに渡り積極的経営に着手。このころ伝兵衛の請負場所三十五場所に及ぶ。	
松前地方大暴風、このため村山伝兵衛持船など二十二隻を失う。ロシヤ使節ラックスマン通商を求めて根室に来航。	二月、幕府普請役来り、石狩、宗谷等に夷救済交易をする（鮭仕込）幕府の御用船石狩場所にも入る。串原峯著「蝦夷俗語」によれば「石狩川川端、石狩の浜辺、川口甚だ広く、凡そ二里ばかり……」とある。石狩十三場所のうち知行地十二場所運上金四百三十二両（直領地は小林屋請負で含まず、厚田も含まず）
小山屋権兵衛ら、運上金増加を条件に村山伝兵衛請負場所の請負替えを藩に願う。六月、村山伝兵衛、請負場所及び家屋倉庫を、松前藩に没収される。伊達林右衛門、栖原半助、村山嘉衛門の三名、増毛場所を請負い後伊達一人となり、	村山伝兵衛が天明八年（一七八八年）より請負つていた石狩山伐木（年間伐木高五千石、運上金六百五十両）は同家の没落により廃絶。

江戸時代

第一次幕府直轄時代		松前氏時代		
蝦夷地御用掛				
1800	1799	1798	1797	
〃 一二	〃 一一	〃 一〇	寛政九	
松平忠明、羽太正養、三橋成方 石川忠房、大河内正寿				
東蝦夷地各漁場の請負い制を官営とし、各漁場に会所を設置。幕府松前領東蝦夷地（浦河より知床まで）を直轄とする（仮支配）。 高田屋嘉兵衛、幕府御用船頭となり、エトロフ島への試験航海に成功。	幕府勘定吟味役三橋藤右衛門ら西蝦夷地踏破のため宗谷に行った帰途、七月石狩に来り、二十五日屋根舟で石狩川をのぼり千才に向う。 従属の武藤勘蔵「蝦夷日記」に「石狩は西蝦夷第一繁昌の地にて諸国の船繁くあり」とある。 この年頃、蝦夷地鮭出高約三万六千三百石、うち石狩一万二千石。	松前藩士、高橋壮四郎外三名の調査による「松前地並西蝦夷地明細」によると、「イシカリ、水吉、当処川上場所十三ケ所ノ運上屋アリ、産物、鮭鱈、夷松、寸甫。此所フンヘ浜ト云所ニ烽火アリ。盛根十五間四方、高サ四丈、此辺寄木至テ沢山ナリ」（後略）	安政四年まで継続。	
伊能忠敬、東蝦夷地の海岸線を実測。 間宮林蔵、西蝦夷地を探検。	村山伝兵衛、松前藩より家宅・倉庫を還し与えられ、一代侍大広間格に採用、石狩鮭場所外数ケ所の直営手附を命ぜられる。 幕府勘定吟味役三橋藤右衛門、部下三名と石狩川上流に向う。 幕府、村山伝兵衛を官用取扱に起用。			
幕府、皆川周太夫に命じ虻田から豊平川の上流に出て、札幌附近を通り石狩川を下つて石狩に至る道路及び勇払・石狩間道路等の開削計画をたてたが実現に至らず。 ウライ訴願事件おこる。（文政五年（一八二二年）解決）				

江戸示代

第一次幕府直轄時代				
箱館奉行				
1806	1805	1804	1802	1801
〃 三	〃 二	文化元年	〃 二	享和元年
奉行 羽太正養	奉行 戸川安論			御用係
松平忠明ら東西に道を分け巡視	二月箱館に蝦夷奉行をおき五月箱館奉行と改称。東蝦夷地の仮支配を改め幕府直轄とした。		有珠・虻田に牧場を開設。 佐野孫兵衛、釧路場所を請負う。	箱館大火 ロシヤ軍艦、樺太久春古丹を襲い、番人以下四人を捕え、運上屋・倉庫・弁天社を焼き払う。（九月松前藩勤番役引きあげ後）　四年にはエトロフ・ウルタカ・利尻など襲う。 最上徳内、当別より茨戸に出、発寒川をさかのぼり手稲に入
松平信濃守西蝦夷地を巡回、千才越によつて石狩に出た。 一行中の磯谷則吉「蝦夷道中記」によると五月五日石狩着。		石狩の人口　千六百十三人。	西蝦夷地に天然痘大流行、アイヌ東蝦夷地に避難し、西蝦夷の人口減少す。 文化元年、通商を求めて長崎に来航のロシヤ軍艦二隻はこの年二月幕府よりことわられ、カムチヤツカに帰る途中五月七日より三日間石狩湾に留まり、この地の状況を調査した。報告書に石狩湾をストロゴノフ湾と称した。	栖原角兵衛、石狩場所（トクヒラ・ハツシヤフ・下ユーバリ・上ツイシカリ）の五場所を請負う。 幕府目付遠山金四郎（景晋）と勘定吟味役村垣左太夫（定行）西蝦夷地を巡視、四月二十日石狩に来る。この一行に最上徳内・東寧元槇も加わつており最上徳内はツイシカリで別れ、当別川を探険。 東寧元槇の「東海参譚」に「イシカリ夷百軒余、運上屋十一軒、鮭の交易二十五万〜三十万本。イシカリ川は千石余の船も岸につけられ、深さは三十〜四十尋、この川口の南北十五・六里の所は海浜に大木数万本よつており、長いものは二十〜三十尋、太さも三尋もあり、洪水のため川より流れ出たるもの云々」とある。 「遠山・村垣両蝦夷日記」には、「石狩…海路より六七町引込み、勤番屋があり、松前若狭守家来上役一人、下役二人詰めている。石狩川附の諸役所運上屋八軒。漁小屋蝦夷家も在る。石狩川巾六十間余。川上船路十日程ある。四

第一次幕府直轄時代

箱館奉行

年	月	事項
1806 文化三		り、さらに篠津から豊平川沿いに札幌方面を回る（和人が札幌原野に入つたはじめ）
1807 〃四		月二十一日出発」とあり、帰途は石狩から勇払越で太平洋岸に向つたが「六月十一日、石狩川出立、船路凡そ十四・五町川上にトクヒラ（右岸に蝦夷家三軒、鮭漁場。更に十町ばかりヤウシツハ（左岸に蝦夷家四軒、マクンベツ（川巾七・八間）　この川を抜け本川に出て六・七町、シビシビ（鮭漁小屋トリアン（エゾ家漁小屋多し）、一里ばかりで左岸にフシコベツ（川巾十間此の川筋も以前の石狩川本瀬であるとのこと）十四・五町でハッシャブ（川巾四間ばかり、ここで石狩川に落ちる）　ヤウシハ（鮭の漁場）　サッホロ（川巾十四・五間ここで石狩川に落ちる）　ピトイ（蝦夷屋三軒、鮭漁場）トウベツ（川巾四・五間（左岸）ここで石狩川に落ちる）。」と石狩川筋の様子を記している。
1808 〃五	十月	三月二十三日、西蝦夷地を収め全道を幕府直轄とする。十月、箱館奉行を改め松前奉行とする、政庁を福山におく。十一月、松前藩、陸奥国梁川に移封（九千石）。幕府・南部・津軽の藩士に蝦夷地警備を命ずる。
		六月二日、津軽藩士一行、千歳を経て石狩に来り宗谷に向う。「山崎半蔵日記」に、「六月一日、石狩・運上屋十三軒、凡そ夷地中漁の大場なり。松前藩勤番所は歴々の詰所という。三浦兵七、品川運司の二名詰合」とある。十月、幕府御小人目付、田草川伝次郎石狩に来り、日記に「元場所トクヒラ場所、請負　米屋孫兵衛、支配人儀兵衛、夷総人数八一五人」とある。運上金百七十両（トクヒラ場所）近藤重蔵この一行に加わり天塩から石狩川を探険、西蝦夷日記に「十月十日朝五時頃イシカリ出船川筋上る…」と記ある。また「蝦夷地を治めるには、石狩筋が第一の地」と報告。幕吏松田仁三郎と共に宗谷詰を命ぜられ赴任途中の幕府御雇医師館野瑞元、七月六日酉の刻石狩に泊り、七日出発、道中記に「ここに運上屋十三軒ありて蝦夷の家も数家あり、蝦夷の都会ともいうべきか、海浜を三丁はなれる」とある。
		間宮林蔵、松田伝十郎、樺太を探険。
		八月、会津藩守備隊、高津泰石狩に来る。「終北録」という日記を記す。八月二十五日、幕府砲術師・井上左衛門貫流と共に高島の警備に当つていた目付斉藤治左衛門ら石狩に来る。斉藤の「西蝦夷高島日記」に、「イシカリは蝦夷第一の大湊で運上屋十三軒並び、大小の舟入港し、シャモ、エゾまじ

第一次幕府直轄時代

松前奉行

年	月	事項
1808 〃五		つて数十軒の小屋・市があり酒屋らしい店もあり、賑しさ言うばかりなし。宿舎での食事は鮭の塩焼き・アンカケ・干鮭・カマボコ及びゴボウ・ウリ・豆等」とある。幕府、勇払川をさかのぼり、勇払沼を経て美々に上陸、陸路二里、千才に出舟で千才川・石狩川を下つて石狩に至る三十二里の道路を開く。この年頃の石狩詰役人　井上喜左衛門
1809 〃六		六月、唐太を改めて北蝦夷とする。間宮林蔵、黒龍江地方を探険し、間宮海峡を発見
1811 〃八		石狩平野人口　三千六十七人文化四年直轄となつてからの石狩詰掛場所は、南は苫小牧から北は浜益毛まで二十八場所に及んだ。
1813 〃一〇		二月、石狩場所鮭漁場請負を伊達林右衛門、栖原屋半助、阿部屋喜右衛門三名に命ずる。同十二年村山一人となり安政四年まで継続。伊達林右衛門、石狩海面鮭漁場を開き、同十年松前奉行より賞せられる。文化四年頃栖原屋は石狩場所の生鮭取扱いの請負となる。
1814 〃一一		東蝦夷の各場所請負となる。米価騰り、令して一般にカユ食させる
1815 〃一二		村山家船中代表者栖原屋半助、米屋孫兵衛、弁天社に御影石の鳥居を寄進（現在八幡神社にあり）この年頃の石狩詰役人　手嶋長左衛門
		松前唐津内町、米屋孫兵衛、柏屋善三郎他、弁天社に鰐口を寄進。
		栖原屋の請負期限十ケ年の満了により、石狩十三場所は一括して阿部屋喜右衛門請負となる。運上金秋味分二千二百五十両、十三場所運上金六百七十八両永百七十五文。松前神明社正神主白鳥伊豫、弁天社をホリカムイに遷宮。（松浦武四郎著「蝦夷年代記」によると、「十一月十二日、本田淡路守奉行石狩弁天社妙亀法鮫

第一次幕府直轄時代

十二月	22	1821	1820	1819	?	1817	1816	1815	
	〃五	〃四	〃三	文政二	文化年間	〃一四	〃一三	文化二	
	奉行 河尻春之、村垣定行、荒尾成章、小笠原正幸 服部貞勝、本多紫文、夏目信平、高橋重賢、安藤惟久								
				この頃山田文右衛門、この年石狩詰役人 長谷川仲右衛門、上原熊次郎千才越の道路開さく。					
				西蝦夷地に駅逓の制をたてる。					
	十二月七日、蝦夷地を松前章広に還し、松前奉行を廃止								
	幕府在勤に変り勤番所を設ける。また家臣の知行地制度を廃し、すべての場所は一切藩が請負人に請負わせることにした。								
有珠岳大噴火	石狩地方アイヌ戸数三百三十二戸、人口千百五十八人（男五百九十二人、女	石狩詰幕吏、吉田右十郎（石狩勤番役人）。 十二月松前藩この年より十ケ年間、石狩場所を村山伝次郎（村山家の分家、七代松前藩在勤に変り勤番所は西海岸厚田以南の全域を管轄支配。 金八郎の支配人）、石狩十三場所は村山伝四郎に請負わす。 運上金（毎年）二千九百四十二両三分・永百七十五文 外に上乗金十二両余 差荷物代二十二両三分（内十三場所分七百二十八両三分永百七十五文） この年頃村山家、銭函北東石狩川に至る間の海浜にホッキ貝を散布移植。	天然痘流行のため、村山家経済危機に陥り、官許を経て石狩場所及び十三場所を当分のうち、栖原屋茂八に任せた（名儀は村山家）					
					間宮林蔵 石狩川を調査 村山家、オタネ浜（今の樽川）に一漁場を開く。				
						石狩地方天然痘流行、文政二年に及んだ。その為石狩場所の運上金半減になる。			
							村山伝兵衛、弁天社を再興、（現在の御神体もこの時新祀されたと思われる。）		
								の社文化三年に立、今年再興ス」とある。	

松前氏復領時代

1845	1844	1839	1834	1832	1831	?	1825	18
〃二	弘化元年 〃一五	〃九	〃五	〃三	天保二	文政年間	〃八	
十六代 昌広		十年 十五代良広		四年 十四代章広				
							米価高騰、官米を払い下げ。	
				福山大火。	幕府、松前氏を一万石に列挙。			
二月、大雪のため、有珠・虻田の放牧馬九百頭凍死。 松浦武四郎、二十八才で始めて渡道、								
二月 大雪 石狩川氾濫し堤防破壊、石狩場所請負人 村山伝次郎越後から治水に長じた者十名を雇い、安政四年まで十余年間修築した（石狩川治水の治め） 「弘化二年八月水府港大内石可」作の礼拝器弁天社に寄進さる。（願主、阿部屋林太郎・梶浦五三郎・湖河長左衛門・森山弁蔵・秋田屋和次郎・番人	弁天社に稲荷像寄進さる。（願主 因藤多四郎） 十二月、西蝦夷地請負人一同が出願した大網（ざる網・起し網（建網））の使用が許可された。	下谷三味線小川幸右衛門、弁天社に石額を寄進。 石狩場所請負契約改正される。この年より七ケ年阿部屋伝次郎請負う。	一月一日、午前十時すぎ石狩地方強震、余震は二十二日まで続いた。この為会所二棟・倉庫十棟・蝦夷家二十三棟全壊。弁天社も被害をうける。	天保の大飢饉により飢民西蝦夷地に移住し始める。	場所請負契約改正され、個々の場所を廃して石狩場所の一つにまとまった。（請負人・村山家、実権は栖原家）	石狩勤番所は在住足軽の外、勤番九人をおいた。	二月九日、和田郡司、石狩勤番を命ぜられ、三月二十五日出発し、九年五月十八日帰着。 新潟住越藩文明訳書、願主松前住、宮内定右衛門「武将の図」の絵額、弁天社に寄進される。	五百六十六人）（「蝦夷雑書」による）。

松前氏復領時代

年	月	事項
1845 弘化二		以後十三年間に六度渡来中） 石狩場所請負改正、引きつゞき阿部屋伝次郎請負う。
1846 弘化三		頼三樹三郎、松前に来る。 松浦武四郎、樺太を探検。 五月及び八月　松浦武四郎石狩に来る「再航蝦夷日誌」の紀行文あり。
1849 嘉永二	二左	十六代　昌広
1853 〃六		三月十五日、有珠岳噴火
1854 安政元年		三月、神奈川条約により、幕府は箱館附近五～六里の地を松前藩に上地させて、箱館奉行をおいたが、札幌附近も再び箱館奉行の支配を受けることになる。 石狩に調役所を設け、その下に古平・小樽内あり。（石狩に調役下役をおき定、十月、米軍艦五隻同港に入る。 札幌は石狩調役下役の支配下になる（明治元年四月まで継続） 松前城落成 堀・村垣両奉行、蝦夷地屯田農兵の制をおくことを建議 六月　幕府、箱館地方を直轄し箱館奉行を設置。 二月　幕府、松前・江差地方をのぞき、東・西蝦夷地全域を直轄する。 幕府廟本五百石以下で、蝦夷地移住を望むものに在住許可 南部、仙台、松前、津軽、秋田の五藩に蝦夷地の警備を命じた。（各藩の勤番所を陣屋という） 八月、駒ケ岳大噴火 小樽、銭函間道路開削。 神威岬以北に婦女子の通行を許す。 釧路場所炭田を開く。 荒井金助の従者志村鉄市札幌豊平河畔に移住し、渡守となる。 藩府、箱館通宝を発行。 江戸からめん羊十頭を箱館に移入。
1855 〃二		石狩地方、アイヌ　二百四戸　九百三十五人 イシカリ勤番人数（物頭一人・徒士一人・医師一人・足軽イシカリ越年一人 同ウタスツ越人一人、同秋帰四人）。 イシカリ家数百六十七軒、七百五十二人（男三百五十六人、女三百九十六人） 箱館開港により、幕府は箱館附近五～六里の地を松前藩に上地させて、箱館奉行をおいたが、札幌附近も再び箱館奉行の支配を受けることになる。 石狩に調役所を設け、その下に古平・小樽内あり。（石狩に調役下役をおき 札幌は石狩調役下役の支配下になる（明治元年四月まで継続） イシカリ百六十五戸、六百七十人（男三百二十五人・女三百四十五人） 石狩場所　アイヌ給代（給料）　春鯨漁一人玄米八升（十四・四リットル） 入七俵～五俵・秋鮭漁六俵～三俵。 随学者　武田斐三郎及び平山謙二郎（のち箱館奉行の支配組頭）勇払より石狩に来り宗谷に向う。 石狩在勤足軽、亀谷丑太郎の僕、吉田茂八、札幌に入り豊平川の西側に住み猟獣を業とした。 三月、石狩詰持場は積丹より増毛までとなり、初代調役は水野一郎右衛門（

第二次幕府直轄時代

箱館奉行

年	月	事項
1855 〃二		竹内安徳、堀利熙、村垣正路、勝田充万、糟谷義明、水野忠徳、小出秀実 新藤方涼、松浦勝誠、栗本鯤、織田信発、橋本悌蔵
1856 〃三	七月	調役　水野一郎右衛門
1857 〃四		二代は長谷川儀三郎で寿都詰で石狩兼任）、下役出役飯田豊之助・同立田元三郎・同心広田八十五郎・足軽肝付七之丞・同久保欣吾 法性寺創設（明治十三年九月寺号公称） 松浦武四郎石狩に来る「竹四郎回浦日記巻十」によると、「五月六日到着、八日出立。 石狩場所人家支配内百七十軒、漁小屋川筋に十三ケ所凡そ八十軒」 ワッカヲイ・フル・ヤウシバ・シビシビウシ外三ケ所蝦夷の網引場となつた。 （地元アイヌ二百三十二人、網数四十八統）　このため請負人場所は人手不足となり、余市・高島・沙流・勇払・忍路・有珠・古平からアイヌを集め労働させた。（出稼ぎアイヌ百八十五人） この年、井上文昌謹写の絵額二枚弁天社に寄進される。 七月、老中阿部正弘の家臣石川和助ら石狩に来る。「七月十二日晴。イシカリ発船、ツイシカリ寄宿…」と「観国録」に記す。 五月、松浦武四郎石狩に来る。　「五月十一日石狩出発 石狩川を溯り、石狩川の水源を探り石狩岳に登り、閏五月二十二日石狩に帰着。」と「石狩日誌」にある。 七月、石狩調役並荒井金助赴任（御諮詢方役であつた。六年八月調役となる） 場所経営の不正乱脈を正し改革の重任に当る。 十二月二十六日、発寒開村功労者、永田休蔵・大竹鎮十郎・イシカリよりハッサムに帰る途中、小樽内川辺で大吹雪のため波にさらわれて死す。 回浦奉行、堀織部正、石狩を巡視・随行の玉虫佐太夫「請負人の土人取扱い

第二次幕府直轄時代

箱館奉行

1857

1858

安政五

糟谷義明、水野忠徳、小出秀実
橋本悌蔵

荒井金助、篠路河畔に農夫十数戸を入地させて一村を開く。（荒井村という）
また、厚田村望来に農民十余戸を募集し弟蘭台にこれを管理させた。

琴似の早山清太郎、石狩役所から種籾をもらい、琴似十二軒川ふちの水田三十アールに試作、玄米百六リットル（一説には二百十六リットル）を得る（石狩地方の稲作成功の始め）

東西各地に種痘を実施。

宜しからず、厳重御沙汰に及びける」と記す。
箱館奉行村垣淡路守範正、石狩に来て石狩海岸と千才間・石狩～厚田間の新道開削を計画、石狩勤番の定役出役、飯田豊之助と、松浦武四郎に踏査を命じた。
村山伝十郎、ホシボッケ（星置）～島松間の道路を開削（道巾一・三～二メートル）幕府より銀三枚褒賞下賜される。これにより、銭函、札幌、千才間の札幌越道路開かれる。
対雁、石狩道路開削される。
三月、石狩役所在勤の足軽、松田市太郎、箱館奉行の命をうけ、石狩川をさかのぼり大雪山塊を踏破（石狩川の水源を発見、標木を建てたという）
定山坊、石狩に来り（太）太田屋に滞在、教化につとめる。
石狩に出稼ぎの上川アイヌ帰期おくれ、河川氷結して大いに困難する。

松浦武四郎、蝦夷地を探険、二月十四日石狩に到着。その日記に「札幌に府を置きなば石狩は不日にして大阪の繁昌を得べく……」とある。
幕府、石狩に勤番所を設け、石狩十三場所を統轄。
幕府、漁場元小屋を本陣とし、漁場改役所を設けて漁場取締役その他役員をおく。また各漁場に派出所を設け、漁場係員を特派し、監督を厳重にした。
種川を設け、投網を禁止し、繁殖を図る。
横山喜蔵（漁場取締役）　大西文左衛門（漁場取締役）　玉川啓吉（通辞役）
佐々木勝蔵・増川菊次郎（大帖役）、林儀平（蔵廻帖場）、田付清左衛門（勤番人頭）
四月、幕府は石狩場所村山伝次郎の請負を廃し、箱館奉行の直捌制（直接交易）とし、村山伝次郎には出稼として一部の場所を割当。（会所最寄、フンベムイ小休所前瀬、エベツフト手前の漁場）、同業者の出稼ぎ二十余人の漁業を許可した。
（箱館（与三郎）、福山（山形屋、梶浦屋）、松前（山田文右衛門、半兵衛、緑兵衛、吉五郎）、水戸大津浜（勝右衛門）、その他小樽、古平）
幕府は、石狩の御直領差配御用達に、住吉屋准兵衛、岩田屋金蔵、萬屋増蔵

第二次幕府直轄時代

箱館奉行

1859

安政六

奉行　竹内安徳、新藤方涼、堀杉利浦、樵勝誠、村栗正本、垣路鯤、勝田織充信、万発

荒井

並役調

六月、貿易のため箱館開港。西蝦夷地は支配頭・河津三郎太郎の支配となつた。
九月、幕府は蝦夷地を分割して奥州各藩の領地としたが、西の三名をあてた。
石狩の発展著るしく数十戸来住し、まもなく百余戸となり花街もできた。
この年の出稼ぎ　収納二千五百両、鮭漁獲高四十八万尾。
この年から翌年ころ、水戸の豪商梅谷の手船稲荷丸その他石狩に来り、米塩その他百貨を積入れ江戸に直接積出した。
水戸藩士生田目弥之助、石狩に来り、勝右ェ門から実情を調査した。
石狩詰調役並荒井金助は、漁場取締役大西文左衛門に命じ、山越内より馬二頭を購入し、石狩に常置した。（石狩に馬の入つた始め）
荒井金助、石狩に学館及び剣・弓・銃砲の道場をたてる。また石狩来住者に木材を貸与し、家屋を建て永住をはからせた。
荒井金助、厚田望来の海浜に石油の湧出をみ、部下を調査を当らせ山中に油田発見。
堀織部正の家来、畑山万吉等三戸石狩ワッカオイを開墾する。
ヤウスバKには金子八十八、中村兼太郎、シュップには天野伝右ェ門等二戸それぞれ入地開墾にあたつた。
石狩八幡神社設立（菊地大蔵神体を奉持し、現在の八幡町に鎮祭、神主をおく）。
石狩地蔵堂建立。
この年、石狩土人百四十四戸、五百四十三人（内帰俗二十八人）（「蝦夷日記」による。）

九月、金龍寺建立（許可明治十一年十二月二十八日、寺号公称明治三十二年十二月十八日）
調役荒井金助の議によつて、石狩役所を東岸ワカオイ（渡場）に移し、役所一棟、役宅二十戸、官庫十棟、倉庫十ケ所新築。
石狩場所は村山伝次郎一括運上金一千両、別段上納二百七十一両の請負となる。（明治維新によつて解消）
河津祐邦、勇払から石狩に入り、その発展を期待し、一首をよむ。
石狩役所足軽亀谷丑太郎、胆振・日高方面から馬四十頭以上を石狩にもち来

江戸時代	
第二次幕府直轄時代	
箱館奉行	

1866	1865	1864	1863	1862	
〃 二	慶応 元年	元治 元年	〃 三	文久 二	

竹内安徳、堀利熙、村垣正路、勝田充万、糟谷義明、水野忠徳
小出秀実、新藤方凉、松浦勝蔵、栗木鯤、織田信発、橋本悌蔵

九月・調役 荒井金助

蝦夷地では厚田、歌棄間はやはり幕府の直轄地とし、警備だけを庄内藩にまかせた。	四月、曹源寺建立（許可明治十三年十月、寺号公称明治二十九年十一月二日）。越後地方から木綿・小間物の行商人来り、明治五～六年頃に及んだ。	八月八日、津波来襲 九月、荒井金助箱館に転勤を命じられる（沖の口係） 後任の石狩詰調役梨本弥五郎（このあと明治になるまで小嶋源兵衛、樋野恵助）	六月、工事八年にして五稜郭成る。 茅沼炭田開坑	十月、小樽内場所を廃し、村並地とする	石工長兵衛、手宮洞窟を発見。 大友堀、堀さく（札幌市南三条～北六条まで）。 三月、場所請負人に令して山田文右衛門の投石昆布番殖法を

箱館奉行は石狩在勤に北蝦夷樺太クシンナイの開拓を担当させ、この年三月荒井金助は箱館奉行支配調役並出役、城六郎以下二十六名を同地に出張させ漁場を開きロシヤ人の経営に対抗させた。「石狩御直場所」の杭を川岸に打つ。荒井金助「石狩の地 他日必ず一都府となり天皇の臨幸を仰ぐべし」

荒井金助、東蝦夷地室蘭詰となる。　石狩詰調役は樋野恵助となる。

十一月二十六日、荒井金助五稜郭の濠中に落ち死す。
石狩場所農夫繰込取扱方を申渡された大友亀太郎、四月石狩に着き御手作場（官営開墾場）を札幌元村に選定した。

明治時代			江戸時代
七月 箱館裁判所及箱館府時代		四月	第二次幕府直轄時代 箱館奉行

1869	1868	1867	
〃 二	明治 元年	〃 三	

（初代）開拓使長官 鍋島直正	十九代 松前修広	（総督知事） 清水谷公考 きんなる	四月 奉行

ならわした。
三月二十日、小樽内に山火事起り、附近村落に延焼して惨状をきわめた。

徳川慶喜大政返還
王政復古

五月一日（四月二十四日）箱館府を五稜郭に開き、新政をしいた。
十月、幕軍榎本武揚ら五稜郭に入城
十月、箱館府庁を青森に移転（二年五月幕府脱走軍降伏により箱館に帰る）

四月、場所運上金の請負上納を廃して居民の直納と定めた。
七月八日、箱館府を廃し、北海道開拓使をおき、署を民部省中におく。
七月、諸藩の士族等で蝦夷地開拓を出願

箱館から石狩へロシヤ産の麦・そば・えん豆・麻の種物を送る。
石狩鮭漁獲高　百十三万五千尾
石狩の住人木村吉太郎、空知郡幌内炭鉱を発見（小樽本願寺建築材料を伐るため幾春別川に沿って入った際）
この頃の土着の土人（生振村字ヤウスバ二十二戸、シビシビウス四戸）
閏四月四日、小樽内騒動起り、四月七日石狩詰役人樋野恵助らこれを鎮める
七月、石狩役所主宰　井上弥吉（後、熊野九郎と改名）外三名、石狩役所に赴任、幕府石狩調役樋野恵助より事務引継ぎを受ける。

二月二日、政府は会津藩の降伏人を蝦夷地移住のため石狩・発寒・小樽内を軍務官に引渡すべきことを箱館府に命ずる。
七月、運上屋（本陣）制度を廃止し、石狩に開拓使石狩出張所をおいた。
八月十七日、石狩・高島・小樽の三郡を兵部省の支配地とする。
この頃から佐渡、奥羽等より移住するもの数多く、本町はすでに市街の体裁をなした。
九月二十六日和達により　場所請負制を廃止、それぞれの場所を返上させ、官捌を行なう。（石狩は安政以来幕府が請負制を改め、出稼制度をとっていた。）
札幌本府建設の物資輸送は石狩川・伏古川・大友堀を利用し搬送する。

明治時代	
開拓使時代	兵部省時代
1870	
明治三	
八月十六日	初代長官 鍋島直正

する者に土地を割渡するとの布告が出される。
八月十五日、蝦夷地を改め北海道と称し十一国八十六郡とした。
八月、北蝦夷を樺太と改称、箱館を函館と改称。
十月、島義勇、銭函に仮役所を設置し、札幌本府の経営に着手。
この年大凶作。

一月、日の丸を国旗に制定
二月、樺太開拓使を設置
四月、札幌附近に三村を開く。
四月、銭函仮役所を小樽に移し、石狩国四郡及び後志国十郡を管する。
五月、黒田清隆、開拓次官に任ずる。
九月、平民に氏名を

十二月、石狩役所兵部省）は上川アイヌに石狩郡（当別より川下へ）に移住を命じたが、総乙名クウチンクロ役所に至りこれを拒む。
石狩に出稼ぎの上川アイヌ降雪のため帰郷の途中困難する。

一月、来住野五郎治（盛忠）石狩に於て兵部省出仕を命じられた。
一月八日、兵部省の石狩、高島、小樽三郡の支配地を廃し開拓使の所轄となる。
三月、開拓使の命を受け小黒は函館より赴任、若生町官舎に於て医術開業。（石狩病院の始まり）
六月、石狩移住者の中に天然痘発生、花畔に仮小屋をつくり患者を収容。
八月、東久世長官、石狩役所を巡視。
八月十七日、米沢藩士宮島幹ら藩命による本道調査の途中、石狩に来り、十八日厚田にむけ出発。「川向人家十五・六軒、開拓使出張所あり、数内少典出張の由なり（旧幕府の人なり）」と記す。
十一月、石狩の遊女屋（越中屋中川良助）一軒、元村（今の札幌市）帝麻工場附近）に移転し営業をはじめた。札幌遊廓のはじめ（魁春楼、明治十三年十月焼失）

明治時代	
開拓使時代	
1871	
〃 四	
二代長官 東久世通禧	

町役人（名主 甚兵衛　年寄 新兵衛　百姓代 宇兵衛）

許可。
九月、東本願寺、有珠・札幌間開離着手。
閏十月九日、東京開拓使庁を廃す。
十一月、政府「移民扶助規則」を設ける。
十二月、農家五人組制をきめる。

四月、「何郡詰」の名称をやめ「何郡出張所」と改める。石狩国は石狩、厚田、浜益、小樽、忍路、余市の六出張所。
五月、開拓使庁を札幌に移す。
五月、札幌御用火事。
五月、札幌市街の道路を区劃、開削に着手
七月、廃藩置県
（注）名主、百姓代、年寄の三役を在方役人といった。名主は各村に一人で年寄、百姓代の長。

三年を限度として漁場の官捌を廃止し、出願者に貸付することにした。
此の年まで札幌に僧呂おらず、一定の墓地もないので死者あるときは、石狩の僧呂を招き葬式を営み各戸の傍に埋葬した。
開拓使、札幌、石狩間の開さく道路完成。（篠路街道？）

三月、伊達邦直（宮城県岩出山）男女約六十一名を率い郷国を出発、室蘭、千才、札幌、石狩を経て四月五日厚田村聚富に集結仮居し、八月石狩より当別に至る約二十一キロメートルの道路を開き移転を計画（五年四月当別に移る）
三月十九日、岩手県移民八十戸宮古より出発、二十三日小樽着。願乗寺に一泊し石狩に来る。バンナグロに二十戸移住（その他シノロ、円山、月寒に移住）
五月、岩村判官、騎馬にて石狩に来り当地を見分す。
五月二十五日、岩村判官、バンナグロを花畔村、オヤフルを生振村と命名。
五月七日、開拓使は札幌近隣の村落を三つに分けて、受けもたせ、勧業、教化、禁令のゆきとどくよう配置した。
五月、花畔村開村（岩手県農民三十九戸百二十九人移住）
五月、生振村開村（宮城県宮城郡、高木・松島・磯崎及び山形県米沢地方より二十九戸百二十四人移住）それぞれ土地二ヘクタールを附与される。（南部団体引率者、佐藤熊太郎、生振移住引率者米沢藩士族玉木琢蔵。）
五月、石狩道の開削に着手。（札幌元村～篠路）六年十月（篠路～花畔）

開拓使時代

1871 明治四	年寄、百姓代は名主の指揮をうけこれを補佐。 八月、樺太開拓使を北海道開拓使に合併。 八月、開拓使顧問として米国よりケプロンを招く。 内地移民、厚田村に移住。 札幌神社造営、九月竣工。 九月、陸軍少将桐野利秋、北海道を巡視して帰京、屯田兵設置を建言す。
1872 明治五	一月、戸籍簿作成。 二月、札幌創成川開削落成（旧琴似川まで） 四月、札幌開拓使庁管下の市在役人を廃し、戸長及び副戸長をおき従来の事務を継承（戸長役場の始

（二代）開拓長官　東久世通禧

町役人（名主 甚兵衛、百姓代 宇兵衛、年寄 新兵衛）

八年六月（茨戸川の南から重復して花畔まで）　十三年八月（花畔～石狩に至る。）

九月十八日、戸籍改めのため町名及び番地を付ける必要が生じ、田中権小主典は開拓使に石狩町と称してよいかを伺い立て九月十八日許可になった。これまではただ石狩とよんでいた。

九月十八日、石狩市街地を十ケ町に区分することが認可になった。

名付親は百姓代土田宇兵衛、名主岩田甚兵衛等。（親船町、船場町、弁天町、横町、本町、仲町、新町、浜町、若生町、八幡町）

伊達邦直家臣吾妻謙ら石狩の開拓使官署建築工事を請負い一千円を得る。

九月若生町に開拓出張所をおく（八年これを廃す）。

石狩諸漁場共有となる。

エ・ジ・ワルフヒールド船で石狩に来り、川巾半英里と報ずる。

明治四年頃、開拓使の大工棟梁中川源左衛門請負建築、花畔村三十三戸、生振村三十三戸。

ハンナグロ（花畔村）、マクンベツ（石狩町の内）は権少主典川辺盈徳使掌荒井直是、竹内仁造の受け持ちとなる。（篠路村・都石狩も受け持つ）

二月、開拓使は帆船安渡丸（スクーネル船二檣二屯）及び汽船石明丸（スクーネル船二檣六屯）を購入し、石狩川の運送用にあてた。（物資は篠路で揚陸、創成川で札幌に運搬）

三月、伊達　旧家臣百八十余名、石狩に到着。聚富に入る。十一月聚富の開墾地をすてて当別に移住（一部は四月に移住）

八月、開拓使顧問ケプロン・札幌で使用する製材運搬の水路調査に篠路太から石狩に来り一泊し、辛末丸で小樽経由札幌に帰る。

花畔村、戸数三十五、人口百二十六人、町開墾済耕地面積十八ヘクタール、

開拓使時代

1873 明治六	始まり）。 九月、札幌開拓使庁を札幌本庁と改め、五支庁（函館、根室、宗谷、浦河、樺太）をおく。 九月、「北海道土地売買規則」を定める。 十二月、徴兵令発布。 十二月三日、太陽暦を用い、この日をもつて六年一月一日とする。 手宮港を小樽港と改称。 郵便事務開始。 農産物の買上げを始める。 函館・札幌間の道路を開設。

長官代理　黒田清隆

石狩郡戸長　岩田甚兵衛　　石狩郡副戸長　松島金右衛門　鈴木徳右衛門

一月、官船による函館・青森間定期航路開始。

三月、ワッソマン等による三角測量開始。

六月、札幌本庁に分局を設ける（庶務、民事、会計、物産、

石狩鮭漁獲高百四十五万五千尾。

石狩病院開設（若生町より弁天町旧本陣官邸に移る。）

石川善七郎、厚田地方行商の帰途、望来海中に石油の浮かぶのを見て、土人を案内し、山中を探索し、シラッカリ川支流に於て一の油脈を発見。（起業に至らず）

開拓使は、石狩・札幌間の貨物運送にあてるハシケ船製作を木村万平に命じていたが、この年、五隻が到着、石狩、篠路太間に使用、篠路太、札幌間は丸木舟使用、木村万平は大竹作右衛門に運送を担当させた。

四月、花畔小学校（教育所）開設。

六月、石狩小学校（教育所）開設。

六月、金沢の一戸長〃林顕三〃石狩に来り「鮭猟の時期、例年二千人の寄留人を収容する」と記す。

七月、石狩諸漁場一般町民に払下げ民有となる。

九月二十七日、午後四個の旋雲筒石狩上空に現われる。

石狩川渡船賃、川巾二百二十間、人三銭・馬五銭

	1874	
明治八	明治七	

八月　長官代理　黒田清隆

	第二大区　戸長　岩田甚兵衛 〃　副戸長　鈴木徳右衛門	
五月、ケプロン、任		工業刑法・学務の七局)。 十一月、開拓使札幌本庁舎完成。 札幌本道完成。 大政官布告を以て土地名称を定め官民有別の制度をたてる。
一月一日、石狩郵便役所開設(親船町北一番地)(明治十九年三月一日石狩郵	二月八日、樽前山噴火。 二月二十八日、天塩国大地震。 二月、札幌本庁管内を大小区割に分ける。 十月、「屯田兵条令規則」発布。 十一月、東京、函館間の定期航路開く。 十二月、札幌電信局開設。 十二月、自費で新漁業を開く者に五年間の免税を定める。	明治六年頃開墾状況、花畔村四十戸、十四・六町。生振村二十九戸十三・九町。 八月一日より銭函―石狩間の駅逓里程及び賃銭は五里十一町。二十一銭一厘。 この年頃、開拓使取締の下に町民小山某石狩河口渡船事務を請負う。(私設渡船場の始) ケプロン、花畔・生振の開墾地を視察し開墾の進度のすみやかなことを黒田開拓使次官に報告する。
	一月、開拓使厚田出張所を石狩出張所に併合。 一月、石狩出張病院と改称(それまでは石狩病院) 八月、　八幡神社を八幡町より現在地に奉還した。(許可七年八月) (八年郷社と公称する。) 八月、早山清太郎、花畔村字サッナイ川から石狩原野まで約一粁・五百メートルの新道を開設(幅三・六メートル) 九月、石狩弁天社を現在地(弁天町北八)に移す。 九月、開拓使雇工師ジェームス・ワッソン、石狩川を初めて調査測量する。 (石狩河口より茨戸まで、茨戸より上流に分けて調査) 九月末、米人ルイス・ベーマル、北海道本草採集のため石狩に来る。(カイデ、小桑多しと記す。) 十月十四日、ライマン、石狩に来り、一泊、翌日小樽に向う。 十一月、浜益出張所を石狩出張所の派出所とした。 開拓使御雇教師ライマン石狩に来り「繁栄の兆あるを示す」と記す。 伊達邦直、当別村費をもつて石狩道路を開削　(後官費支出)	

	1875	1876
	明治九	

三代長官　黒田清隆

第二大区戸長　岩田甚兵衛。 第二大区小一区副戸長　田付清左衛門	総代　鈴木徳右衛門	第二大区　副戸長　田付清左衛門 〃　総代　鈴木徳右衛門
期を終えて帰国。 十月、樺太土人八百四十一人を宗谷に移し、九年七月石狩の対雁に移住させる。 十一月、樺太支庁廃止。 屯田兵始めて琴似村に移住す。 千島樺太交換条約締結。 札幌本庁、石狩諸郡に対し鹿猟器及び猟期を制限。	四月、全道大小区画を定め三六区一六六小区とし、大区に区長、小区に戸長を任命。 四月、官庁日曜全休土曜半休制実施。 六月、早山清太郎、篠路村茨戸の新川の堀割約七百メートル、同逆川の堀割約二百六十メートルを開削。 七月、明治天皇ご来	便局と改称。) 二月、石狩出張所を廃し、本庁民事局派出所をおく。 二月、出張病院の名を廃し、官立札幌病院の直轄とし石狩病院派出所と称す。 五月、石狩～小樽～篠路間開拓使汽船航路開始、弘明丸(六屯)運航。 九月には汽船豊平丸(七屯)に代えた。篠路より上流はなお丸木船を使用。 能量寺建立(仮設教所)(寺号公称明治十二年三月二十日) 早山清太郎、石狩八幡町若生御蔵脇より当別村凡四里余、幅二間の新道開削。 石狩河口市員約四百三十余メートル(大正十一年には約二百メートル) 石狩教育所(教員一名、生徒五十五名) 井尻静蔵(初代)、父半左衛門と共に石狩に来り、漁業、商業を営む。 (明治十年代石狩・厚田二郡漁業者の第一人者となる)
	一月、今まで石狩川は無税の上に漁場の境界なく、らん獲されるので、開拓使は漁場の境界線を定めて、入札させ落札者に漁業を許可した。 二月、新たに市街を区画し、十町に分け、道巾を改修八間(十四・四メートル)とした。 四月、民事局派出所を廃し、石狩分署を置く。同局派出心得をもつて事務を処理する。 (石狩郡は第二大区とし更に二小区とし区長をおき、区役所と称す。同時に区長の下に戸長、副戸長をおき町村の行政事務に当らせた) 四月、全道大小区画により、石狩は次のとおり。 開拓使第二大区一小区石狩国石狩郡札幌本庁所轄(本町、弁天町、新町、浜町、横町、仲町、船場町、親船町、花畔村) 二小区石狩国石狩郡札幌本庁所轄(若生町、八幡町、生振村)	

開拓使時代

1878	1877	
〃 一一	明治一〇	

黒田清隆

	道。八月、札幌学校を札幌農学校と改め、クラークを招く。九月、札幌に養豚場・放牧場を官設。九月、官営札幌ビール醸造所を設置。蝦夷人の苗字使用許可。	五月九日、石狩市街大火。百九十六戸を焼く（親船町三区より出火、二区より六区　八幡神社前まで延焼）。運上屋も焼失。九年頃、石狩川渡船賃（人三銭、馬五銭）九年～十年　村経済の都合により花川教育所休校。対雁村に移住した旧土人に石狩三ケ所（知津狩、来礼、シビシビウス）の鮭鱒漁場及び厚田村に三ケ所の鮭漁場を与える。七月十日、松本十郎、勇払より千歳を経て石狩に来り一泊。
六月、札幌本庁管内十七教育所を学校と改称。九月、沿海線及び三角測量図完成。九月、北海道地券発行条例を定め、土地を測量して地券を発行。巡査屯所を警察所と改める。札幌本庁トドマツ外十五種を禁伐樹種に指定。	一月、函館新聞創刊二月、河川支流に於けるさけ、ます漁業を禁止。二月、北海道国郡全	八月、開拓使石狩鮭罐詰所を設け、十月十日から製造開始（五十尾の魚を使用し始めて操業した）所長石橋俊勝　通訳出島松造九月十八日、米人技師U・S・トリート（六十六歳）、W・T・スウエット（二十五歳）を招聘、両名は米国メイン州イーストポートより来り、前者の月給五百円、後者三百円。機械は手動式でニューヨーク市で米貨三百三十ドルで購入したもの。（十二年二月七日までスウエット滞在）石狩市街大火（親船町三区より出火、四区まで延焼）。石狩に官設駅逓所を設けた。鮭漁獲高二十二万五千尾（十一月九日には一回の曳網三千尾以上とれた）この年新しく漁業を希望するものに、実施調査の上、漁場を割りあてた。町開墾済耕地面積六十ヘクタール。
		一月、石狩分署を廃し、札幌本庁の直轄とした。八月、幌内炭積出し計画樹立され、石狩河口修築のため石狩、茨戸、対雁、幌向太に測水場を設けた。十一月、石狩川大洪水。

開拓使時代

1879		
明治一二		

黒田清隆

図完成。十月、札幌に鮭卵人工孵化を試む。十月、蝦夷人を旧土人と称させる。十一月、函館大火九百五十四戸焼失。農業仮博覧会を札幌で開く。	門右衛徳木鈴　長戸副　門衛左清付田　長戸郡狩石　七月	開拓使の根室別海罐詰工場の設備完成し、石狩の米人教師を別海に移した。石狩罐詰所の製品を京浜に送り好評を博した。この年頃より弁天町、新町、横町一帯に貸座敷（遊廓）が開かれ、十二～十三年頃最も盛んであつた。開拓使は郡区町村総代人を定めた。（総代人は選挙法により選ばれた。）石狩より札幌に至る車道工事始まる。
開拓使は、郡区町村編成法の施行により大小区制廃止。各町村毎に戸長一名を任命（戸長は行政事務担当者であり、村落共同体の代表者）		
一月、豊平館建築に着手。（十四年八月落成）。一月、札幌本庁焼失。四月、対雁、江別間の道路完成。七月二十三日、大小区画を廃し「郡、区、町、村」編成法を布達（十三年三月石狩郡役所開庁）十二月、函館大火		一月一日現在石狩郡字宇津内旧土人数（漁業　男十九人・女十八人　計三十七人）二月、沖鷹丸（百十七屯、二十二馬力）を石狩定繋とし石狩川測量及び小樽、対雁、茨戸方面の輸送にあて、十二月小樽定繋とする。四月、石狩川洪水、五月上旬石狩川洪水、町内の被害大。五月、開拓使、御雇水利工師長I・Gフアンゲントは、（二月石狩川改良水利工師長となる）石狩に来り、主として河口その他の測量に従事す。石狩より茨戸までの実測、深浅図を作成。初めて常時水位観測所四ケ所設置する。（石狩、茨戸、豊平川河口、幌向太）七月、大隈参議石狩を巡視する。

開拓使時代

1880

明治一三

黒田清隆

五月　13年3月1日　石狩郡戸長（欠員）
石狩郡長　山崎清躬、副戸長　鈴木徳右衛門、鮎田如牛（13年）

二千二百四十五戸焼失。
幌内炭山開坑。

三月一日、札幌区役所開庁
六月、札幌新聞創刊
八月、バッタの被害甚大。（十勝、胆振石狩）
十月、軽川駐車場（手稲駅の前身）が設置された。
十一月、郡役所、戸長役場を開設し郡吏をして警部を兼任させる。また郡区総代人を置く。
十一月二十八日、手宮、札幌間鉄道竣工し、試運転をした。
開拓使は江別太兵村の開拓に札幌農学校で作った土管を埋設して排水を図った。（我国における土管排水のはじめ）

八月、札幌、島倉は、シュンベツに油田発見、試掘するも失敗。
八月、札幌警察所轄に石狩分署を設ける。（石狩に警察署を設けた始まり）
四国より十四名南線地区に移住（引率者　横井元八郎）。
川端方蔵　等の協議により、石狩消防組創設（寄附金をもつて番屋、火の見櫓を建てる）。
石狩商業戸数　二十五戸。
此の年頃石狩町貸座敷三十六軒、娼妓三百六十四名、北海道一と呼ばれる盛観を呈した。（九月～十一月末越冬する貸座敷十二～十三軒内常住六戸）。
曹源寺現在地に移転、新築（九年大火、類焼のため）。
生振村（旧村）豊川アンノラン、リンゴを栽培する。
開拓使製物試験所は、石狩に於て鮭油を試製した。

二月、戸長役場を設け、ついで石狩河口改良係をおく。
二月、長谷部辰連、石狩河口改良事務所長となる。
三月、石狩分署を廃し、石狩郡役所をおき（船場町に）八郡（石狩、厚田、浜益、上川、雨竜、空知、樺戸、夕張）を管理した。
四月、金竜寺住職青野氏外により願いのあつた札幌はじめての日蓮宗経山寺開拓使より建立許可される。
八月、弁天町に洋式の病院を新築官営とする。（石狩病院派出所）
オランダ人ヨハン・ゴダルト・フアンゲルト石狩河口近くに運河を開通せんと設計し測量するも十二月二十五日病死により工事中止となり、遂に実現を見ず。（予算二十九万五千円）（フアンゲルト札幌市暁野墓地に埋葬）
第一、第二石狩丸を小樽に定繋し、石狩、増毛、岩内方面に運航する。
石狩罐詰所にフランス製罐詰蒸汽汽器を装置し、鮭酢漬罐詰を試製して成功。

開拓使時代

1881

四代長官　西郷従道　一月

黒田清隆

石狩郡壱組戸長　鈴木徳右衛門

八月三十日、明治天皇ご来道。九月七日退道される。
初めて札幌～茨戸間の新道ができた（車道として使用不可）
樺太に集治監（監獄）を設置。
全道の産米二万七百十五石余。
勧農協会設立（我国農会の始りで、二十六年北海道農会と改称。）

その他ナシ、リンゴ、ブドウ等も罐詰にすることに成功したが利益なく中止。
旧佐賀藩主、鍋島直大、当別町・生振村に開墾を試みる。
鮭漁期市街繁栄
石狩教育所を石狩学校と改称。
この年石狩川入航船舶百十六隻（五十石以上九十一隻、五十石未満二十五隻）

七月、札幌区・札幌・篠路・下手稲・花畔四村の六百万坪を開進会社に無償下付。
十月十三日、石狩市街火災（弁天町六～四区まで焼失）。
十一月、鍋島直大、開拓地、当別町及び生振村字高岡百二十万坪の売下げを受ける。
石狩罐詰所の製産額約八千百罐、産額一千百円。
新潟県人戸川礼吉、厚田村フラトマリ及びシュンベツに於て石油試掘、中途で廃坑（油田は其後発見者石川善七郎より北海道鉱山会社の所有となる）

二月八日、開拓使を廃し、函館、札幌、根室の三県をおく。
農商務省、北海道事業管理局を設置。

1882

一月

二月、樽川村開村（これまではオタルナイと称す）。
花畔人口　戸数五十戸、人口百六十人。
四～五月、石狩地方大雨被害大
九月十五日、公立小学校維持資金として未墾地を学田地として無償下附（内

三県一局時代

1884	1883	1882
〃一七	〃一六	明治一五
令室根局	令県長 湯池定基 池田定則	
七月 親船町外9町3村戸長 鈴木徳右衛門		

旧開拓使の官営工場農場などを経営。札幌から幌内太までの鉄道全通。対雁移住樺太アイヌは対雁移民組合を設立（組合長上野正）百三十九戸、七百二十九人。山口団体十四戸、手稲町星置・山口に移住。

月形監獄の在監囚一千二百人を超す。藤田九三郎札幌市茨戸に農場を開き（五十ヘクタール）アメリカ式酪農経営を始める。これと前後して堀基も茨戸に農場を開いた。

図作「北海道誌」出版

務省）生振村教育所、学田三十万坪願出、十万坪割渡す。戸長役場を親船町に移す。親船町外九町三村戸長役場制度となる。石狩鑛詰所、農商務省工務局に移管する。町開墾済耕地面積七十二ヘクタール。鮭漁獲高百四十八万尾。石狩病院、官より石狩町に払下げを受け町立組織となる。

五月～八月にわたり旱ばつ。大阪安土鈴木源右衛門製作の八幡神社神輿到着。石狩警察署（札幌警察署石狩分署）建設。六月二十五日、月形監獄工事請負の函館楽産商店支店、監獄の常備船として樺戸丸（スコロフ式十五馬力、元つばめ丸といい隅田川で使われていたという。船脚二尺五寸、五十石以上積）及び第二樺戸丸を物資の運搬に使用。同始に石狩川の水路開通に努めた。囚人七十～八十名連日二ケ月石狩川の流木を除き河床を整理。明治十六年、石狩郡長山崎清躬。

三月、石狩・樺戸間を毎日就航するため札幌県は一ケ月五十円の補助金を楽産商店に与えた。神威丸・安心丸の引船用、外輪鉄船就航。七月、石狩郡役所を石狩外二郡（厚田、浜益）の郡役所に改める。戸長役場は一時廃止され、郡役所直轄となる。（当時郡長は、石狩分署警部をかね警

三県一局時代　北海道庁時代

1885		1886
〃一八		〃一九
令県札幌館 大基 広為	所任 調時	一月 初代北海道庁長官 岩村通俊
斉藤皓		石狩、厚田、浜益郡長心得

察事務を執る。小樽内川、琴似川間大排水（新川）掘削始まる。（二十年竣工）札幌県調査によると「石狩街道県道五等に属する」とある。対雁に移住（九年七月）した旧土人部落のうち百二十戸、石狩町来札に移住し、専らさけ・ます・にしんの漁業に従事。

五月、札幌街道両側にアカシヤ、桜、ヤチギの樹木を植付ける。六月、小樽大火、三百四十八戸焼失。湯の川温泉湧出。登別温泉開場。

一月二十六日、三県及北海道事業管理局を廃し、北海道庁をおく。四月十三日、樽前山噴火。六月、北海道土地払い下げ規則を制定。コレラ、天然痘流行し、三千四百四十四人死亡。琴似新川（旧琴似川～茨戸まで。今の創成川下流部分）を堀さく。

山口県より生振村に保護移民あり（引率松永平三郎）うち六戸を残して六月一日、十二戸高岡に移り（引率沖本市郎左衛門）八月高岡部落開村す。（通称六戸と呼ばれるところは残った六戸の居住地である。）山口県保護移民十二戸樽川に移住（引率河本荘七）コレラ流行し、患者六百二十人（死亡者八十二人）を出す。この年及び十九年頃対雁移民樺太アイヌは石狩に多く移った。（八月現在　石狩厚田、浜益郡長心得、斉藤皓）

三月一日、石狩郵便局と改称（石狩郵便役所）七月頃よりコレラ流行し、翌二十年に及ぶ。十一月、郡役所を親船町に移転する（庁舎は元船場町字ヤウスバ上テイネ河岸にあつて旧開拓使時代石狩川河口改良事務所としフアンゲント（オランダ人）の住宅であつたものを三郡共同で官庁より払下げたもの）十一月、石狩水産組設立（以前は漁民会社と称した）。若生小学校創立（石狩小学校若生分校として）。石狩鑛詰所事業中止。長野徳太郎、石狩で酒造業を創める（日の出印）（二十九年廃め、四十三年再開）。北越植民社（本社、新潟県長岡町）篠路村、花畔村と発寒川両岸にまたがる土地百万坪の払下げを出願したが許可にならず。石狩消防組創立（明治十二年よりこの年までは私立と思われる）。

北海道庁時代

1888	豊作。
〃二一	明治二〇

初代北海道庁長官　岩村通俊

石狩郡長　斉藤皓

六月、小樽大火、四百二十戸焼失。
北海道製麻会社創立。
札幌ビール会社創立。
十九年、二十年のコレラ・天然痘の流行により対雁のアイヌ三百人前後死亡。
官制改正により、全道の郡区長はすべて長官直属となつた。

四月四日、駒ケ岳噴火。
五月、水産調査を開始。
五月、屯田兵新琴似に入殖。
十一月、千歳の鮭孵化場開始。
十二月、北海道庁庁舎建築落成。
十二月、国歌「君が代」制定。
道庁土地測量して実施明細図を作製。

八月、小樽内川・琴似川間大排水堀さく竣工（今の新川）排水延長三千四百三十五間　工費五万八千七百十円
石狩罐詰所、販路せばまり、九月高橋儀兵衛　に貸与され、鮭燻製・筋子粕漬を製造する。
石狩分署を廃し、石狩警察署を設け、所轄に四分署（当別、篠津、別狩、茂生）を設ける。
大倉組、土田氏殖民会社と協同し、石狩川運漕業を開始。
英人C・S・メーク（開拓使雇工師）石狩川を調査し、河工改修計画を設計する（二十二年まで調査）。
町開墾済耕地面積、百五十ヘクタール
鮭漁獲高、六十四万五千尾
この年頃から雑貨屋、宿屋等も石狩に永住（明治十五年までは鮭漁期だけ石狩で営業）。
八月五日、石狩郡鮭漁業組合設立（事務所　石狩町船場町・組合員三十五名）

十二月、札幌～石狩間に電信通信開通。
明治十九年～二十年堀さくした琴似新川（今の創成川下流部分）に沿つて巾四間の茨戸新道を開さく。（後の石狩街道、現在の国道二百三十一号線）
八幡神社拝殿及仮新殿竣成（工費八百余円）。
石狩郵便局、為替貯金を取り扱う。
明治二十一年石狩郡長、古川浩平、郡書記、嬉野。
開拓使さけ罐詰をフランス博覧会に出品し好評を得た。ケプロンにマス罐詰を贈り、アメリカの製品に劣らずといわれた。また横浜バビエール商会を経

北海道庁時代

1889	1890	1891
〃二二	〃二三	〃二四

二代（屯田兵本部長）永山武四郎　六月

石狩郡親船町外9町3村　戸長　斉藤皓

二月十一日、大日本帝国憲法発布。
三月、土地台帳規則公布。
七月、屯田兵篠路に入殖。
八月、北海道電燈会社を札幌に創設。
凶作。

七月十五日、熊本県外六県から篠路村に屯田二百二十戸移住。
札幌一等測候所建設。
豊作。

四月、江差大火三百舎焼失。

一月二十九日、石狩郡役所を廃し、札幌郡役所に合併し、更に戸長役場をおく。
一月、石狩警察署を廃し、札幌警察署所轄石狩分署とした。（二十四年廃す）
四月、月形村に石狩川汽船株式会社設立（資本金五千円）二十五年四月、資本金一万円となり大倉組支配人土田政次郎委員長となり、楽谷商会の船を引きうけ石狩川の運行に従事。
四月、石狩川洪水。
七月一日、三等石狩郵便局と改称（石狩郵便局）。
石狩、増毛間の電信工事中、一時電話を通じた。
高岡地区水稲栽培を試み成功をみる（竹中興衛門）。
軽川通、屯田通排水工事実施。
石狩より軽川に至る道路を開く。

四月、石狩川洪水。
石狩罐詰所を高橋儀兵衛に払下げる。
鮭ます罐詰海軍軍需品となる（二十六年資金と人材の欠乏から失敗、休業）
生振若衆会創立（初代会長長谷川六兵衛　）。
生振村吉沢低排水を利用し水田五十アールを作付する。

四月、鹿児島県人、西田守信、西田汽船組を作り（本社江別）石狩川運漕

北海道庁時代

1891	1892
明治二四	〃二五
二代（屯田兵本部長）永山武四郎 六月	三代 渡辺千秋 七月

石狩郡親船町外9町3村戸長　斉藤皓

六十四戸焼失。
十一月、札幌に電燈つく。（本道の始）
十一月、夕張炭田開坑。
北海道議会設立及び自治制施行等の請求書を帝国議会に提出。

五月、札幌大火七百十二戸焼失。
八月、札幌測候所はじめて地方天気予報実施。

業に従事。六月道は付属船上川丸（六十二屯六十名収容外輪鉄船）、空知丸（木造船三十五屯四十名収容）を払い下げた。江別、樺戸間を空知太まで延長。
四月、花畔小学校と称する。（小学簡易科単級）
十月、官制改正により石狩分署を廃し、さらに分割して、石狩厚田分署を設ける。
夜盗虫発生、被害大。
この年頃　鮭時期の漁夫約二千人入込む（一ケ月で約五十余円の所得、当時米一俵二～二円四十銭）

一月一日、豪雨。石狩川洪水。
一月一日、石狩燈台三百燭光点火（東径百四十一度二十一分三十秒、北緯四十三度十六分、基礎より高さ四十尺）（水面より高四十八尺五、木造六角形で黄白横線に塗る。燈質は無等不動白色、光は六海里に達す）
四月、石狩川汽船株式会社は西田汽船組を合併し、本社を江別に移し、石狩河口より空知太、千才川の漁までを営業範囲とした。（最盛期には蒸汽船三淀川船十二）
五月、石狩市街地大火（弁天町四区より出火、六区まで延焼、法性寺、曹源寺、石狩病院（公立）も焼失）
十二月、花畔村中央大排水開さくを出願。
春、花畔村五線金子は、和歌山県よりダルマチヤ種除虫菊をとりよせ作付けする。（本道除虫菊栽培の始めといわれる）五十株。
この年現在全道馬車道十線の一として札幌、石狩間五里二十四町五十四間と記されているのは丘珠経由の旧石狩街道のこと。
町開墾済耕地面積　三百三十九ヘクタール。

北海道庁時代

1893	1894
〃二六	〃二七
北垣国道	四代

斉藤皓

八月、国家「君が代」公定。
ヒメマスの卵を洞爺湖に移植。
十一月、稲作試験場を北海道種畜場内に設置。
十一月、夕張炭鉱夫四百人が騒動を起こす。（道内労働争議の始め）

小樽（手宮）大火、七百戸焼失。
八月、日清戦争始まる。

二月十九日、花畔村村民契約を作り、村内を五組（上組、中組、下組、屯田新道組、軽川新道組）に分け組合規約を設ける。
三月、小包郵便を開始（石狩局）
四月、花畔村殖民撰定願を出し、六月裁可になり実施。これにより風防林設置、大排水、神社位置、墓地、花畔村市街地割、学校の位置を定めた。
五月、生振村茨戸太と花畔村茨戸太間の渡船場設置を願い出る。
七月、若生町の菅場武之助　を教師として迎え、生振の寺小屋を開く（生徒十名、玉木琢蔵氏宅）
九月二十九日、花畔切手売捌所開設。
十月、関場梅屋（関場不二彦の父）石狩に来り、風俗画報七十号に「石狩観鮭の記」を図入りで発表。その盛況を詳細に報ずる。
石狩～札幌間の鮭運搬は馬送（七～八頭を一群とし二籠に十六尾を入れる。昔からの習慣という）。
十二月九日、石狩市街地大火（横町三区より出火、四区まで延焼、七十余戸焼く）。
村上幸三郎　、当別町平佐三郎　より水稲「赤毛種」を移入し三十アールを高岡に栽培する。
生振原野、花畔原野、軽川原野の区画測設をし、貸付地を許可する。
対雁移民組合（樺太アイヌが十五年設立）の製網所、組合事務所石狩に移る。
花畔村金子清一郎　、村内に養蚕を奨励。
この年花畔村戸数、百四十戸。

三月八日、札幌市南二条西一丁目に興農園支店（明治三十二年札幌興農園と改称）開店、支店長小川二郎
旧四月十五日、愛知県十六ケ町村より五十六戸（三百二十余人）生振に移住

北海道庁時代

1895（明治二八）

北垣国道

加藤一魯　四月

石狩郡親船町外9町3村戸長　斉藤皓

三月二十二日、根室釧路沖地震。

三月、日清戦争で屯田兵に動員下令。
八月、駒ケ岳噴火。
十月、根室大火。千二百戸焼失。
琴似新川を拡張し、茨戸運河を堀さく。（札幌市北六条～茨戸まで）三十年十月完成（長さ三里、巾四間）。

（引率者長江常三郎）西生振八十四万坪の開拓を行なう。
八月、花畔村惣代金子清一郎、札幌警察署石狩分署に村内熊害除去認可願を出す。
八月、花畔村金比羅神社を花畔神社と改称。（明治五年創立）。
軽川の前田農場創設。
加賀団体三十七戸花畔原野に移住（引率者前田惣左衛門）。
高木了玄、本山より本道開教使を拝命し樽川南六線に草庵を結び実子法恵師を駐在さす。真宗興正派の本道最初の寺（了恵寺の始、四十年説教所公認
四十三年十二月十六日寺号公称）
茨戸私設渡船場を許可。

五月、花畔・銭函間排水運河起工（長さ四里、巾二間）（三ケ年で完成）
明治三十八年頃まで農作物運搬に利用した。
五月、山口県より約三十七戸百六十五人高岡に移住。
五月、石川県より三十二戸百六十人花畔に移住。
八月、札幌郡下手稲外二ケ村戸長加藤より石狩戸長斉藤に対し「運河開さく線をもつて石狩町との境界としたい」旨申し入れがあつたことについて樽川村総代（目貫、釣本）花畔村総代（山本、金子）は石狩戸長に対し反対の旨、意見を申し述べる。
十月、花畔村共同墓地設置のため、花畔村北八線原野（面積五千四百坪）の払い下げを道に申請（以前は北八線石狩川縁に二百六十七坪）。
花畔尋常小学校と改称（修業年限三年単級）。
石狩尋常高等小学校と改称。
石狩に於て戦争用馬匹徴集。
茨戸運河の堀さくにより、茨戸新道（現在の国道二百三十一号線）も改修さ

北海道庁時代

1896（〃二九）

五代　原保太郎　四月　**四代　加藤一魯**

石狩郡親船町外9町3村戸長

一月、札幌連隊区司令部設置。
四月、小樽大火、七百八十六戸焼失。
五月、七師団を札幌に置く。
八月十日、皆既食。
石狩国外三国に徴兵令施行。
殖民地選定及び区画施設規程制定。
北海道地形図作製（二十万分の一）。

れ、旧石狩街道は、丘珠街道または篠路街道といわれるようになり、創成川沿、道路、茨戸新道等を総称して石狩街道と呼ぶようになった。
生振村の伏籠神社創立

一月、花畔村内行事は、旧暦を改め明年より新暦を採用することを決める。
二月十五日、花畔村集会に於て風防林、堤防地の伐木禁止を決める。
二月二十九日、花畔村原野第四線より第十線に至る各線道路排水工事施行方を道に請願。
三月二十六日、生振小学校開校許可（尋常三年課程）八月一日工事着手、十月三十一日落成、十二月十九日仮始業　三十年二月十四日開校式を行なう。
（三十二年四月五日、四学年となる）初代校長中島源五郎。
四月十三日、石狩川洪水、花畔、銭函間運河開さく置土のため運河以西の被害大。
五月五日～六日、西北風強く花畔村野火盛ん、六棟焼失。
七月、拓殖務省北部局長曽根静雄、原道長官ら石狩小学校に来る。
八月二十二日、花畔小学校改築落成式を行なう。
石狩川渡船賃川巾三百間、人一銭、馬一銭。
生振村愛知県団体開拓記念碑を建立（生振三線伏古神社前）。
石狩・厚田方面に天然痘流行。
軽川新道金子清一郎　耕地に於て、約百九十㎏の牝熊一頭を殺す。
花畔村共同牧畜会を組織する。
花畔村戸数二百八十八戸、人口千二百三人。
樽川村戸数六十戸、人口二百五十二人。

北海道庁時代

1897

〃三〇

九月　五代　原保太郎

1898

〃三一

七月　六代　安場保和

加藤一魯

三月、北海道国有未開地処分法を公布。十月、高島村（小樽市）に庁立水産試験場を設置。北海道区制、一級町村制、二級町村制発布。本道人口、七十八万六千二百十一人。十月、道庁官制を改正し、郡役所を廃して十八支庁を置く。天然痘流行。金本位制を実施。凶作、米価高騰。

二月、仲町にしよう油・みそ醸造工場創業（林喜佐吉経営）
三月三十一日、生振郵便差出箱設置。
四月十八日、花川小学校新築落成式。
十一月一日、石狩水産補修学校開設（全道はじめての補修学校）
花畔共同菓樹会設立（発起人花畔村金子清一郎、札幌市大西長太郎）しリンゴ・ナシ・ブドウの作付を奨励。
花畔村戸数一百八十六戸、人口千二百九人。樽川村戸数九十九戸、人口三百七十五人。
石狩罐詰所、罐詰事業を再開（高橋儀兵衛）四十年事業中止。
町開墾済耕地面積千二百五十ヘクタール。
広井勇工学士（後博士となる）石狩川を調査し、河口改修計画を設計する。
若生町火災、二十四戸焼失。

四月、石狩川洪水。
四月二日、生振小学校第一回卒業式（卒業生男子六名）
四月、安場道長官　石狩小学校に来る。
九月七日～十日、石狩川大洪水、十日花畔村で平水より約四・七メートル増加。花畔村の立退き及び床上浸水戸数七十六戸、生振村浸水家屋二百五十余戸、生振村の農作物全滅、国庫より救済費支出される（石狩川増水の新記録）
十一月片岡侍従水害地巡覧に来町。
十月～十二月、花畔原野排水工事実施（六号線延長六百二十間、五線小排水三百五　間、三線排水四百五十間、南九線道路排水）。
十二月、樽川小学校創立（西三線に於て民家を借り受け、簡易教育所を設け同日付で石狩校教員斉藤定蔵を同教育所詰として出張させた）。

北海道庁時代

1899

〃三二

十一月　七代　杉田定一

八代　園田安賢

加藤一魯

三月、北海道旧土人保護法公布。六月、札幌村より篠路村独立。七月、小樽、釧路、室蘭を開港。九月、函館大火、二千六百二十二戸焼失。十月、札幌、函館、小樽に区制施行。札幌神社官幣大社となる。農会法発令。（大正十一年一月廃止）
枝幸地方砂金採取最も盛ん（従業者六～七千人、産金約九百七十キロ）

工藤重作　従来の片口網を改め、両口網を使用、大豊漁をあげ一般に普及する。
春光寺（生振）建立（寺号公称明治三十一年十一月二十五日）。
花畔村戸数三百六十戸、人口千三百二十一人。
樽川村戸数百三十八戸、人口五百七十三人。

一月十日、石狩川治水期成会結成（江別町戸長役場に於て）。石狩町畠山は委員七名の中に選任される。
一月十八日、生振小学校同窓会結成。
二月十二日、花畔村村会議法規約を決める。
二月二十四日、生振小学校生徒父兄茶話会を開会。
五月十五日、この年より石狩川治水予備調査実施（三十四年まで。石狩河口より上川郡永山村まで）。
六月、札幌区裁判所石狩出張所設置（以前は親船町登記所と称した）。
六月二十日、石狩郵便電話局移転（親船町南十八番地）。
七月三日、花畔村衛生組合規約を定める。
七月十一日、親船より出火、横町、弁天町二十戸焼失。
八月、花畔村風防林保護規約を定める。
八月二十日、高岡小学校創立（石狩尋常高等小学校高岡分校とし石狩校雇教員岡本佳数を　同分校詰として赴任させた。十一月九日校舎落成、開校式を行なう。十月二十九日、花畔村農産品評会開催。
十一月、花畔巡査駐在所設置。
十一月、江別町以下十ケ町二十ケ村石狩川治水工事実施を請願。畠山清太郎（石狩町）請願人総代上京委員となる。

北海道庁時代

1900		
明治三三		
賢		
加藤一魯		

三月、衆議院議員選挙法改正により本道に六選挙区を新設。
三月、産業組合法発令。（昭和十八年廃止）。
五月、札幌・小樽間の電話開通。
七月一日、十六ケ町村に一級町村制施行

十一月二十日、花畔小学校増築費並びに分教場新設費に充てるため、花畔村債千円を発行。
十二月二十日、花畔小学校志美分校創立（花畔村北三線・一～二年生単級）
花畔原野に排水工事施行。
工学博士岡崎文吉、石狩川を十ケ年計画で調査測量を始める。
インターナショナル会社設立、技師C・H・マクレデームをして北海道石油露出地を調査させた。
丁恵寺（南線）現在地に建立。
花畔村戸数三百六十二戸、人口千五百十一人。樽川村戸数百四十戸、人口五百八十六人。
花畔村巡査駐在所並びに花畔村神社拝殿を新築。
花畔村内道路開削を出願（南七線、南九線、南二号（七線～九線の間）北一線）。
北海道旧土人保護法公布、当時石狩には二ケ所の漁場が付与されていた。
花畔村総代人、金子清一郎、水上藤次郎。

二月、石狩貯金組合設立（会員三十一名）。
四月十二日、志美分校認可。
四月末日、調査による花畔村戸数四百五十二戸、人口千八百七十八人。
樽川村戸数百六十六戸、人口六百九十五人。
六月十八日、美登位小学校創立（生振校の分校として）。（三十七年四月独立して分教場となる）。
七月二十四日、花畔村、樽川村戸長、役場分置願を出す。（村名を花川村とし、石狩町・花川村組合役場を石狩町に設置する趣旨）。
七月、文部省大臣官房長木場貞長、札幌農学校長佐藤昌介等石狩小学校に来

北海道庁時代

1902	1901	
〃三五	〃三四	
八代	園田安	
四月	石狩郡親船町外9町5村 戸長	

十二月、第七師団を旭川に移す。
十二月、夕張大火、八百戸焼失。

三月、北海道会法、北海道地方費法公布
四月、北海道拓殖銀行開業。
八月十日、始めて道会議員の選挙を行なう。
十月、第一回通常道会。
十一月、釧路で三百戸焼失。
十二月、農業試験場を札幌に設立した。

三月一日、北海道一級町村制施行（六十

る。
八月、樽川簡易教育所（西六線二号）に移転新築。
九月、桑田農場（親船町）創立。
十月一日、石狩郵便局局舎改築により移転（親船町北二十番地）。
石狩、江別間補助命令航路開始（大倉組従業）道庁、石狩川水運線に補助金（二年間千二百円）を交付、航海回数年百五十九回。
開村三十周年祭を行なう。
石狩親船町外九町三村農会創立。生振三線私設渡船場を許可。

四月、高岡尋常小学校と改称。
五月二十六日、志美分校を志美分教場として認可（一～四まで単級）。
七月、文部省実業学務局長真野文治工学博士等石狩小学校に来る。
九月、信教寺建立（寺号公称 同年九月三十日）
九月九日、花畔神社 公認される。
十月十八日、生振神社創立。（三十六年三月公認）
十月、屯田兵数百名、石狩の貸座敷において乱暴をきわめる。
北海道治水調査会、石狩川諸調査を行なう。
この年石狩川氾濫。
石狩八幡神社本殿、神饌所、社務所等建設（工費千三百余円）。
生振八線私設渡船場を許可。
発泉小学校創立（生振小学校の分教場として。四十一年石狩小学校の分教場となり大正十二年分離）
この年、石狩さけ罐詰所 販売高一万一千二十六円

四月一日、親船町外九町と生振村とを合併して石狩町とし、花畔村、樽川村を合併して花川村とし各々二級町村制を実施した。各町村共同事務処辯のた

北海道庁時代

園田安賢

1903		
明治三六		
	石狩郡花川村組合長	加藤一魯
三月		下田実

一村に）。
四月、天売島沖で難破船八十余隻死者二百二十人。
九月、北海道会議事堂落成。
九月、北海道土功組合法公布。
凶作、水稲の被害甚大。

四月、小樽大火、七百五十戸焼失。
九月、函館開港五十年祭。
大豊作。

め石狩町、花川村組合役場を設け漸く自治の基を開いた。
八月、石狩水産補修学校廃校となる。
十月、樽川村西六線に南線小学校創立（三十八年東七線に移転。三十九年南線小学校校名設定）。
加藤一魯、新たに石狩町、花川村組合長となる（月俸三十五円）。
光明寺（高岡）建立（寺号公称　仝年四月二十四日）。
花畔農会創立、石狩町農会創立（分離した）。
秋季気温低く大凶作（水稲反収四合）
町開墾済面積五千五十ヘクタール。
石狩より銭函に至る新道開通。（五里十町）。
この年大雪。

一月、石狩漁業組合（組合員百七十四名）は、石狩水産組合と改称。
三月一日、三等石狩郵便電信局は三等石狩郵便局と改称。
三月十六日、樽川神社創立。（三十九年三月公認）。
四月、参線小学校創立（生振小学校の分教場として）。（三十七年一月十五日独立校となる。）
四月、若生尋常小学校と改称。
四月、八幡町より高岡を経て俊別に至る道路（延長八千八十六メートル、巾員四・五メートル）開削、七月十二日竣工、工費六百八十円。
四月十四日、渡辺永助、石狩尋常高等小学校長として赴任（四十年五月二十七日まで）。
六月、インターナショナル石油会社五ノ沢に綱式第一号井を開堀。
七月十八日、郷社三十年記念碑（忍路郡塩谷村久保田慶太郎寄進）を八幡神

北海道庁時代

園田安賢

1904		
〃三七		
	石狩町花川村組合長	下田実

社境内に建立。
八月、生振小学校を七線に移転、新築。
九月十七日、インターナショナル石油会社高岡坑深度三百二十七メートルで大噴油し、これより石油さかんとなる。（日産九～四・八KL・比重八百十五）
十月、高橋合資会社（高橋儀兵衛）創立、水産物製造を行なう。商号✿
十一月、生振村に石狩病院出張所を設置する。
十二月、石狩造資組合創立（事務所、横町）。
十二月三十一日、調査人口、石狩町六千二百二十一人、花川村二千九百六十九人（道発表）。
石狩購買販売組合（八幡町）設立。
花川購買販売組合設立。
石狩衛生組合設立。
石狩町火見櫓建設。
来札旧土人所有の漁場（石狩二ケ所、厚田三ケ所）を売却し、従来の負債を整理して共救組合（明治十六年組織）を解散。
この頃、石狩—軽川停車場間に定期馬車の便あり。

五月、小樽大火、二千四百八十一戸焼失
六月、日露戦争始まる。
七月、たばこ官営、専売実施。
九月、愛国婦人会創立。
十月、函館、小樽間

二月、樽川小学校全焼、校長森田厚道焼死、同年八月校舎新築。
三月二十五日、花川郵便局開設（初代局長斉藤作太郎　、大正六年八月十六日花畔局と改称）。
六月・七月、大豪雨、被害甚大。
七月十三日、石狩川最大の大洪水。（石狩町家屋浸水床上百二十六戸、床下四十七戸、花川村床上三十四戸、床下五戸、流失家屋、石狩町一戸、花川村一戸、畑浸水、石狩町二千二百五十町歩、花川村千九百七十町歩。）
九月十三日、降雹、被害甚大。

1906	1905	
〃三九	明治三八	

賢

組合長　下田実

鉄道開通。
十月、屯田兵条例解除。

四月一日、小学校国定教科書実施。
六月、塩専売制実施
七月、南樺太占領。
八月、ポーツマス条約成立。
八月十九日、駒ケ岳噴火。

一月、王子製紙会社苫小牧工場設立。
一月十日、石狩炭鉱会社設立。

十月、来札に旧土人学校を設立。尋常小学校課程としたが（旧土人戸数三十五戸、人口百五十人）旧土人の生活困難のため就業者殆どなし。
十二月、樽川忠魂碑を樽川神社内に建設。
来札に貯油量約二万石入の大タンク二個建立。五ノ沢よりの送油鉄管敷設。
石狩河口（私設）渡船場を改め、町経営とし、特別会計で設備を拡充（大正十一年以降まで）。

一月八日、旅順陥落祝賀会を石狩小学校で行なう。
一月、石狩市街奉公義会設立。
八月、富士製軸所（業主川口藤吉）を石狩浜町に設置（八馬力の蒸汽器械を使用。職工百人以上）（平均一日生産高五万束、一束は径四寸のもの、代金二千五百円）。
この頃マス漁期五月一日～六月二十日、サケ漁期九月十五日～十二月二十六日。
この年の醤油販売高（佐藤友吉（親船町）一ケ月十石三百円。林長五郎（仲町）一ケ月二十九石　八百七十円

この年石狩川を利用し搬出した木材（角材二千七百三十六石、丸太材千六百八十三石、薪代二万三千五百六十石）。
石狩石炭会社鉄道敷設願を提出（三十九年鉄道国有案決まると専用鉄道に改め、三十九年八月三日許可される）。
この年凶作。

一月十日、石狩炭鉱会社出願（渋沢栄一、浅野総一郎、大倉喜八郎外二十名資本金千五百万円）石狩地方石炭採掘、運搬鉄道布設、石狩河口に専港築造の計画する。築港には一万トン以上の汽船横付けの計画で築港のみに五百万

1907		
〃四〇		

九代　園田安

組合長　村松晃

組合長　中川寅蔵

組合長　山崎亀蔵

四月、北海道地租条例施行。
六月、農商務省、月寒に種牛牧場をおく
六月、農商務省が月寒に種牛牧場を設置

六月、札幌農学校を東北帝国大学農科大学と改称。
八月、函館大火、一万二千四百戸焼失。
九月、旭川、釧路間鉄道開通。
札幌外十二郡内に一級町村制実施。

円を要する見込みという。
六月、石狩彰徳碑建立。
石狩に電話開通。
日露戦争の結果南樺太日本領となり、来札の旧土人同地に移住する者多く、三十九年十月には樺太に移転し終る。
石狩炭鉱会社、築港計画実測、八月調査完了、国道に開閉橋を設けるなど計画した。（為に土地の売買活発となり市街地は坪三～四円から十四円内外に上り市外の原野、耕地も反百～二百円に達するものもあつた。）
石狩新聞社設立（親船町に在り、石狩、厚田、浜益三郡有志の共同事業）。
この年、石狩築港鉄道速成同盟会（会長畠山清太郎）活動盛ん。
夏、海軍大学教授松村海軍少佐、来石、一泊して石狩港の築港適当なことを力説。
六月、札幌市新琴似兵村四番通りを石狩町樽川に通ずる樽川線着工、八月完成（総予算二千九十八円八十八銭）延長二千七百メートル。
この年、旅人宿十五、料理店七、理髪業九、湯屋業四、芸妓六、貸座敷四、娼妓三十三。

四月一日、石狩町と花川村とを合併して石狩町とし、一級町村制を実施。
四月一日、石狩町及び花畔農会を合併し、石狩町農会と称する（会長橋本賢弘）。
四月二十一日、石狩市街火災（新町、本町五十余戸焼失）。
九月、石狩燈台改築。石狩灯台は三等灯台に昇格。
九月十日、三十七・八年戦役記念碑を花畔神社境内に建設（題字乃木大将）
十二月六日、大陸旋風。
来札旧土人学校廃止。

北海道庁時代

1909	1908	
〃四二	明治四一	

九代　河島醇

七月　鈴木寅吉　組合長・初代町長

一月、新夕張炭鉱ガス爆発、九十一人死亡。
三月、青森、室蘭間定期船沈没二百三十九人水死。
三月、全道大吹雪。
札幌市雁来に陸軍糧料廠札幌出張所創設（専用えん麦購入）

一月、道庁全焼。
四月、樽前山噴火。
四月、小樽大火、七百戸焼失。
十月、第一期拓殖十五ケ年計画樹立。
本道人口、百五十二万八千七百十二人。

生振寺創立（仝年八月五日寺号公称）。
玉泉寺創立（美登位、仝年二月五日寺号公称）。
鮭漁獲高　二十二万尾。
此の年頃、横井寅蔵、花畔に乳牛（エアシャー種）を導入。
町開墾済耕地面積、五千百六ヘクタール。

春、村山家（場所請負人子孫）石狩を去り、小樽に移転する。
九月一日、町財政困難の理由により、南線分教場、参線分教場と改称。
興農園は、樽川村で牧草栽培を始める（大正七年極東煉乳会社に経営を譲渡）。（社長小川二郎）
冷害凶作。
細川安次郎、岩手県より乳牛十五頭購入し、飼育する（若生町）。

二月十二日、大陸旋風。
四月七～八日、十三～十四日、石狩川洪水、生振方面一帯に氾濫し、十数日に亘り減水せず。
六月二日、雷雨。
九月二十五日、夜、〃極光〃　北方に数時間出現する。
立江寺創立（寺号公称仝年五月十五日）。
町立石狩病院を廃し、町医制度に改めた（院長朽木尚義　）。
十月、技師岡崎文吉「石狩川治水計画調査報文」を道庁長官に提出する。

北海道庁時代

1911	1910
〃四四	〃四三

十代　石原健三　五月　九代　河島醇

二代　畠山清太郎　七月　鈴木寅吉

三月、岩内、寿都、小樽の三支庁を廃し県知安村に後志支庁をおく。
四月、道拓殖十五ケ年計画が実施に移された。
五月、石狩川一部治水工事着手。（災害河川に指定）
六月、王子製紙会社古小牧工場操業開始
七月、有珠山大鳴動噴火。地震。
七月、札幌・小樽間鉄道複線全通。
十月、帝国在郷軍人会結成。
九月八日、天塩、鬼鹿沖地震。

一月、日本製鋼所輪西工場操業開始。
四月、小樽高商開校
五月、小樽大火、千二百五十一戸焼失。
八月、皇太子ご来道
十一月、ラッセル車をアメリカより輸入

一月、西北方に彗星出現、尾を曳くこと二十余尺と見える。
二月、日本石油会社、インターナショナル会社を買収（当時十七杭）。
六月、極東（第三）農場（樽川村）創立。
六月、洪水。
六月、札北馬車軌道株式会社設立。札幌茨戸間に馬車軌道敷設。（大正九年ガソリン車となる）。
七月、花畔低水護岸工事に着手。
八月十六～十七日　台風
九月、石狩川治水事務所道庁内に設置（初代所長岡崎文吉）され、同月花畔工場設置（花川小学校西隣）（昭和三年三月廃止）石狩川護岸工事に鉄筋コンクリート単床を使用。排水に水門をつくり水車による発電を行なう。

五ノ沢小学校創立（一月十三日）。
石狩川、当別川堤防測量開始される。
富士製軸所廃止。
興農園樽川に販売牧草事務所と圧搾場を西七線に設置（機械はアメリカから輸入、本道牧草づくりの先駆）。

一月二十五日、在郷軍人会石狩分会設立。
四月、日本石油会社石狩鉱場創立。
七月、大雨、洪水被害多し。
八月、軽川に製油所建設し、北海道製油所と命名。（来札までインターナショナル会社が敷設した　二吋送油鉄管を軽川まで十八粁の間に延長敷設）。
八月二十七日、甘露寺受長徒従を石狩に派遣せらる（河口等視察）。
八月二十日～九月十二日、皇太子殿下ご来道。

大正時代			明治時代
北海道庁時代			
1913	1912		
〃二	大正元年 明治四五		
中村純九郎 二月	十一代 山之内一次 十二月	十代 石原健三	
二代 畠山清太郎			
	四月、函館大火、七百二十三戸焼失。 四月、夕張炭鉱ガス爆発、死者二百六十七人。 七月、道庁庁舎落成 八月、各地で暴風雨。大凶作（産米三万八千五百石余）		札幌、茨戸間軌道、並びに茨戸、石狩間機船運輸開始。 石狩火災予防組合設立。 花畔村志美、中央、南線合同青年会、皇太子のご来道を記念し、花川小学校正門脇に行啓記念碑を建立。
	一月七～十日、大吹雪 高橋合資会社廃止。 一月三日、石狩川汽船株式会社創立（資本総額一万円、本店 石狩町横町、取締役 高橋儀兵衛、鈴木逸平、長野徳太郎） 二月、長野酒造創業（八幡町、長野徳太郎経営）。 三月、五ノ沢石油大噴出。 三月十八日～十九日 大暴風雪、被害甚大。 十月一日、石狩町西部購買販売組合（花畔）設立（組合長猪俣松蔵）。 米価上昇し白米一升三十銭となる。 町耕地面積（開墾済）五千三百九十七ヘクタール。		
	六月一日、札幌警察署厚田分署を廃し、石狩分署に合併する。 七月四日、石狩町東部販売組合設立（生振、高岡）（組合長鳥羽熊三郎）。 十一月一日、石狩漁業組合創立（水産組合改組）（組合員百三十二名）。 明治牧場旧牛舎前（樽川七線）にボーリングを行なう。 湧水を利用し、水田三反歩試作、一年でやめる（樽川四線三上 前）。 夏季低温大凶作。石狩町人口七千六百六十四人。 地蔵沢農業用ため池築造。生振矯正会創立（初代会長大島元次郎 ）。 石狩灯台の砂嘴（灯台より）約三百六十四メートル（石狩河口航路標識所調査による）。		

大正時代			
北海道庁時代			
1916	1915	1914	
〃五	〃四	〃三	
十四代 俵孫一 八月	十三代 西久保弘道 四月	十二代	
三代 橋本賢弘 七月			
五月、北海道鉄道一千マイル開通記念祝賀会を札幌で挙行。 八月、函館大火、千七百六十三戸焼失。 米飛行家スミス 札幌に飛来す。	四月、道史編集に着手。 十二月、定山渓鉄道開業。	四月、旭川に区制施行。 四月、函館大火、七百七十一戸焼失。 五月、寿都大火、五百五十戸焼失。 若鍋炭鉱ガス爆発、四百二十二人死亡。 七月、第一次世界大戦おこる。	
五月、今泉（親船町）は乳牛二十数頭を 白糠より購入。ホリカモイで飼育。 七～八月 旱害。 十月、花畔中央青年団発団。 石狩川治水、江別、石狩間工事着手。 石狩、茨戸間汽船赤字のため馬鉄会社に於て石油発動機船をあてる。 鮭漁獲高、六万五千尾。 町開墾済耕地面積、五千四百五十二ヘクタール。 石狩校校旗制定。 北生振で乳牛飼育始まる。（清野）	一月、大吹雪。 五月十三日、石狩町信用販売購買組合設立（組合長平野寅吉）。 （石狩町東部販売組合より分離、北生振、高岡、八幡町地域）。 七月、石狩川洪水。 石狩町開祖の村山伝兵衛外七名に従五位を贈られる。 道の保原技師、石狩河口深浅調査実施。	七月現在、町貸座敷、三軒、娼妓、十七名。 大日本堀鑿会社、樽川（西八線）にボーリングを行なう。 （一昼夜五万石を目標、灌漑用水に使用の計画の為）。	

北海道庁時代

1917	一月、全道に暴吹雪被害甚大。 四月、函館、小樽間の電話開通。 洞爺湖畔に温泉の湧出を発見。 八月、農業倉庫法実施。 十一月、農事改良実行組合を奨励。	一月、暴風雪。 一月、技師岡崎文吉の計画による対雁、生振間の二条の洪水流路を現在の直通式に計画　変更。 二月、日本麻糸株式会社石狩製線所創立（本社東京）。 二月十九日、石狩町除虫菊栽培組合創立（初代組合長金子清一郎　）。 九月、山岡でん粉工場創業（高岡藤岡京太郎経営）。 十一月二十五日、石狩防疫会設立。 十二月、生振新水路堀削のため風防林の伐木を開始。 石狩青年団創立（十二分団あり）。 石狩川治水事務所長名井九介、生振新水路工事を計画、実測着手。 （町村牧場、樽川に開く。（町村敬貴・大正五年十月アメリカより帰国して）
〃 六		
〃 七		
1918	二月、室蘭に区制施行。 四月、東北大農科大学分離して、北海道帝国大学となる。 六月九日、部分日蝕 八月、開道五十年記念祭を札幌、小樽で開催。 八月、札幌市内に電車開通。 米騒動全国に波及。 十一月、第一次世界大戦終る。	一月、金子蚕取粉製粉工場創業（花畔村金子清一郎経営） （この年の生産価格六千五百二十八円、生産二千九百四十キロ） 四月、石狩校校章制定。 十月二日、生振新水路の堀削に着工し、生振に石狩川治水事務所生振事業所設置。 十月、生振治水工場を九線に設置する。（昭和十四年三月廃止） 物資騰貴し、平常の三倍に昇り、白米一升五十銭以上となる。 この頃、なお石狩～札幌間鮭魚輸送は駄送による。 興農園主、小川二郎、極東煉乳会社に樽川村の経営を譲渡。 同社は第二農場（西四線）、第三農場（西七線）を開設。第三農場に集乳所を開設。 開道五十年記念北海道博覧会（札幌）に石狩町より次の農作物出品（米三点大麦四点、小麦三点、裸麦三点、えん麦三十五点、大豆五点、小豆、菜豆、
〃 八		
〃 九		
1920		

十四代　俵孫一

安孫子利三郎　八月　橋本賢弘

北海道庁時代

1919	一月、釧路大火五百余戸焼失。 四月、月寒種羊牧場種羊場となる。 八月、物価高騰のため全国的に同盟休業おこり、小樽、室蘭にも波及。 九月、各地に水害続出。	えん豆、そば各三点、とうもろこし二点）、出品市町村数十六。 三月、志美貯金奨励会設立（会員二十名）。 四月、石狩川治水事務所美登位事務所設置。 五月五日～十五日、融雪による洪水あり。 九月、北海道万年木株式会社創立（本社東京海上ビル内、資本金十万円、社長塚原喜一郎、常務鈴木逸平）支店を船場町番外地におく。 十月、本町四区 (定) 松岡楼 より出火、六戸焼失、法性寺類焼。 十一月、物価騰貴し白米一升六十六銭に上る。各区白米買受割引券を出す。 石狩町に始めて電燈を点ず。 石狩町食糧事務所業務開始（十一年現在地に移転）。 石狩川治水事務所専用施設電話を建設し札幌—茨戸、茨戸—石狩。茨戸—美登位—当別—江別に通話。
〃 八		
〃 九		
1920		

十五代　笠井信一　四月

安孫子利三郎

一月、釧路大火五百余戸焼失。 四月、月寒種羊牧場種羊場となる。 八月、物価高騰のため全国的に同盟休業おこり、小樽、室蘭にも波及。 九月、各地に水害続出。	四月、第一期鯨漁六十一万四千石で大豊漁。 六月、夕張炭鉱でガス爆発、二百十人死亡。 七月、釧路に区制施行。 十月、第一回国勢調査施行。 十一月、本道百万石以上の収穫米祝賀会を札幌に開く。

北海道庁時代

1921	大正一〇	十五代 笠井信一
1922	〃一一	十六代 宮尾舜治 五月

安孫子利三郎

代理 五月 藤田鉄太郎

五代 坂牛祐直

本道人口、二百三十五万九千百八十三人

三月、手宮古代文字野幌原始林などを史跡、名勝、天然記念物に指定。

四月、函館大火、千百四十一戸焼失。

四月、手稲軽川に陸軍石狩無線電信所開設（昭和四年五月閉鎖）。

五月、苫小牧大火、九百九十八戸焼失。

八月、札幌外五の区制を廃し市制施行。学制発布五十年記念祝賀。

札幌支庁を石狩支庁と改称。

新しい農会法が公布

九月、花畔に電燈をとりつける。

十月三日、大越利平　石狩・札幌間自動車の旅客運送開始（十年八月営業廃止）。

三月、山本製粉工場創業（八幡町、山本菊次郎経営）。

四月十三日、日本麻糸株式会社製線所工場一棟、倉庫二棟焼失（損失四万三千五百五十円）。

六月、刀根精米所創業（八幡町、刀根若松経営）。

十月、極東煉乳株式会社花畔集乳所開業。

十月、日本石油会社は宝田石油会社と合併し、新たに八ノ沢に鉱業所を設立、事業を拡張（石狩鉱業所主任　小野寺徳太郎）。

馬車鉄道軌道撤去。

石狩町人口、八千七百二人。

町開墾済耕地面積、五千六百五十九ヘクタール。

三月、花畔自警団発団。

四月十一日、鉄道敷設法発布。「石狩国札幌より石狩を経て天塩国増毛に至る鉄道」、予定鉄道線路に決まる。

四月、石狩川治水事務所美登位工場設置。（昭和十二年六月廃止）。

四月二十七日、中田伊佐次郎　生振勢至観音堂を開く。

（大正十二年四月二十七日旧堂建築、本堂昭和六年八月二十七日建築）。

五月、軽川軌道株式会社創立。

六月二十七日　霜害。

七月、摂政宮殿下本道ご巡行、七月十三日石狩町に土屋徒従を派遣せらる。

七月六日、日本麻糸会社石狩製線所事業再開（昨年の製造高八十九万四千円

北海道庁時代

1923	〃一二	十六代 宮尾舜治 九月

坂牛祐直

工場管理人浅見仙作）。

八月二十四日　豪雨。

八月、八幡郵便局、公衆電信電話取扱いを開始、始めて石狩川両岸の連絡を通ずる。

十月、軽石軌道開通。（昭和十年閉止）

十月、花畔処女会発会。

此の年より石油鉱発展著しい。

極東煉乳会社八幡町集乳所開業。

生振酪農組合設立（十五年？）

石狩町土地連絡調査完了（国費で実施）成果（土地連絡調査原図枚数百三十四、積算簿冊数六、測量簿冊数四、境界査定図冊数六）。

石狩河口の砂嘴、灯台より約千四百四十メートル（大正二年には、約三百六十四メートル）右岸来札の河岸欠潰は大正四年実測時より本年六月実測時まで直線で二百七十メートル、延長千五百三十メートルに及び、人家の移転二十余戸、航路標識所四回移転。

戸長役場を全廃する

樺太と連絡船運航開始。

宇都宮仙太郎「北海道畜牛研究会」を組織。

八月、道庁新館落成

六月二十五日、石狩校開校五十年記念式挙行。

石狩町自警団創立。矢臼場で熊捕殺（本町の最後）。

軽川～花畔間の馬鉄開始。

茨戸丸新造、石狩市街、茨戸間の旅客及び貨物運送にあたる（毎日二回往復）

生振処女会創立（女子青年団の前身）。

町村牧場出陳の乳牛サー・ジョハナ・ピータージ・マシーデス五世号（父母牛はアメリカ産）東京平和博覧会名誉賞受賞。

花畔義勇消防団結成（初代頭取　山野国太郎　）。

大正時代

北海道庁時代

1926	1925	1924
昭和元年 〃 一 五	〃 一 四	〃 一 三
十八代 中川健蔵 九月	十七代 土岐嘉平	
六代 高野金作 六月		

1924	庁立図書館設置。 四月、全国中学校に軍事教練実施。
1925	三月、北海道農試を琴似に移転する。 ラジオ・東京より本道に放送を開始。 四月、治安維持法公布。 五月、普通選挙法公布。 八月、北海道美術展覧会発足。 道内人口、二百四十九万八千六百七十九人。 四月二十日、青年訓練所令公布。 四月、北海道製酪販売利用組合（後の雪印乳業）創立。 五月、十勝岳、硫黄山爆発。 宗谷線全通。 第二期拓殖二十ケ年計画樹立。
1926	四月二日、八幡町字シップ帝国亜麻会社製線分場工場出火（損害八千五百三十七円）。 石狩町産業組合設立。 九月、生振新水路河畔（美登位）に石狩川治水殉職碑建立。 十月、花畔、石狩間自動車運転（毎日五往復）。 石狩街道の馬車鉄道は、ガソリン車でひくことにした。 生振に牛乳処理所設置（青木政雄） 石狩酪農販売組合結成さる（八幡町清野等）集乳所設立（現在の雪印乳業会社石狩工場の始まり）。 五ノ沢信用購買販売組合設立。 国勢調査実施（世帯数千五百二十一戸、人口八千四百八十三人。） 花畔競馬場開設（手稲、石狩線北十二線西側）。 生振、茨戸間に定期馬車開始（一日四往復）。 三月、花畔ラジオ受信機取付ける。 四月四日、大陸施風。 四月、定期自動車開通（花畔〜石狩間）。 五月七日、河川氾濫。 五月、吉原罐詰工場（船場町）事業開始。 六月、石狩、厚田間に貸切自動車運転。 七月一日、札幌警察署石狩分署を改め石狩警察署となる。（浜益分署を廃し石狩分署に合併）。 八月、大凶作。

昭和時代

北海道庁時代

1928	1927	
〃 三	〃 二	
十九代 沢田牛磨 四月	中川健蔵	
高野金作		

1927	札幌・東京間直通電話開通。 凶作（産米百十万石）。 一月、第二期拓殖計画が樹立された。（四月実施に移す） 六月二十九日 部分蝕。 八月、北海道一、二級町村制大改正。 六月、札幌中央放送局放送開始。 普通第一回道会議員選挙施行。
1928	八月十四日より茨戸・石狩間に新造客船阜月丸（二十二・九屯）就航（毎日三往復）。 八月、厚田乗合自動車合名会社が設立した。 石狩町各青年訓練所創立（昭和九年青年学校に改められた。） 二月、花畔処女会を花畔女子青年団と改称。 三月、町村牧場、江別市対雁に移る。 六月、ウインネット 発見の彗星東北に出現（恰も満月の三倍）。 十二月三日、猛季節風。 石狩町女子青年団創立。 生振新水路堀削工事にポンプ式竣せつ船「昭和号」到着（三年五月か？） 札幌市会に於て松本議員は、「道第二期開拓計画実施に伴い札幌市の工業都市としての発展」を力説して、石狩川河口の改修、石狩工業港の建設等の意見を述べた。 極東煉乳会社は全施設を明治乳業会社に譲渡。 紅葉山水利組合（南線）設立。 三月、石狩川治水事務所花畔工場廃止（設立明治三十九年九月）。 四月、花畔治水工事竣功。 五月、花畔十線揚水組合揚水所竣工。 八月、生振新水路右岸丘陵に治水事務所が香取神社設立、石狩川の守護神とした。 十二月十日、石狩〜当別乗合自動車路線許可（毎日一往復）（八幡町、堀江寅吉）。 夏季降雨なく旱害、草木、野菜類枯死多し。

北海道庁時代

1929	昭和四	
1930	〃 五	

十九代　沢田牛磨　　池田秀雄

高野金作

一月、明治十二年以来の大雪。
失業問題、小作争議等道内各地におこる
六月、駒ケ岳大噴火
ドイツ飛行船ツェッペリン伯号世界一周として本道神威岬上空にあらわれ南航。

本道産米三百万石突破祝賀会をひらく。
本道人口、二百八十一万二千三百三十五人。（第二回国勢調査）
七月、旭川、小樽間を準急行列車運転開始。

石狩川鮭流し刺網、全道ただ一ケ所認められる。（百数十隻）
花畔自警団（消防団）発団。
この年より七年まで茨戸・美登位間に「カモメ丸」運航（一日二往復）。
一月～三月、大雪（明治十二年以来の大雪、平年の三倍）。
四月六日、花畔尋常高等小学校志美分教場を公立志美尋常小学校と改称。
四月二十一日、大陸旋風。
十一月二十三日、大暴風雪。
十二月、日本石油株式会社聚富工場が設立された。
石狩海水浴協会設立。
高岡聚富土功組合設立（組合長、石崎久治）。
高岡貯水池着工。（地蔵沢・五ノ沢の二ケ所・完成は五年四月）
石狩油田全盛（年額一万KL）。
花畔十線地区七十六町歩の砂地水田を造成収穫をあげる。

七月、石狩町畜産改良会発会。
七月十七日、石狩・厚田間貨物自動車路線許可（堀江寅吉）
八月、花畔土功組合設立。
八月現在、貸座敷一、娼妓四名。
九月、創田の碑（花畔村北十線六号）建立。
石狩実業補習学校を石狩小学校に創立、水産科を教える。
八幡町医院開設。
国勢調査実施（世帯数千三百二十六、人口八千三百八人）。

北海道庁時代

1931	〃 六	
1932	〃 七	

二十代　十月　佐上信一

高野金作

七月、北海道拓殖博覧会を札幌・小樽で開催。
北海道水産試験場、高島町より余市町に移転。
冷害凶作（産米百八万石）。

九月、浦河を日高・河西を十勝に支庁名改称。
十月、大日本国防婦人会創立。
手稲鉱山発掘。
水害の被害甚大。
冷害凶作（産米八十八万石余）。
北千島附近サケ・マス流網使用許可の区域指定（北千島流網漁業の始）（許可、九十一件実際出漁は試験操業の七隻）。

四月、融雪洪水。
四月、花畔消防組結成。
四月九日、石狩・江別管内乗合及び貨物貸切を堀江寅吉に許可。
五月、花畔揚水場竣工。
五月千八日、午後四時生振～新水路三・七粁間、通水（工事費三百余万円）（着工大正七年十月、捷水路延長三・七Km・旧河道延長十八・二Km　堀削浚渫土量九千四百三十Km^3）
六月～八月、冷害凶作。
八月、花畔産乳組合創立。
治水事務所、生振新水路岸に殉職碑建立（昭和四十年八幡神社内に移す）。

四月、町村牧場を開放し、自作農創設。
六月～八月、冷害。
八月下旬、石狩川大洪水（八月降水量二百九十二粍、九月降水量二百三十三粍）。
十二月、旧石狩川生振・茨戸間埋立、架橋工事施行を道等に陳情。（代表高野金作、関戸金三郎、筒井豊次郎、横山玉太郎）。
十二月十五日、旧石狩川茨戸締切堤防築設期成同盟会を組織（会長、町長高野金作）。
石狩川治水工事美登位、生振間工事増水のため締切堤防欠壊志美生振方面逆水で被害甚大。
凶漁救済工事として石狩町海岸沖合約一・八キロ～二・七キロの区域八ケ所に古川崎船を利用、魚礁を築設。

北海道庁時代

1933

〃八

二十一代　佐上信一

高野金作

三月一日より札幌市に於てメートル法を実施。
四月、石狩川（福移）より札幌村治水事務所に至る豊平川新水路の開削工事が国費をもつて着手された（十九年一月工事完成）。
八月、帯広町に市制施行。
札幌飛行場落成。
八月、豪雨。豊作。

二月、花畔農事実行組合創立。
四月一日、公立生振消防組設置。
四月一日、志美青年訓練所設置（志美小学校に併置、十年八月青年学校と改称）。
五月十七日、古川逆水堤防着手。（竣工、昭和十三年九月二十日、工費四万五千円）。
五月、石狩川新水路の当別新水路（捷水路延長二・八㎞）通水・江別、石狩間通水。
七月二十五日、石狩川増水。
九月二十九日、花畔市街地より銭函駅前に至る約十三粁の乗合自動車営業を稗田繁蔵に許可。
十一月六日、低気圧通過。
生振小学校美登位分教場を独立小学校とする。
石狩、茨戸間バス開通（七月二十日稗田繁蔵経営の乗合自動車営業を札幌軌道株式会社に譲渡許可。車輛二十二人乗一台、十八人乗一台）。
米作及び農作物豊作。
花畔食糧検査事務所業務開始。
高橋農場内に砂利採取場発見され、主要道路に一部利用した。
有限責任石狩東部販売組合を保証責任生振信用購買販売利用組合と改称し、生振酪農組合を合併。
石狩川治水専用私設電話架設（石狩川治水事務所―石狩、及び美登位）。
北千島サケ・マス流網漁業の出願数全道で八百、許可二百件、出漁百七十一隻（内、石狩の許可四隻）。

北海道庁時代

1934

〃九

二十一代　佐上信一

高野金作

三月、函館大火、二万四千百八十六戸焼失。
六月十日より札幌・小樽間省営自動車運転開始。
十二月、国立公園に大雪山・阿寒を指定。
札沼線（札幌～当別間）鉄道開通。
札幌グランドホテル落成。
冷害凶作（産米百七十七万石）。
ニシン大正十五年以来の豊漁。

四月、札幌・茨戸間　バス開通。
五月二十四日、旧石狩川生振茨戸間締切堤防工事に着手。
五月、石狩河口来札水制工工事に着手。
五月七日、石狩川旧河道生振逆水堤防盛土及び生振運河堀削工事に着手。
七月～八月、冷害。
九月、石狩道路完成。
石狩町経済更生計画樹立（昭和九年～十三年の五ケ年計画）。
石狩川鮭豊漁。
北千島サケ・マス流網漁業、石狩四隻（吉田庄助、後藤要次郎、吉岡三之助
柴田久吉）所属工場は藤野罐詰所。

1935

〃一〇

本道人口、三百六万八千二百八十二人。
冷害凶作。（産米百五十万石）
三菱株式会社が手稲鉱山の操業を開始した。

四月一日、生振観音橋着手（十一年十月十七日竣功、工費二万七千五百円）
八月中旬、海軍燃料廠佐官、石狩河口調査に来町、次いで内務省河川課
伊藤剛来町。
秋より茨戸・生振治水間にバス運行。
十月、西海岸大暴風雨。
小樽余市に津波あり。
十一月、軽石軌道閉止。
十一月八日～十三日、大陸旋風通過。
花畔揚水場関係造田三百二十七町歩完成。
鮭捕獲高、十万三千尾。

北海道庁時代

1937	1936		
〃一二	〃一一		
二十二代 池田清 四月	二十一代 佐上信一		

高野金作

	六月十九日、皆既日食本道を通過。
	九月、天皇が本道に巡幸される。
	十月、陸軍特別大演習を行なう。
二月、文化勲章制定	
四月、美唄大火、六百戸焼失。	
四月、東京・札幌間	

石狩町信用購買販売組合（北生振、高岡）期間満了解散。
国勢調査実施（人口、八千九人）。
青年訓練所を改め、青年学級の制度を設けた（十四年男子義務制となる）。
一月二十二日、日本水難救済会石狩救難所発足（初代所長、吉田庄助）。
四月二十一日、最大風速二十三メートルの旋風あり。
四月、石狩川治水事務所石狩事業所設置、矢臼場の併行水制工事に着手。
（初代所長、三村勇精）
九月十五日、運河橋竣工（本道最初の全熔接橋、道路橋としては全国第二番か）（工事費三万二千六百二十三円七十二銭）。
九月二十七日、旧石狩川、生振・茨戸間締切堤防工事祝賀会を行なう。
（昭和九年五月二十四日着工、総工費九万九千円余、延長四百メートル、高さ最深部十三メートル、巾員九メートル）。
石狩川第一河口導水堤竣工（延長百三十五メートル）。
茨戸の旧石狩川中州を利用し、中央バス会社遊園地を造成。
石狩町各産業組合合併認可指命。
十二月二十五日、石狩町信用購買販売利用組合設立（八幡町に）。
十二月一日、石狩高岡郵便取扱所設置（石崎久治、無集配郵便局十三年二月一日、集配郵便局十五年二月一日）。
六月、石狩川治水事務所、美登位工場廃止。（設立大正十一年四月）
十二月中旬から石狩川の鮭漁大豊漁。
石狩町消防団第三分団発団。
酪農組合、花畔集乳所開業。

北海道庁時代

1939	1938		
〃一四	〃一三		
二十五代 戸塚九一郎 九月	二十四代 半井清 十二月	二十三代 石黒英彦 六月	

高野金作

	七月、日華事変はじまる。
	七月～八月、北海道博覧会を小樽市・札幌市で開催。
	十一月「新選北海道史」公刊。
	造林十ケ年計画樹立
八月、開道七十年祭を札幌市に開く。	
八月、農地調整法実施。	
ニシン不漁。	
木炭自動車など出現	
諸物資統制、切符制実施、公定価格が定められる。	
四月一日、勅令をもつて全国消防団は警防団に改組。	
八月、台風襲来被害甚大。	
本道の畜牛八万四千頭に達す。	
造幣局札幌支所を開所	

に定期航空開始。
美登位地区百町歩暗渠排水実施（本町の始め、四宮徳市外）。
石狩町各産業組合合併総会開催、石狩町一円の組合となる。
札幌市議会に於て上田議員が「第二次北海拓殖計画案中に石狩築港を入れること」を建議し、採択となつた。
七月、南線小学校独立。
七月二十二日、生北神社建立。
この年頃、高橋農場（始め堀農場）は、岩見沢市三谷　の所有となり、耕北農場と改称（昭和二十年終戦と共に開放）。
三月、石狩川治水事務所・生振工場廃止（設立大正七年十月）。
石狩町消防組合廃止、石狩警防団設立（昭和二十二年九月二十九日解散）
高富排水土功組合設立。

北海道庁時代

1940

〃一五

六月、皆既日食本道通過。
西海岸に津波襲来。漁船千三百隻流失。
本道人口、三百二十七万人。
にしん大漁、稲作は凶作。
紀元二千六百年記念事業を行なう。
米、砂糖、マッチ切符制実施。

1941

〃一六

二月一日、石狩高岡局集配事務開始。
石狩川第二河口導水堤竣工。
石狩工業港工事計画書立案される（十六年成案なる）。
石狩油田石油産出量三千六百二十余KL（厚田を含む）。
遊廓「扇松楼」解体（本町遊廓の終り）。
国勢調査実施（人口、七千三百七十五人）。
道庁令により町内会、部落会設置。

1942

〃一七

六月　二十五代　戸塚九一郎

高野金作

四月、小学校を国民学校と呼称。
九月二十一日、部分日蝕。
十二月八日、太平洋戦争開始。
この年、言論、出版集会、結社等の自由を禁止。

二月一日、石狩特定郵便局と改称（それまでは三等石狩郵便局）。
四月一日、町内小学校は、国民学校に改名。
石狩警察署廃止。札幌警察所石狩警部補派出所となる。
北海道庁土木部試験室（現土木試験所＜札幌市平岸＞）はこの年水理実験室を設け、石狩工業港の模型実験を実施。（工業港建設計画は戦争ぼつ発のため日の目を見ずに終った）。

一月、衣料切符制実施される。
三月、食糧管理法公布。
四月、農試、種畜場

四月二十七～二十八日、低気圧。
八月二十九日、台風。
十一月、石狩町航空青少年隊結成。
生振　部落に電燈を点ず（農協牧草圧さく工場附近に）。
石狩川旧河道生振逆水堤防盛土および生振運河堀削竣功。

北海道庁時代

1943

〃一八

二十六代　坂千秋

七代　吉田由太郎

一月

種羊場を合併して北海道農業試験場設置
五月、関門トンネル貫通。
六月、野付牛町に市制施行、北見市となる。
十一月、十一社を統合して北海道新聞社を創設。

二月四日、皆既日食
四月、夕張・岩見沢に市制施行。
六月一日、改制市町村制実施され本道の一・二級町村制廃止
二級町村は指定町村となる。
七月、東京都制実施
十二月、昭和新山生成を始め十九年六月生成。
道内人口、三百三十四万八百六十二人。

生振、対雁間堤防盛土完成。
五ノ沢部落に電燈を点ず。

十二月二十五日、五ノ沢集乳所設置。
石狩小学校開校七十周年記念式典を行なう。

1944

〃一九

山口吉兵衛

九月

高野金作

一月、北海道水産業会が設立される。

三月、石狩町農業会（区域石狩町一円）設立。
四月、生振湿地帯に飛行場建設試験工事始まる。終戦まで続行。（工事主体

北海道庁時代

1945	二月、国民登録制拡大十二歳より男子六十歳、女子四十歳まで徴用公布。 三月、全国新聞夕刊を廃止。 道内人口、三百二十六万八千二百八十九人。
〃二〇	七月十五日、午後三時近く、石狩町、米艦上機の空襲を受け、役場等も焼失（死傷者二十六名、被害戸数・全壊五戸・全焼三十六戸・半焼二戸・大破六十六戸、中小破百十二戸）。 八月十四日、石狩小学校空襲待避のため矢臼場に臨時分教場を開く。二日にして十六日より閉鎖する。 進駐アメリカ軍「函館から小樽を回り、石狩附近に上陸。先づ札幌を占領しその後苫小牧、旭川方面攻撃」との北海道上陸作戦計画を話す。 「〃高橋水産株式会社石狩事業所建設（三十五年五月工場閉鎖、札幌市に移設）。 冷害。 七月十五日現在、世帯数千百八十五戸、人口七千八百九十五人。

二月、国民登録制拡大十二歳より男子六十歳、女子四十歳まで徴用公布。
三月、全国新聞夕刊を廃止。
道内人口、三百二十六万八千二百八十九人。

七月十五日、午後三時近く、石狩町、米艦上機の空襲を受け、役場等も焼失（死傷者二十六名、被害戸数・全壊五戸・全焼三十六戸・半焼二戸・大破六十六戸、中小破百十二戸）。
八月十四日、石狩小学校空襲待避のため矢臼場に臨時分教場を開く。二日にして十六日より閉鎖する。
進駐アメリカ軍「函館から小樽を回り、石狩附近に上陸。先づ札幌を占領しその後苫小牧、旭川方面攻撃」との北海道上陸作戦計画を話す。
「〃高橋水産株式会社石狩事業所建設（三十五年五月工場閉鎖、札幌市に移設）。
冷害。
七月十五日現在、世帯数千百八十五戸、人口七千八百九十五人。

北海道庁時代

1946	二十八代 持永義夫 十月	二十七代 熊谷憲一 四月
〃二一	二十九代 留岡幸男 一月	二十六代 坂千秋
1947	三十代 増田甲子七 四月	代理 早坂冬雄 一月
〃二二	吉田由太郎	山口吉兵衛 十一月

二十七代 熊谷憲一 四月
二十六代 坂千秋

七代 吉田由太郎

六月、青少年団解散
六月、米機B29はじめて本道を空襲。
七月、道内各地に米空軍来襲。
七月、タバコの配給一日三本。
七月、主食一割減配
七月、北海道移民計画による入殖はじまる。
八月、米空軍、広島長崎に原子爆弾投下
ソ連対日宣戦。
八月十五日、太平洋戦争終戦。
この年凶作。
九月二日、日本政府は降伏文書に調印し太平洋戦争終る。
十月、連合軍、本道に進駐。
十月十六日、選挙権拡張、女子にも附与される。

二十八代 持永義夫 十月
二十九代 留岡幸男 一月

二月、第一次農地改革実施。
四月、第二十二回衆議院議員選挙。
五月、メーデー復活
七月、道総合開発調査委員会が組織される。
十月、指定町村を廃止。
十一月三日、日本国憲法発布。
十一月、ソ連からの引き揚げ開始。
本道人口、三百四十九万人。

三十代 増田甲子七 四月
代理 早坂冬雄 一月

一月、北海道開発庁設置を閣議決定。
二月、網走町に市制

山口吉兵衛 十一月
吉田由太郎

六月、石狩町連合青年団結成（初代団長 深田利秋）。
十二月二十二日、農地委員会委員選挙行なわれる（会長、宮野正勝）。
石狩警察庁舎落成。
鮭凶漁、漁獲高、六千五百尾。
樽川村西四線附近に開拓者入殖（恵庭より五戸、広島県より一戸、樺太より一戸）この後各地より入殖。

三月、町漁協、中央バス等関係者によつて札幌、石狩間の除雪を実施、以後毎年実施。
四月五日、飯尾円什、最初の公選町長となる。（飯尾円什 千八百二十票、

昭和時代			
北海道時代			北海道庁時代
1947			
〃二二			
公選初代	田中敏文	四月	三十一代 岡田包義
公選初代	飯尾円什	四月	

施行。
三月三十一日、教育基本法施行。
四月一日、所得税法施行。
四月一日、学校教育法施行（六、三、三の新学制実施）。
四月五日、知事公選行なわれる。
四月十日、第一回参議院通常選挙。
五月三日、新憲法施行。地方自治法施行。
五月、三笠町幾春別大火、千二百三十一戸焼失。
五月、大日本帝国の呼称を日本政府と改称。
七月、本道の雑穀に強権発動。
八月、カザリン台風により、上川・空知大水害。
十月、留萌町に市制施行。
十一月、福島町大火
第一回国会開かれる

関戸金三郎　千三百三十三票）。
七月二日、町第一回農地買収計画なる（水田百五町、畑二百五十七町）。
九月十五～十六日、カスリン台風通過、洪水。
十一月一日、戦災復旧家屋、左岸市街二十五戸、右岸市街六戸、
十二月一日、樽川小学校に花川中学校樽川教室設置、二十八年分校となる）。
日、花川中学校樽川教室設置、二十四年四月一
教育制度大改革。新制石狩、花川（五月二十日）、生振・高岡の四中学校新
設される。
役場庁舎新築。五月十六日より執務（終戦以来、石狩小学校校舎を仮庁舎と
して勢務していた）。
花畔新道部落五十五町歩造田完成。
国勢調査実施（世帯数千四百三十三、人口八千七百四十五人）。
消防団を組織。

昭和時代			
北海道時代			
1948			
〃二三			
北海道知事	田中敏文		
	飯尾円什		

一月一日、児童福祉法施行。
一月一日、新戸籍法施行、改正民法施行
二月、食糧供出促進のため全道一斉司法権発動。
二月、札幌・アメリカ合衆国間国際電話開通。
四月、苫小牧町に市制施行。
五月九日、金環蝕（礼文島）。
五月、サンマータイム初めて実施。
七月、国民の祝日に関する法律公布。
十一月、開道八十年記念式典を札幌市で行なう。
十一月、道教育委員会設置。
道内人口、四百二万一千五十人。

二月四日、北生振五十四町歩造田完成（二十二年十二月着手）。
三月六日、生振農協設立（組合長松田治平）（十二月二十三日同農協に電話開設）。
三月七日、石狩町自治警察署設置。
三月、千才町、渡部栄蔵「石狩・苫小牧を結ぶ八十五キロの内陸運河及び運河地帯の湿地帯開拓」と題する意見書を出版、運動も試みる。
三月二十日、石狩町農協設立（組合長　増田時一）
四月、石狩町農業共済組合設立（組合長　升田岩雄）。
四月二十八日、花畔農協設立（組合長　升田岩雄）。
七月二日、高岡農協設立（組合長　松井岩次郎）。
八月十五日、石狩町農業会解散。
九月一日、八ノ沢小学校創立。
十一月、町主要食糧供出推進本部設立（本部長　飯尾町長）。
十二月九日、農地改革完遂記念式を行なう。
十二月十五日、第一回農業調整委員会開催。
美登位地区三十町歩造田完成。
石狩町海浜砂防林事業始まる。
札幌地方総合開発協議会が設置（札幌市）され、審議調査を経て、石狩川河口改修の事項が請願、陳情された。
北海道河川運輸株式会社創立事務所（道商工会議所）が設けられ、払い下げ舟艇による石狩水運開発の計画が企てられ石狩、江別、豊平川新水路、雁来間の試運転を行なったが、会社設立は実現せず。
北海道科学技術連盟は「札幌低地帯綜合開発計画案」を発表しその第一に「石狩、苫小牧間用水路開放」をのべ具体的な水路開削　案を示した。
石狩町本年度米供出量、一万四千四百二十俵。

北海道時代

1949

〃二四

田中敏文

飯尾円什

一月、初の「成人の日」行事実施。
一月、道西部に暴風水害。
二月、全道に暴風雪。
三月、NHKテレビ公開初実験。
三月、北海道開発審議会が内閣に設置される。
四月、稚内町に市制施行。
五月、古平町大火、五百戸焼失。
五月、支笏・洞爺を国立公園に指定。
五月、北海道学芸大学設立。
六月、松前城焼失。
六月十日、労働組合法施行。
九月、キテイ台風、道南に被害。
十一月、対面交通実施。
北海道大かんばつ（減収見積額二十四億五千万円）。

二月十五日～十七日、大陸旋風。
三月二十六日、志美小学校創立五十周年記念式典挙行。
六月、南線揚水所竣工、南線地区三百二十町歩造田工事のうち二百五十一町歩完成。
六～八月、雨少なく旱害（降水量六～八月　百一粍六）。
七月二十九日、石狩漁業協同組合設立（法改正により）。
十月二十五日、開町八十周年式典を挙行。
十一月十七日、大陸旋風。
石狩町、軽川間バス開通。
石狩港、運輸省より指定港湾に認定される。
札幌信用組合石狩支所開設。
石狩支庁石狩町農業改良相談所設置される。
石狩町人口、八千八百六十二人。
樽川地区十三戸入殖（親和開拓）。
石狩海岸砂丘利用の畑地滋がい事業計画（八十五町）策定したが、地元漁民の反対多く中止。

北海道時代

1950

〃二五

田中敏文

飯尾円什

一月一日、満年令実施。
四月、美唄町に市制施行。
四月、国会で北海道開発法が成立する。
四月、八月、豪雨、被害大。
五月一日、公職選挙法施行。
五月四日、生活保護法施行。
六月、道開発庁設置
七月、道開発大博覧会を旭川でひらく。
七月三十一日、地方税法施行。
八月、札幌に警察予備隊が設置される。
九月、衣料　切符廃止。
九月十二日、部分日蝕。
この年大豊作。
道内人口、四百二十九万五千五百六十七人。

一月十五日、第一回石狩町成人式。
三月、農地改革、売渡し事務完了（田二百九十八町歩、畑千七百十一町歩、宅地約二町、牧野八百二十六町、建物九、国有畑、牧野四十四町歩、売渡小作人延千百二人）。
七月、道貸付牛二十五頭五ノ沢部落に入る。
七月三十一日～八月二日　豪雨（札幌約百九十七粍）。
九月九日、花畔瑞穂神社創立。
十月、石狩、厚田海区漁業調整委員会設立。
十月一日、国勢調査実施（世帯数千五百三十六、人口九千百九十四人）。
十一月十八日～十九日、暴風雨。
石狩弁天社社殿改築。俳人句仏の句碑を能量寺境内に建立。
樽川四百二十五町歩、志美二百二十町歩、生振五百二町歩の造田計画ほぼ完成。
北生振地区国営かんがい排水事業（一千町歩造田）計画樹立したが泥炭利用者（燃料）の反対多く、計画を変更（二十七年着工）。

北海道時代

1951	〃二六	初代 田中敏文 五月
1952	〃二七	二代 田中敏文 五月

初代 飯尾円什 五月	二代 飯尾円什

二月、道議会新議事堂落成。
三月、北海道銀行開業。
三月、全道にハシカ流行。
四月、増毛、留萌、利尻でニシン好漁。
六月、千代ノ山、本道出身初の相撲横綱となる。
七月、道開発局発足
九月、講和条約調印日米安全保障条約調印。
十二月、日本航空会社、東京―札幌間の空路開設。

四月三十日、町長、町議会議員選挙。飯尾円什氏石狩町長に無投票当選。
七月二十六日、石狩行中央バス、札幌市五番館横で発火災上（死者、重軽傷者四十名）。
九月、石狩町広報紙「いしかり」創刊。
十一月、画家、伊藤深水・児玉児望来町し、さけ料理と砂丘風景の印象を道新に発表。
十二月十七日、石狩鮭鱒孵化場落成式（広川農相臨席）。
石狩川鮭凶漁。
石狩町農業委員会発足（農地、農地調整、農業改良の三委員会合体）。
石狩川内水面（サケ流し網百二十七隻、刺網百六隻、地曳網三場所）。
海（建網七場所、十四統）。

三月、十勝沖地震。
三月、北海道放送本放送開始。
四月、留萌、増毛のニシン豊漁。
四月二十八日、日本国との平和条約発効
四月二十八日、日本国とアメリカ合衆国

一月一日、石狩東小学校開校（若生、発泉小の両校統合）。
三月、石狩町社会福祉協議会設立。
八月一日、石狩川河口渡船場個人請負経営を改め町営有料渡船場となる。
十月二十八日、住民投票により石狩町自治警察署廃止に決定。（有権者四千六百三十九、投票総数千十二、廃止賛成七百七十一、廃止反対二十三）。
十一月、教育委員会設置。
北生振地区道営かんがい排水工事着工（造田計画約七百町歩）。
花畔・生振両農協共同醸造工場（花畔）新築落成（三十年七月事業中止）。

北海道時代

1953	〃二八

田中敏文

飯尾円什

との間の安全保障条約発効。
五月、北洋漁業再開される。
六月、道総合開発第一次五ケ年計画実施
七月一日、住民登録法施行。
七月、札幌円山動物園開園。
八月、キャレン台風道南に襲来。
八月、警察予備隊を保安隊と改称。
十月二十一日、農地法施行。
十二月、本道供米後の自由販売制度実施。
札幌新駅開業。

一月、道東地方津波暴風雪。
四月、芦別町に市制施行。
五月、標茶町、江別町大火。
六月、北日本航空会社創立。
六月、台風の外国呼

一月、国家警察石狩地区警察署発足（石狩町・厚田村管轄）。
三月三十一日、石狩港、地方港湾に指定される。
十二月、参線小学校と生振小学校を併合し、五線に生振小学校並びに生振中学校校舎新築。
小樽内川、十線浜、花畔六線沖合にホッキ稚貝五十四万粒放流（その後、三十年、三十三年、三十五年等継続）。
石狩川内水面サケ・マス流網・刺網漁業整理転換三ケ年計画本年より実施。
準地方費道札幌～留萌線が二級国道二百三十一号線となる。

北海道時代

1954 〃二九

田中敏文

飯尾円什

名を廃止、号称にする。
八月、上川地方四十九年ぶりの大水害。
九月、青函連絡船の夜間運行開始。
九月、篠津総合開発事業に着手。
十一月、札幌・千才間の国道（弾丸道路）開通。
十一月、明治以来使用の一円以下の補助貨幣の通用を禁止。
この年凶作。

町公営住宅の建設に着手（親船団地五戸）。

一月、男子スピードスケート世界選手権大会を札幌で開催。
一月、道央・道南に猛吹雪。
五月、全道に暴風雨襲来。
六月、幌泉村で日本始めてのマンモス象臼歯発見。
七月、江別、赤平、紋別、士別四町に市制施行。
七月、道警察本部発足。
七月、保安隊を自衛隊と改組。
七月一日、自衛隊法施行。
八月、天皇・皇后ご来道。
第九回国体秋季大会札幌等で開催。
八月、駐留軍本道を撤退。
自衛隊本道へ移駐。
九月、台風十五号本道に襲来。洞爺丸外四連絡船沈没外被害甚大。
九月、岩内町大火、市街の八十％を焼く
十一月、五月以来の本道風倒木総被害六千四百万石（百億円）。
冷害凶作。

四月一日、樽川中学校独立校となる。
五月十日、大暴風雨、温冷床及び家屋の被害甚大。
六月、全町の水田に稲ヒメハモグリ蠅大発生、大被害を受ける。
六月二十四日、北生振灌漑排水工事通水式。
六月～八月　冷害凶作。
七月、北生振九十七町歩の水田塩害で被害甚大。
七月、石狩、厚田海区漁業調整委員会が浜益も含めて石狩海区漁業調整委員会となる。
九月一日、石狩地区警察署を廃し、北海道札幌方面札幌北警察署石狩警部派出所となる。
九月十日、草葉厚生大臣来町。

北海道時代

1955 〃三〇

田中敏文

飯尾円什

九月二十七日、台風十五号通過、石狩町の被害大、渡船沈没、交通一時ストップ。
十二月、石狩小唄できる。（作詞　更科源蔵、作曲　西村貞次郎）
高岡から高師子僧発見される。
手稲町界砂山で手稲遺跡発掘される（手稲中学実施）。
札幌、留萌線「二百三十一号二級国道」に昇格。
鮭大漁。

二月、暴風雪で被害甚大。
三月、第十回国体スキー開催。
四月三十日、町長、町議会議員選挙。石狩町長に飯尾円什　当選（三千二百十五票、次点中村重義一千票）。
五月～十一月、全町土性調査実施される。

北海道時代

1956

〃三一　田中敏文

三代　飯尾円什

四月

四月キー大会を旭川で開催。

五月、西カムチャツカへ戦後初の出漁。

七月、戦後最大の豪雨襲来（被害総額九十九億一千万円）。

八月、道央に豪雨。

十月、一級国道札幌・小樽間の舗装工事が完成する。

十一月、赤平の雄別炭鉱茂尻鉱でガス爆発、六十人死亡。

十一月、余市シリパ山で大ケールン群発見。

三月、全道各地に放射能雪。

四月、暴風雨。

四月、名寄町市制施行。

五月、小樽市大火。

六月、北日本航空の道内航路開かれる。

六月、北海道開発公庫が設置される。

六月一日、石狩川畔に町営牧場を開設（二十一万七千三百坪）。

八月十四日、第一回石狩左岸地区町民レクリエーション大会催される。

九月、高岡部落で全道初の「農民による土壌調査」実施される。

九月十一日、石狩川口渡船場国営移管となる（道開発局札幌開発建設部管理）

十月一日、国勢調査実施（世帯千六百四十二、人口一万百二十九人）。料金無料となり石狩町に委託。

十一月三日、初の文化祭、石狩小学校を会場に催される。

十二月十二日、石狩町農地改革十周年記念式を石狩中学校で開催。

十二月二十日、高岡酪農振興組合結成。

花畔農協、損失金二千二百九十八万四千円をめぐり紛争するも十月十二日の組合総会で再建への意欲が示された。

石狩川内水面サケ流網漁業、本年で禁止。

との年水稲大豊作。

十月十六日から石狩〜花畔間雪上車（そりバス）運行。

五月二日、石狩町長飯尾円什―電気揚水工事による水田指導の功績により、藍綬褒賞をうけ、六月二十八日町内祝賀会を花畔で開催。

五月二十一日、北生振地区灌漑排水工事完工式を新設揚水場で行なう（総事業費三億六千九百七十七万円）。

七月、石狩町観光協会設立（海水浴協会解散）。

七月二十一日、石狩浜開き。

九月、第一回鮭まつり催される（九月九日〜十六日）。

九月、第七回全道種馬共進会（北見市で開催）に生振の後藤定二　所有の

北海道時代

1957

〃三二　田中敏文

飯尾円什

九月、冷害による被害額、三百九十六億円。

十月、東京・札幌間マイクロウェーブ開通。

十一月、札沼線十二年ぶりに全通。

北大創立八十周年記念式。

四月、三笠町に市制施行。

四月、木古内町大火

五月、下川町大火。

八月、根室町に市制施行。

九月、桂沢ダムが完成する。

十月、大雪山国道開通。

十二月、札幌、東京札幌、仙台間の即時通話開通。

本道人口、約四百九十九万五千人。

「第一宝」（ベル系）最高位賞を獲得。

九月、劇作家・久保栄　「のぼり窯」資料蒐集のため石狩に来る。

九月、石狩川内水面鮭漁孵化事業として五場所操業、海面鮭定置十一場所

二十二ケ統。

九月、石狩小学校全道初の円型鉄筋コンクリート建で完成し、十月十三日落成式を行なう（総工費二千二百万円）。

十月二十七日、石狩鉄道株式会社（授権資金四千万円、親船町）設立。

（社長　飯尾円什・会長広川弘禅）

十二月、防衛庁札幌建設部は南線紅葉山附近約六万五千坪を自衛隊演習地として買収。

二月、石狩地域農山漁村振興協議会発足する。

三月八月、松竹映画「喜びも悲しみも幾年月」を石狩灯台附近でロケ。

三月十六日、南線部落電話開通式（下川商店、公衆電話花畔局十七番）。

五月二十三日、南線小学校新校舎完成。

五月二十三日、石油資源開発会社、生振村南二号線の石油試掘場開坑。十月十七日、深度千百八十メートル層で日産ガス六千五百五十九㎥、原油〇・二KL噴油、成功をみ、十一月第二号井を開坑（成功）。

五月二十九日、石狩鉄道株式会社、運輸省から地方鉄道法第十三条による着工認可を得る。

七月建設促進期成会発起人会発足。

七月、北生振水田に塩害。

十月、高岡、石崎沢に砂防ダム完成。

十二月、樽川小、中学校新築落成。志美小学校新築落成。

十二月、明治牧場百三十六、三町開拓地に買収される。

石狩〜花畔間国道土盛工事一部完成（北三線〜北五線間）。

北海道時代 Ⅰ

1959		1958
〃三四		〃三三
四月	三代 田中敏文	
四月	三代 飯尾円什	
		一月、猛吹雪。 二月、当別町で十四年間穴ごもり生活の中国人発見。 五月、留萌大火（百八十三棟焼失）。 六月、皇太子ご来道 七月、道大博覧会を札幌・小樽で開催。 七月、千才、滝川、砂川、歌志内の四町に市制施行。 九月、台風二十二号襲来。 本道人口、約五百十七万人。
三月、札幌・旭川間即時通話開始。 四月、札幌テレビ放送開始。 四月、道知事選で、町村金五（自民党）当選。		四月、石狩町鰊約二万貫漁獲あり。 六月十一日、町体育協会設立。 八月、石狩市街簡易舗装工事実施。 八月、南線開田の碑建立（碑文町村金五）。 十月、生振村茨戸湖畔（農協前）に冷泉（食塩水）湧出。（堀削者、新町南甚一郎）。 十一月三日、札幌学大河野教授、石狩町先住民族遺跡調査に来町（高岡地区） 十一月二十九日、石狩地区労働組合協議会結成（議長　佐々木宏）。 十二月二十一日、石狩町農民同盟結成総会を開催。 十二月二十五日、忠美小学校移転新築落成式挙行。 この年より道土木試験所は石狩港の河口標砂の問題にとりくむ（継続）。 耕北農場、矢臼場附近の砂採取活発になる。 石狩小屋内体育場落成。 五の沢校改築。 花畔幹線排水工事始まる（三ケ年計画延長五千二百五十メートル）。
一月、石油資源開発会社は茨戸―篠路間三・七粁の送油線を完成。 四月、河口渡船、八幡丸就航（十二・五屯）。 五月十八日、石狩鉄道起工式を石狩町浜町の国有地で実施。 五月二十四日、親和開拓農協設立認可（当初組合員二十一人、初代組合長岡野愛）。 五月三十日、石狩港河口導流堤工事五ケ年計画で着手（開発局）。		石狩漁協、魚礁の試験投入を行なう（三十三年から補助事業で実施）。 石狩支庁、石狩町海岸砂地造林事業を実施（継続事業）。

北海道時代

1960		
〃三五		
四代	町村金五	
四代	鈴木与三郎	
		九月、台風十四号道南地方に猛威をふるう。 第一回札樽経済協議会会議開催（札幌市小樽市、手稲町）。 十一月八日、積丹地震。
一月、猛吹雪（道東道央）。 五月、チリ地震津波道東をおそう。 五月～八月、夕張地		（突堤二基八十メートルと百八十メートル、東防波堤三百メートル、航路水深マイナス四・五メートル。 七月、帝国石油株式会社北海道炭鉱所石狩鉱山、業務を北宝石油鉱業株式会社に移す。 七月一日、楢橋運輸大臣石狩港視察。 七月、石油資源開発会社は茨戸第一、第二集油所完成、八月から本格的な生産を開始。 七月十八日、村上開発庁長官、石狩港視察。 九月、石狩中、生振中、石狩小の改築工事始まる。 九月六日、小樽内川口にし尿流出し魚貝類の被害大。 九月二十一日、北大大場博士、石狩町先住民族遺跡調査に来町（高岡）。 九月二十七日、生振農協有線放送電話施設完成記念式（生振農協）。 十月一日、石油資源開発会社札幌鉱業所茨戸鉱場設置。 十月、石狩役場増築工事。 十月十三日、石狩漁協組簡易冷蔵庫完成落成式。 十月十五日、石狩町農協倉庫落成式。 十二月、石狩高岡五万坪農道完成（千七百四十三メートル）。 十二月、町航空写真完成。 十二月四日、石狩支庁初の道政懇談会、石狩町で開かれる。 町農業委員会、第一次農家台帖作成指定町村となる。
一月二十二日、石狩中改築工事落成式。 三月三十日、石狩町郷土研究会発会式（大場博士記念講演）。 五月、花畔、石狩間九粁の石狩街道凍雪害防止対策工事始まる。 五月、石油資源開発会社は油田より篠路駅までの四・四粁にパイプラインを		

北海道時代

1961	
〃三六	

町村金五

鈴木与三郎

区を中心に全道に小児マヒ多発。
十一月、札幌競輪を廃止。

五月、支笏湖畔の植樹祭に天皇・皇后ご出席。
五月、北海道穀物商品取引所を開所。

敷設。
五月六日、石狩河口渡船場待合所完成（左岸）。
六月一日、町国民健康保険実施。
七月、春別砂防ダム完成。
九月、石狩資源開発会社は北海道ガスに対しガスの販売を行なう（十六粁のガスパイプラインを敷設）。
十月、全町明細図作成（広報百号記念）。
十月一日、国勢調査実施（世帯数千六百四十五、人口九千三百五十八人）。
十一月、石油資源開発会社、茨戸第三集油所完成。
十一月三日、第十四回北海道新聞文化賞（産業経済賞）を石狩町出身の細川定治は「ビート研究」で受賞。（のち、北大教授となる）。
十二月十四日、樽川地区道営灌漑排水事業着工式。
十二月十九日、札幌酪農協、石狩町樽川集乳所完成落成式。
十二月二十日、花川中学校第一期工事落成式（工費七百二十万円）。
北生振土地改良区独立。
此の年、北生振地区開拓入殖はじまる。
旧石狩川ワカサギ増殖事業、網走産のワカサギを導入し町単独事業として実施。
札樽経済協議会（札幌、小樽、手稲）に石狩町加入。
三月十一日、水稲採種事業十周年記念大会開催。
四月一日、国民年金事務開始。
五月、松竹映画「あの波の果てまで」後編ロケを石狩川渡船場附近で行なう。
五月十三日、北生振青年研修所落成式（工費百二十万円）。
七月、町親船町国道改良舗装工事始まる。

北海道時代

1962	
〃三七	

町村金五

鈴木与三郎

七月、道央豪雨、大洪水（昭和七年以来の被害、被害額百九十六億円）。
九月、道農民同盟解散し全道農民連盟を結成。
十月、函館・旭川間に本道初のディーゼル特急「おおぞら」走る。
十月、森町大火。
石狩陸橋完成（延長二百二十八・二メートル、巾十八メートル）。

一月、五年制国立高専、函館と旭川に設置きまる。
六月、十勝岳大爆発
七月、第二期道開発計画が閣議決定となる。
八月、本道全域に大豪雨、被害総額三百億円。

七月二十四日～二十六日、石狩川大洪水。
八月二十九日、アラブ連合の政府交換研修生一行、花畔砂地水田視察に来町。
十二月八日、道漁連と石狩漁協組共同経営の石狩養豚センター開設。
十二月十八日、札幌法務局石狩出張所庁舎完成落成式。
十二月十八日、茨戸油田原油生産量最高（日産五十六KL）、この年までの総坑井数は試探、採掘井で合計三十一坑。
志美土地改良区独立（花畔土地改良区から分離五十二戸）自力で再建。

二月、石狩町酪農振興連絡協議会設立。
本年一月～三月川口結氷せず。
三月十七日、八ノ沢小学校最後の卒業式（同月末で廃校）。
五月十四日、石狩川汚水破害防止漁民総決起大会を石狩校で開く。
五月十八日、町村知事町内視察。
六月、町役場（町長室、応接室）増築。
六月一日、樽川、極東第二開拓パイロット事業地区認可、七月一日起工式。
六月八日、自衛隊協力会設立総会。
八月、北宝石油鉱業株式会社、五ノ沢の石油・天然ガス採掘を廃止。
八月十六日～十八日、台風九号通過により石狩川大洪水。

北海道時代

1963

〃三八

四代	町村金五
四代	鈴木与三郎

四月

二月、福島町で青函海底トンネル調査坑着工式。
四月、苫小牧工業港入船式。
五月、奥尻島大火。
八月、道央地区新産業都市に決まる。
八月、道北、道央に集中豪雨。

九月、小樽内川にし尿流出し魚貝に被害あり。
十月、道営低家賃住宅二棟八戸完成（親船町）。
十一月、河口渡船場フェリーボート（おやふる丸四十二屯）就航。
十一月三日、石狩漁協発足七十五周年記念式典を石狩小学校で行なう。
十一月十四日、樽川線バス開通。
十一月十五日、第三回石狩地方乳質改善共励会に樽川酪農組合団体最高位賞をうける。
十二月三日、生振農協会館完成落成式。
鮭大漁。
道営花畔地区灌漑排水事業着工（幹線改修）。
石狩町連合青年団を石狩町青年団体協議会と改称。

一月、大曲農事組合集会所完成。
二月三日、北花畔、南線、樽川三地区二百四十八戸の地域団体加入電話開通式を花畔農協会館で行なう。
三月二十五日、道営北生振第二地区パイロット事業促進期成会発会。
四月八日、花川小学校開校九十周年記念式。
五月、石狩町八幡町矢臼場地先石狩川護岸工事始まる（三年継続総工費約三億円）。
五月十三日、志美更生水防組合設立。
六月、町役場庁舎外装工事始まる。七月、町役場に企画室新設。
七月十七日、旧石狩川（北三線～北九線地先）に北洋材の貯木始まる（北洋交易会社）。
九月、樽川地区農業構造改善事業着工。
九月、和田水産加工会社、本格的操業開始。

北海道時代

1964

〃三九

五代	町村金五
五代	鈴木与三郎

三月、芽室町大火。
四月、北日本、富士日本三社合併し「日本国内航空」発足。
五月、利尻町沓形大火。
幌加内町朱鞠内大火
五月、知床半島・国立公園に指定される
七月二十三日、本庄陸男の文学碑「石狩川」建立（当別町石狩川堤防に）。
八月、道鳥にタンチョウヅル決定。
十月、全道農作物冷害で大被害をうける

九月八日、石狩管内ＰＴＡ連合会研究大会石狩校で開催。
十月十九日、社会福祉センター完成（工費約千六百万円）。
十一月二日、石狩小学校開校九十周年記念式典開催。
十一月三十日、石狩木材工業団地促進期成会創立総会（札幌グランドホテル）で開催。
十二月十四日、石狩町老人クラブ結成（長生クラブ）。
十二月二十日、高岡保育所落成式。
十二月二十八日、石狩町初の三つ児誕生（吉田資也（父）男子）。
国有貸付牛四十二頭、高岡五ノ沢地区に導入。

一月、樽川地区農業構造改善事業共同畜舎二棟完成。
三月三十日、生振簡易郵便局開局（四十年七月三十一日廃局）。
四月四日、道央新産都市区域に指定される。
四月八日、北生振開拓組合（十一戸）極東組合（九戸）通電式を社会福祉センターで開く。
四月十五日、生振愛知団体、開拓七十一年記念式典を開く。
四月二十六日、花畔村北九線二枚田トメさん満百歳の誕生日を迎える。
四月二十九日～五月六日、町内初の五中学校合同修学旅行実施され仙台、松島方面に出発。
五月十二日、樽川地区道営かんがい排水工事（三十四年より総事業費七千六百三十万円）落成式を花畔農協会館で実施。
五月十六日、八幡町「母子会館」完成落成式（総工費三百万円）。
五月、国道二百三十一号線、茨戸～石狩市街舗装工事を実施（三十八年より改良工事実施）。
六月、役場庁内電話、磁石式から自動電話に切換えされる。

町村金五
鈴木与三郎

（被害農家十五万五千戸、被害面積七十六万二千ヘクタール、被害見込み額五百七十三億円と発表）。
十一月、政府、本道に天災融資、激じん災害法の適用内定。
十一月二十日、道新産業都市建設協議会「新産業都市建設計画」をまとめる。
二十四日基本計画を承認。
十二月一日、帯広空港開港式。
十二月、本年の道内企業倒産二百五十八件で、戦後最高記録

六月三十日、比田運輸省港湾局長等一行石狩港を視察。
七月六日、八幡町老人クラブ「八寿留クラブ」創立総会（参加者八十五名）。
七月十日、樽川開拓水道組合発足（十九戸）。
七月十四日、二級国道札幌・留萌線開発促進協議会設立総会（於石狩支庁、協議会長原田留萌市長、副会長石狩町長）。
七月二十日、五ノ沢酪農組合設立十五周年記念式典を開く。
九月十一日高岡貯水池、道営老朽ため池築造工事起工式を現地で行なう（三年計画総工事費約九千万円）。
九月二十七日、夜半から冷えこみ降霜、農作物に被害あり。
十月十六日、冷害対策本部を役場に設置。
十月二十四日～二十五日、降雪約三十糎、農作物の被害甚大。
十月、高岡藤岡沢改良工事、自衛隊の部外工事として始まる。
十月、石狩川のさけ漁大凶漁に終わる。
十一月十日、米田石狩中学校長行方不明、十四日水死体で発見。
十一月十五日、石狩郵便局舎完成、本日より業務を開始。
十二月四日、谷藤道開発庁事務次官一行、石狩港視察。
十二月十五日、石狩開発株式会社（本社札幌資本金二億円）設立総会を札幌グランドホテルで開く（社長手取貞夫）。
十二月二十一日、石狩町北生振地区（百二十六戸）厚田村聚富地区（九十九戸）の地域団体加入電話の開通祝賀会を社会福祉センターで開く。
十二月二十二日、石狩木材工業団地、用地買収契約等締結。
五ノ沢牛魂碑除幕式。
石狩海水浴場公衆便所設置。

一月、道農務部「農業学園」設置構想を発表（七月一日スタート）。
二月十五日、道央・道北に猛吹雪。
二月二十三日、岩見沢地方に集中豪雪。
三月十日、札幌周辺大吹雪。
三月二十五日、大雪山、国の天然記念物に指定される。
四月一日、道開発庁は石狩川治水事務所の名称を石狩川開発建設部に改める。
四月三日、道北地方に猛吹雪。
五月一日、青函トンネル調査斜坑海底に到達。
五月七日、冬季オリンピック札幌招致委員会発足。
五月十五日、道教委公立高校の小学区制を廃し大学区制に移行を決定。
六月二十二日、利尻

二月十八日、石狩町交通安全運動推進委員会結成。

1965 〃四〇

町村金五
鈴木与三郎

三月一日～二日、大吹雪（花咲～石狩間バス一時不通）。
三月四日、石狩川汚水被害対策本部（吉田繁雄本部長）並びに道漁民同盟は道開発局、道に対し漁業補償額四十一億一千五百三十五万五千円（二十六～三十九年までの汚水被害）を要求。
三月八日、町議会は「交通安全町」宣言を決議した。
四月一日、河川法の改正により石狩川は一級河川となる。旧石狩川も一級河川に昇格、茨戸川と改名（一部は真勲別川）。
四月十日、町役場花咲出張所開設。
四月十日、日本水難救済会石狩救難所創立三十周年記念式を社会福祉センターで開催。
四月十日、大雪。
六月一日、町役場機構改革、財政課新設。
六月一日、「生活相談室」を役場に開設。
七月一日、日本合成樹脂株式会社（本社札幌市、長谷川竹二郎社長）石狩工場完成披露式をあげる（所在地花咲）。
七月、中央バス石狩終点前に観光案内板設置。
七月～八月、石狩海水浴場にぎわう（海水浴客約五十万人）。
八月二日、石狩町国民健康保険五周年記念式を社会福祉センターで開く。
（三十五年六月開始）。
八月二十五日、石狩木材工業団地造成着工（北五線～北七線）。
九月十～十二日、第十回石狩さけまつり盛大に実施。
九月十八日、台風二十四号本道を通過（石狩町被害六百七十一万円）。
九月、樽川村南線地区の新札幌団地（内外緑地株式会社）第一次二十万坪の分譲を開始。
九月、開田の碑を生北神社境内に建立。

1966 〃四一

町村金五
鈴木与三郎

礼文国定公園正式に指定される。
八月十三日、道開発庁の「拠点開発構想」きまり道央など六地区を設定。

一月一日、母子保健法施行。
二月四日、全日空機羽田沖で墜落、百三十三人死亡。
四月一日、メートル法完全実施。
四月十六日、全道に「春あらし」。
四月二十六日、一九七二年冬季五輪開催地、札幌市に決定。
五月一日、富良野市制施行。
五月、十勝南部異常滞水、農作業に影響

九月、石狩町航空写真撮影、十月図化完成。
十月一日、国勢調査実施（世帯数千六百九十六戸、人口八千五百二十二人）。
十月十日、花畔市街地街路灯（水銀灯十五、けい光灯十三）点灯式を行なう。
十一月十八日、三枝副知事、石狩町行政視察（ゴルフ場、木工団地、養豚センター）。
十一月十八日、石狩川汚水被害地区漁業振興転換対策協議会（吉田繁雄会長）
三ケ年事業計画案（四十一年より）を決定、総事業費四億一千万円。
十一月、新札幌団地内賃借住宅六十戸完成入居はじまる。
十二月十日、生振地区（加入二百一件）の農村集団自動電話（地域団体加入電話）、局線電話方式から管内自動交換に変る（石狩支庁管内で始めて）。

三月三日、石狩町公害対策協議会設立総会（会長鈴木与三郎）。
四月、樽川、生振、五ノ沢、へき地保育所開設。
四月四日、北生振開拓パイロット事業（造田）実施地区に内定。
四月二十九日、麓又太郎（元石狩郵便局長）郵便功労者として勲五等双光旭日章授章。
三月三十日、石狩町都市計画区域指定を受ける（指定面積九千三百六十五ヘクタール、札幌都市計画区域の変更という形で）。
五月七日、石狩木材工業団地で植樹祭を行なう（町、支庁、会社共催）。
六月八日、和田水産株式会社、矢臼場に新工場建設、起工式（八月二十八日竣工式、操業九月一日、総工費約一億円）。
六月三十日、花畔百貨店（代表取締役村田安治）落成式。
七月十五日、札樽経済協議会総会に於て「石狩町生振地区を新国際空港の適地として調査を要望する」ことを決定。
八月五日、石狩町は、住宅地造成事業法指定町となる。

町村金五
鈴木与三郎

大。
六月三日、郵政法改正案成立（七月から値上実施）。
六月二十五日、祝日法改正案成立。（敬老の日、体育の日を新設）。
八月十三日、東北、奥羽両本線の不通で本道向け貨物輸送マヒ。
八月十七～十八日、道南、道央集中豪雨で被害甚大。
八月二十三日、国後島、墓参、二十一年ぶりに実現。
九月三十日「エゾマツ」北海道の木にきまる。
十月一日、新狩勝トンネル開通。
札幌の新豊平橋開通
十月十六日、美瑛町に「国立大雪青年の家」完成。
十月三十一日、道百年のテーマスローガ

八月十日、道議会総合開発特別委員会で「千才空港の代替え空港が必要であり、新空港の候補地には石狩町生振地区が最適」との調査報告書が発表された。
八月十八日、札幌圏広域都市計画協議会創立総会を札幌市水産ビルで開催（札幌市、江別市、手稲町、石狩町、広島村で構成。会長札幌市長　原田与作）
八月二十二日、北生振土地改良区設立十周年記念式典（社会福祉センター）と記念碑「豊饒無窮」除幕式（九線北）を挙行。
八月三十一日、石狩中学校屋内体育館完成（総工費約千二百万円）。
九月二日、札樽を中心とする木材関係団体、石狩湾新港建設促進期成会創立総会を小樽市で開催（会長、小樽木材協会長　坂口栄之助）。
九月九日、石狩川サケ漁開始（例年九月一日、沈船取り除きのため）。
九月十二日、社団法人「石狩川地域産業振興協会」設立（於、札幌市）される（理事長　吉田繁雄、事務局石狩漁協内）。
九月、南線の新札幌団地内紅葉山砂丘（南六線）に温泉湧出（地上温度二十七度C、毎分三百六十リットル）。
十一月一日、石狩町母子健康センター開所（花畔）。
十一月一日、南線簡易郵便局業務開始。
十一月一日、石狩町勢要覧発行（一千部）。
十一月三日、鈴木信三　（元町議会議長）は更生保護、調停制度功労者として、勲五等旭日章、斉藤松吉　は水位観測業務功労者として勲六等瑞宝章を受章。
十一月二十五日、道開発庁と道開発局連絡会議（於東京都）で石狩湾沿岸地域の軽工業化促進を決める。
十二月一日、郵政省魚貝切手シリーズ第八集の「さけ」切手（十五円）発売される。石狩局初日引き受け日付印及び記念スタンプ押印実施。
十二月一日、中央バス株式会社「新札幌団地線」開通。

1967		ン「風雪百年輝く未来」に決定。 十一月一日、三笠市住友奔別鉱でガス爆発、十六人死亡。 農林省、本道冷害被害額六百七億円と発表。 十一月五日、札幌で一日内閣開催。 十一月十五日、手稲―銭函間国鉄電化試運転。 十一月十六日、札幌市、手稲町合併決まる（明春三月一日） 十一月二十九日、道民のうた決まる。 この年、中小企業の倒産多し。 三月一日、ソ連の「金星三号」はじめて金星の表面に到着。
〃四二		十二月十五日、中央バス株式会社、新ターミナル営業開始（札幌市大通東一） 十二月二十一日、道住宅供給会社「新札幌団地」造成決定。
町村金五		
鈴木与三郎		
	一月七日、全道各地に大雪。 二月十一日、初の建	二月八日、道開発庁は国道二百三十一号線にかかる石狩河口橋の建設計画を発表。 二月二十日、石狩新港湾建設促進期成会設立総会を社会福祉センターで開催

1967		国記念日。 二月二十三日、全道各地で融雪被害。 三月一日、札幌市と手稲町合併。 三月三日、日ソ航空協定正式発効。 三月二十二日、道旗と道章決まる。 四月十六日、道知事に町村金五　三選される。 八月十日、道南に集中豪雨。 八月十七日、道開発庁は「本道開発の長期展望」を発表。 十月四日、日本の人口は八月一日現在で一億人突破と判明。 十二月十九日、国鉄小樽―札幌間の電化工事完成、試運転電車初走行。 この年史上最高の大豊作（水稲）。
〃四二		（会長　鈴木町長）。 二月十四日、石狩町史編集委員会を結成（会長　鈴木町長）。 三月八日、札幌市第一回定例議会における議員の質問に対して原田市長は、「石狩町との合併については手稲町とは事情が違い、現状では合併を考えていない」と答える。 三月二十八日、道産米改良協会主催による第四回道産優良米出荷共励会表彰式（札幌市ローヤルホテル）に於て、石狩町は第一部（売渡し数量十万俵以上）の二等に入賞。 三月、「茨戸川滞水排除のための放水路堀削、逆水防止調節水門建設について」　札幌市議会議長と石狩町議会議長連名の陳情書を国に提出。 四月二十一日、石狩町長、町議選挙告示。二十五日、町議候補有志は自発的な立ち合い演説会を開く。二十四日、石狩町長鈴木与三郎無投票当選きまる 二十八日　町議投票日。 四月二十八日、石狩川開発建設部石狩事業所発注の「そらち丸」（二十一屯）進水（工費約三百万円）。 五月二日、新札幌団地の温泉ボーリングと、分譲住宅建設（桑沢商店、岩倉組による）の合同起工式を現地で開催。 六月三日、石狩観光開発株式会社（資本金五百万円、社長　吉田繁雄。事務所　石狩町親船町）設立。 六月九日、生振地区に、ニワトリのニューカッスル病発生（被患四十五羽） 石狩支庁は十日対策本部を設置し十四日から同地区百七戸約一万三千羽について緊急予防注射を実施すると共に、移動禁止令を出した。（本道では昭和三十一年以来の発生） 六月二十六日、札幌圏広域都市計画協議会総会に於て、「新規工業地の重点地区は手稲・花畔間とし、港湾新設による利用の変化にも対応、できるだけ
町村金五		
鈴木与三郎		
六代		
六代		

1967

〃四二

町村金五

鈴木与三郎

の面積を確保する」ことなどを承認。
六月二十六日、北海道コンクリート製品株式会社（本社・深川市、資本金三千万円、社長　長谷川政友）札幌工場起工式を花畔北六線石狩工業団地内現地で開催（操業九月、工場落成式　十一月二十一日）。
六月三十日、石狩観光開発会社のオートキャンプ場「石狩国際モビレージ」の開村式を社会福祉センターで行なう。（七月一日オープン）
七月　道は、道営開拓パイロット事業個所づけを発表、新規地区に石狩町「北生振第二地区」きまる。
八月八日、石狩河口渡船場二隻目のフェリーボート「あつた丸」就航式を行なう。（総屯数約五十二屯。工費二千八百万円）
八月十五日、町役場機構改正（消防係、管財係、給食センター人事、等）。
八月、石狩町観光ポスター作成（原図　渋井一夫、二科展入賞作品）
八月二十日、石狩海水浴場閉止、好天に恵まれ全道一の入込客数をしめす。（石狩海水浴場七月七日～八月二十日まで百三万三千人。一日最高十七万人
十線浜海水浴場七月十一日～八月十五日まで二十二万八千六百人、一日最高五万二千人）
九月六日、花畔地区かんぱい事業完成式を花川小で開催（道営、団体営で三十五年から実施、総事業費約一億一千八百五十万円）
九月十六日～十八日、町教委は新札幌団地内　紅葉山遺跡発掘調査を実施。（町はじめての本格的調査）
九月二十二日、花畔農協倉庫新築落成式。
九月二十三日、石狩川のさけ漁は、江別附近の石狩川拡巾工事による泥炭の流入で本日より七日間休漁し、大被害をうける。
十月五日、町教委・町郷土研究会は「石狩弁天社史」を発刊。
十一月十四日、「壮年体力テスト」を実施（石狩中で。十八日花川中）

1968

〃四三

町村金五

鈴木与三郎

十一月二十二日、石狩町学校給食センター落成式（総工費二千百万円。
十一月十三日から小・中学校十五。千八百人対象に給食を実施）。
十二月二十二日、町教委は「石狩弁天社」を町文化財第一号に指定。
この年秋より高岡農免道路を道直営で実施（本年度は高岡入口より二千二百メートル、工事費　二千六百万円）。
この年、開町以来の大豊作、米売り渡し量　約十九万四千俵。
一月五日、内外レジャーランド株式会社設立（本社、札幌市　資本金一億円社長、松坂有祐）。新札幌団地内の約九百九十万平方メートルに観光事業実施計画をたてる。
一月二十六日、石狩河口橋の試験クイ打込み、本日より始める（矢臼場）。
一月二十四日、二十五日、石狩支庁管内町村会と、同町村議長会は総会をひらき、「石狩湾新港は石狩町に誘致する」ことを決議する。
二月十日、石狩河口橋修祓式を矢臼場の現地で、起工式、祝賀会を社会福祉センターで開催。（橋長千四百十二メートル余、巾員十メートル五十。取付道路延長五千九百十九メートル。総事業費二十六億円）
二月十六日、石狩町議会議長は「石狩湾新港の建設について町内鯨塚地区を最適地として誘致に協力されるよう」、札幌市議会議長に陳情書を提出。
二月二十一日、本日付の道新は、「石狩湾新港の適地としては背後地、交通面等で石狩町鯨塚付近が有力」との開発局筋の報道を掲載。

参考にした文献

この年表中には出所を明記しませんでしたが、この年表をとりまとめるのに多くの文献を参考にしました。特に次の文献には参考になる点が多く利用させていただきました。編者者及び発行所にはご了解を得なかつたことをお詫びいたすと共にこの年表発刊の趣旨をご理解いただきご寛容下さるようお願いいたします。

書名	発行年	編著者・発行所
北海道史	昭和十二年	北海道
北海道山林史	昭和二十八年	〃
開拓につくした人びと	昭和四十年～四十二年	〃
殖民公報	明治三十四年～大正十年	北海道庁
北海道蝦夷語地名解	明治四十一年	〃
北海道史年譜	昭和二十四年	橋本尚・橘商会
札幌市史	〃 二十八年	札幌市史編集委員会
琴似町史	〃 三十一年	〃
札幌村史	〃 二十五年	札幌村史編纂委員会
江別の誕生	〃 三十三年	江別市
旭川市史	〃 三十五年	旭川市
小樽市史	〃 三十三年	小樽市
石狩町年表	〃 三十三年	石狩町郷土研究会
札幌水産物商九五年	昭和三十五年	富永武男
北海道交通史	〃 二十八年	梅木通徳
北海道交通史論	〃 二十一年	〃
北海道郷土史事典	〃 四十年	渡辺茂　北書房
北海道史人名辞典	〃 二十八年	北海道文化資料保存協会
アイヌ語地名解	〃 四十一年	更科源蔵　北書房
札幌のアイヌ地名を尋ねて	〃 四十年	山田秀三　榆書房
北海道開拓秘録	〃 二十四年	若林功　月寒学院
石狩川治水小史	〃 四十一年	北海道開発局石狩川治水事務所
北海道年鑑		北海道新聞社
北海道拓殖誌	昭和六年	片山敬次
鮭鱒聚苑	〃 十七年	松下高高山謙治水産社
花畔村記録	明治二十五年～三十三年	金子清一郎

あとがき

昭和三十三年、石狩町教育委員会、石狩町郷土研究会のご好意により「石狩町年表」を発刊してから、早くも十年を経過しました。この間内容的には多くの不備不足があつたにもかかわらず石狩町に関する唯一のまとまつた資料として各方面に広く利用せられ、郷土に対する関心を高めるのに役立たせていただいたことは編者として望外の喜びでありました。

と同時に内容について責任を深く感じその後今日まで公務のかたわら年表の内容充実と誤りの訂正に心がけてきました。特に研究不足だつた農村部落の調査、並びに実現に至らなくても将来の示唆に富むものの収録などに意を注いで来ました。この為、公文書だけでなく、個人の記録などをできるだけ多く取材して歩いている間に十年が過ぎましたが、まとめた原稿を見直すと欠陥だけが目につき発刊に踏み切れないでおりました。

最近、開道百年に際して道史の編集が進められていることなどに刺激され、市町村史の発刊や編集が多くなり、郷土史に対する識者の見解も続々発表されるなどしてブームをまきおこしており、道民の関心も高まつて埋もれていた資料も次々と発見されております。これによつて従来の定説についても再検討がなされ、訂正をみるなど此の分野における進歩は著るしいものがあるよう見うけられます。

こういうなかにあつて道央地区に於いて最も古い歴史をもち、開拓使時代まで道央地区開発の門戸として重要視され、その拠点として大きな役割を果してきた石狩町の郷土研究は残念ながら活発とはいわれず、多くの問い合せに対しても十分こたえることのできないことに焦燥を感じてきました。

たまたま開基三百年、開町百年記念行事を本年に実施することから、町史編集に対する関心が高まり、町理事者ならびに町議会のご理解により昨年二月十四日「石狩町史編集委員会」が正式に発足し、委員及び調査員による活動も本格化し、本年度上巻（明治初期までの分）発行の見透しが濃くなつたことは嬉しい限りです。

この度再刊にふみ切つたこの年表は、調査員の取材の便宜と、教育関係者の参考等の一助としての要望にこたえて発刊したものです。もとより郷土史編集という専門的な仕事に素人の編者が余暇を活用して取りまとめたもので取材範囲もせまく、内容的にも不備不足を免れませんが多くの方々の協力を得て将来完璧を期したいと願つております。

石狩町農業の歩み

西暦	年号	事項
一八五八	安政　五年	石狩ワッカオイに回浦奉行堀織部正の家来、畑山万吉の開墾あり
〃		琴似、早山清太郎氏石狩役所から種籾を貰い琴似で水田三反歩を試作し成功をみた
一八六八	明治　元年	箱館から石狩へロシヤ産の麦、そば、えん豆、麻の種物送られる
一八七一	〃　四年	五月花畔村開村（南部団体三九戸、一二九人移住） 五月生振村開村（宮城、米沢地方より三一戸、一二四人移住） 何れも土地二町歩附与、一反二円の開墾料補助その他住宅、農具等あり 五～六年頃の開墾状況 花畔村　四〇戸　一四・六町 生振村　二九戸　一三・九町
一八七二	〃　五年	
一八八二	〃　十五年	樽川村開村（主に漁業）
一八八五	〃　十八年	山口県より高岡に移住（十二戸） 山口県より樽川に移住（十二戸）
一八八七	〃　二〇年	この頃四国より南線に移住
一八八九	〃　二二年	小樽内川、琴似川間大排水開く（新川） 竹中与衛門氏、高岡地区水稲栽培に成功 本町の始め
一八九二	〃　二五年	花畔村金子氏、和歌山県より除虫菊を取りよせ作付する（本道の始め）
一八九三	〃　二六年	生振原野、花畔原野の区画測定をし、無償貸付地を許可（一戸　一五・〇〇〇坪）
一八九四	〃　二七年	加賀団体三七戸花畔原野に移住 愛知県より五六戸生振原野に移住
一八九五	〃　二八年	山口県より三七戸高岡に移住 花畔、銭函間排水運河起工
一八九九	〃　三二年	花畔原野に排水工事施行
一九〇〇	明治三三年	町村牧場創立 桑田農場（親船町）創立
〃	〃　三三年	親船町外九町三村農会設立
一九〇二	〃　三五年	石狩町と生振村合併し石狩町となる・ 花畔村と樽川村合併し花川村となる
一九〇三	〃　三六年	石狩（八幡町）花川に購販組合設立
一九〇七	〃　四〇年	石狩町と花川村合併し石狩町となる 石狩町農会設立　この年頃、花畔に乳牛導入される（エアシヤー種）
一九一〇	〃　四三年	極東第三農場樽川に開く 石狩川治水事務所設置、花畔、生振の工事に着手
一九一二	大正　元年	石狩町西部購売販売組合設立（花畔）
一九一三	〃　二年	石狩町東部購売販売組合設立（生振） 極東農場、樽川四線にボーリングを実施 湧水利用の水田三反を試作、一年で中止
一九一五	〃　四年	石狩町信用販売購買組合設立（八幡町）
一九一六	〃　五年	今泉氏（親船町）ホリカモイで乳牛二〇数頭を飼育 北生振地区に乳牛導入される
一九一七	〃　六年	町村牧場、樽川に開く 日本麻糸会社石狩製線所創立
一九一九	〃　八年	石狩町食糧事務所業務開始
一九二一	〃　一〇年	極東練乳会社花畔集乳所開業
一九二二	〃　一一年	〃　八幡町　〃
一九二五	〃　一四年	生振に牛乳処理所設置 石狩酪農組合設立（八幡町、現在の雪印石狩工場の始め）
一九二七	昭和　二年	町村牧場江別市に移る
一九二八	〃　三年	十線用水組合揚水所竣工
一九二九	〃　四年	高岡聚富土功組合設立、高岡貯水池竣工 花畔十線用水組合地区、七六町歩の砂地水田を造成、収穫をあげる
一九三〇	〃　五年	花畔上功組合設立 石狩町畜産改良会発会
一九三九	〃　一四年	高富排水[illegible]功組合設立
一九四四	〃　一九年	美登位集乳所設立
一九四六	〃　二一年	農地委員会選挙実施
一九四七	〃　二二年	花畔新道部落五五町歩造田完成 第一回農地買収行われる 札幌作物報告事務所石狩出張所設置（二四年四月現在地に移る）
一九四八	〃　二三年	北生振五四町歩造田完成 農地改革完遂記念式典挙行 石狩町農協、花畔農協、生振農協設立 石狩町農業共済組合設立
一九四九	〃　二四年	南線地区造田完成（計画面積三二〇町） 樽川地区に一三戸入殖（親和）
一九五〇	〃　二五年	樽川地区（四二五町）志美地区（二二〇町） 生振（五〇二町）の造田完成（　） 道貸付牛二〇頭五ノ沢部落に入る 水稲、畑作物採種事業始まる
一九五一	〃　二六年	農業委員会発足
一九五三	〃　二八年	石狩町水稲採種研究会、全道共励会に全道一位、農林大臣賞を受ける
一九五五	〃　三〇年	全町土性調査実施 石狩河畔に町営牧場開設
一九五六	〃　三一年	高岡酪農振興組合結成
一九五七	〃　三二年	北生振地区造田（計画約七〇〇町）完成 石狩地域農山漁村振興協議会発足
一九五八	〃　三三年	町農村青少年クラブ連協結成
一九五九	〃　三四年	花畔幹線排水始まる 水稲採種組合と改称 畑作物採種組合設立
一九六〇	〃　三五年	樽川地区道営灌排事業着手（改修）北生振土地改良区独立 札幌酪農協樽川集乳所完成
一九六一	昭和三六年	水稲採種事業十周年記念大会開催 志美土地改良区　独立
一九六二	〃　三七年	極東第二開拓パイロット事業着工 石狩地方乳質改善共励会に樽川酪農組合団体最高位賞を受ける 石狩町酪農振興連絡協議会結成される 生振農協会館落成 道営花畔地区灌排事業着工（改修）
一九六三	〃　三八年	農業構造改善事業着工 道営北生振第二地区パイロット事業促進期成会発足 志美更生水防組合設立 国有貸付牛四七頭高岡、五ノ沢地区に導入
一九六四	〃　三九年	第一回石狩町農業まつり（二月十日より十二日） 道有貸付牝牛導入十五周年記念牛魂碑建立、五ノ沢地区草地造成改良事業実施、高岡地区二七・五ha花畔地区三五・六ha 花畔農協会館新築落成 樽川地区開拓地簡易水道完成二〇戸給水 冷害凶作 老衰溜池事業着工（地蔵沢堰堤）貯水量九〇万屯、受益面積二五〇ha 第二回石狩町農業まつり（功労者表彰及記念祝賀）十一月二十三日
一九六五	〃　四〇年	老衰溜池事業着工（五ノ沢堰堤）草地造成改良事業実施、樽川地区二六・二ha 北生振地区開拓地簡易水道完成一六戸給水 石狩町泥炭生産組合解散 石狩町営農対策本部及、営農技術特別指導班設置 北生振土地改良区団体営客土事業実施六一・八ha 霜害予防自衛隊出勤…五ノ沢

二十年に亘るこの仕事を通じ編者の痛感していることは、「確実といわれてきたことをもう一度疑つてみる」ということが大切なことであるということです。この年表もそういう観点から多くの方々によつて見直され、訂正され、より完成されたものになつてゆくことができましたら幸甚と存じます。

なお、この年表を発刊するにあたり、終始温かいご理解を賜つた鈴木町長、佐藤助役をはじめ、専門的なご指導をいただきました渡辺茂氏浄書、校正等に協力された町企画課の各位に対し、こゝに厚くお礼を申し上げます。

昭和四十三年三月

編者　田中　実

（現職）石狩町企画課長
石狩町史編集委員会事務局長

（所属）北海道郷土資料研究会
北海道史研究協議会
北海道考古学会